

Dell™ OptiPlex™ GX300システムユーザーズガイド

[はじめに](#)


[セットアップと操作](#)

[セットアップユーティリティ](#)

[アップグレードのインストール](#)

[トラブルシューティング](#)

[仕様](#)

 **メモ:** Dellのウェブサイト <http://www.dell.com/jp/support/>からこのマニュアルの最新版が得られます。


DCP、DCS、DCM、および MMPモデル

メモ、注意、警告

このマニュアルで使用されているシンボルなどの意味は、次のとおりです。これらのブロックはメモ、注意および警告で、以下のように使用しています。

 **メモ:** コンピュータを操作する上で、知っておくと便利な情報が記載されています。

注意: ハードウェアの損傷またはデータの損失の可能性があることを示します。また、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 問題を回避しないと、軽～中程度のけがを負う危険性があることを示します。

このマニュアルの内容は予告なく変更されることがあります。

©2000-2001 すべての著作権はDell Computer Corporationにあります。

Dell Computer Corporationからの書面による許可なしには、いかなる方法においてもこのマニュアルの複写、転載を禁じます。

このマニュアルに使用されている商標について: Dell, OptiPlex, OptiFrameDell OpenManage, Dimension, Latitude, Inspiron, DellWareおよびDELLのロゴはDell Computer Corporationの商標です。Microsoft, Windows, MS-DOS、およびWindows NTは、Microsoft Corporationの登録商標です。IntelおよびPentiumはIntel Corporationの登録商標であり、CeleronはIntel Corporationの商標です。3Comは、3Com Corporationの登録商標です。IBMおよびOS/2は、International Business Machines Corporationの登録商標です。NovellおよびNetWareは、Novell, Incの登録商標です。VESAはVideo Standards Associationの登録商標です。Dell Computer Corporationは、ENERGY STARと提携しており、本製品はENERGY STARのエネルギ効率に関するガイドラインに適合しています。

このマニュアルでは、上記以外の商標や会社名が使用されている場合があります。これらの商標や会社名は、一切Dell Computer Corporationに所属するものではありません。

初版発行: 1999年5月18日

最新改訂版: 2001年1月17日

[目次ページに戻る](#)

基本チェック: Dell™ OptiPlex™ GX300システム ユーザーズガイド

- [概要](#)
- [接続とスイッチのチェック](#)
- [ファイルのバックアップ](#)
- [目と耳での確認](#)
- [基本チェック](#)
- [セットアップユーティリティ](#)

概要

Dellコンピュータシステムが正しく動作していない場合で、何をすべきかわからない場合、この項に示す手順でトラブルシューティングを開始してください。この項では、コンピュータの基本的な問題点を解決するための基本ステップを示します。また、さらに複雑な問題点を解決するための詳しいトラブルシューティングの情報と手順も示します。


ファイルのバックアップ

システムの動作が不安定であれば、ただちにファイルのバックアップをとってください。システムにテープドライブが取り付けられている場合は、テープバックアップソフトウェアに付属のマニュアルのバックアップ操作の実行手順を参照してください。それ以外は、オペレーティングシステムマニュアルのデータファイルのバックアップ方法を参照してください。

基本チェック

問題が解決されるまで、次の各項の手順に従ってください。


- 1 コンピュータが濡れたり損傷を受けたときは、[濡れたコンピュータのトラブルシューティング](#)または[損傷を受けたコンピュータのトラブルシューティング](#)を参照してください。
- 1 「[接続とスイッチのチェック](#)」に示した手順を実行してください。
- 1 「[目と耳での確認](#)」に示した手順を実行してください。
- 1 システムが起動ルーチンを実行しなかった場合は、「[困ったときは](#)」を参照してください。

 **メモ:** オペレーティングシステムがハードディスクドライブまたは別の起動可能デバイス上の起動セクタからメモリヘファイルをロードしようとすることを起動ルーチンといいます。

- 1 システムがメッセージを表示したか、ピープコードを発した場合は、「[メッセージとコード](#)」を参照してください。
- 1 「[セットアップ項目](#)」に示した設定を確認してください。
- 1 「[Dell診断プログラム](#)」を実行してください。

接続とスイッチのチェック

ご使用のコンピュータ、モニター、その他の周辺機器(プリンタ、キーボード、マウスまたはその他の外付け装置)の最も考えられる問題として、スイッチやコントロールの不適切な設定、ケーブルのゆるみや不適切な接続などがあります。

 **メモ:** コンピュータの外付けの接続およびスイッチの位置については、「[ボタンとインジケータ](#)」と「[周辺機器の接続](#)」を参照してください。

すべての接続とスイッチをチェックするには、次の手順を実行します。

1. 接続されている周辺機器(モニター、キーボード、プリンタ、外付けドライブ、スキャナ、プロッタなど)と、システムをオフにします。
すべてのAC電源ケーブルをコンセントから抜きます。
2. コンピュータが電源タップに接続されている場合は、電源タップをオフにした後、もう一度オンにします。問題が解決されない場合は、別の電源タップに差し込んでみるか、コンセントにシステムを直接接続し、最初の電源タップに欠陥があるかどうかを確認します。
3. システムを別のコンセントに接続します。
これによって問題点が修正された場合、最初の電源に欠陥があります。
4. システムを電源に再接続します。すべての接続がしっかりおこなわれていることを確認し、システムをオンにします。

5. 問題が解決された場合、不完全な接続は修復されています。
6. モニタが正しく動作していない場合は、「[モニタのトラブルシューティング](#)」を参照してください。
7. キーボードが正しく動作していない場合は、「[キーボードのトラブルシューティング](#)」を参照してください。
8. マウスまたはプリンタが正しく動作していない場合は、「[入出力ポートのトラブルシューティング](#)」を参照してください。それ以外は、「[目と耳での確認](#)」に示した手順を実行してください。

目と耳での確認

目と耳でシステムの確認をおこなうことは、問題の原因をつきとめる上で重要です。目と耳での確認については、[表1](#)で説明します。

コンピュータを目と耳で確認した後も問題が解決されなかった場合は、「[セットアップユーティリティ](#)」に示した手順を実行してください。

表1. 起動ルーチンの表示

目と耳での確認の対象：	処置
エラーメッセージ	「 メッセージとコード 」を参照してください。
モニタの電源インジケータ	ほとんどのモニタには、電源インジケータ(通常は前面ベゼル上にある)が付いています。モニタの電源インジケータが点灯しないときは、「 モニタのトラブルシューティング 」を参照してください。
電源およびハードディスクドライブインジケータ	電源ボタンを押してコンピュータをオンにしてもシステムが起動しない場合は、「 電源およびハードディスクドライブインジケータ 」によってシステムの問題を確認します。
キーボードインジケータ	ほとんどのキーボードには、1つまたは複数のインジケータがあります(通常は右上角にあります)。キーボードインジケータをオン・オフにするには、<Num Lock>キー、<Caps Lock>キー、<Scroll Lock>キーを押します。キーボードインジケータが点灯しない場合は、「 キーボードのトラブルシューティング 」を参照してください。
ディスクドライブインジケータ	ディスクドライブインジケータは、ディスクドライブ上のデータにアクセスすると、小刻みに点滅します。Microsoft® Windows® オペレーティングシステムを実行するシステム上では、エクスプローラを開き、3.5インチ FD (Aドライブ)のアイコンをクリックすることによって、ドライブをテストすることができます。ディスクドライブインジケータが点灯しないときは、「 ドライブのトラブルシューティング 」を参照してください。
ハードディスクドライブインジケータ	ハードディスクドライブインジケータは、ハードディスクドライブ上のデータにアクセスすると、小刻みに点滅します。Windowsオペレーティングシステムを実行するシステム上では、エクスプローラを開き、ドライブCのアイコンをクリックすることによって、ドライブをテストすることができます。ハードディスクドライブインジケータが点灯しないときは、「 ドライブのトラブルシューティング 」を参照してください。
連続したビーブ音	「 メッセージとコード 」を参照してください。
ドライブにアクセスすると、聞き慣れないこする音やきしむ音が絶えず聞こえる。	音の発生原因が実行しているアプリケーションプログラムではないことを確認します。音の発生原因はハードウェアの不調である可能性があります。「 困ったときは 」を参照してテクニカルサポートまでお問い合わせください。
聞き慣れた音がしない。	システムをオンにすると、ハードディスクドライブが回転する音が聞こえ、システムはハードディスクドライブまたはディスクドライブから起動ファイルにアクセスしようとします。システムが起動した場合は、「 Dell診断プログラム 」を参照してください。システムが起動しない場合は、「 困ったときは 」を参照してください。

セットアップユーティリティ

「[セットアップユーティリティ](#)」で正しい設定を確認することによって、システム上の問題を簡単に修正できる場合があります。システムを起動すると、システムはシステム設定情報をチェックし、それを現在のハードウェア構成と比較します。システムハードウェア構成がセットアップユーティリティで記録された情報に一致しない場合、画面にエラーメッセージが表示されることがあります。

この問題は、システムのハードウェア構成を変更してセットアップユーティリティの実行を忘れた場合に発生することがあります。この問題を修正するには、セットアップユーティリティを起動し、対応するセットアップ項目の設定を修正し、システムを再起動します。

セットアップユーティリティの設定をチェックしても問題が解決されていない場合は、「[Dell診断プログラム](#)」を参照してください。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

バッテリー : Dell™ OptiPlex™ GX300システム ユーザーズガイド

- [概要](#)
- [バッテリーの交換](#)

概要

システム基板には3.0VのCR2032コイン型バッテリーが取り付けられており、システム設定、日付、時刻の情報をメモリの専用領域に保存します。

バッテリーの寿命は最長で10年です。コンピュータを起動したときに日付や時刻が間違っていたり、以下のメッセージが表示されたらバッテリーを交換してください。

```
Time-of-day not set - please run SETUP program  
(日時が設定されていません。セットアップユーティリティを実行してください。)
```

または

```
Invalid configuration information -  
please run SETUP program  
(設定情報が間違っています。セットアップユーティリティを実行してください。)
```

または

```
Strike the F1 key to continue,  
F2 to run the setup utility  
(作業を継続する場合は、<F1>キーを押してください。セットアップユーティリティを実行する場合は<F2>キーを押してください。)
```

バッテリーを交換しなければならないかどうかを判断するには、[セットアップユーティリティ](#)から日時を再入力し、プログラムを正しく終了して情報を保存します。次に、電源を切って、電源プラグを抜きます。2~3時間後に再びコンセントに差し込んで、電源を入れ、セットアップユーティリティを起動します。セットアップユーティリティで日付と時刻が間違っていたら、バッテリーを交換してください。

バッテリーなしでもシステムは使用できます。ただし、バッテリーがない場合、電源を切るかコンセントから電源プラグを抜くと、システム設定情報は消去されてしまいます。この場合、セットアップユーティリティを起動して、システム設定情報オプションを再設定する必要があります。



警告: バッテリーの取り付け方を誤ると、バッテリーが破裂する恐れがあります。バッテリーは必ず、メーカー推奨品と同一または同じタイプのもので交換してください。使用済みバッテリーは、メーカーの指示に従って廃棄してください。



メモ: システムから周辺機器の接続を外す場合、またはシステム基板からコンポーネントを取り外す場合は、事前にシステム基板上のスタンバイ電源のLED(light-emitting diode)がオフになっていることを確認してください。LEDの位置は「コンピュータの内部」の[図3](#)を参照してください。

バッテリーの交換

システムバッテリーを交換するには、以下の手順に従ってください。



警告: コンピュータカバーを取り外す前に、「[作業にあたっての注意](#)」を参照してください。

1. [セットアップユーティリティ](#)のシステム設定情報のコピーを作成していなければ、そのコピーを作成します。

バッテリー交換中に設定内容が失われてしまった場合は、書き留めておいたシステム設定情報、または印刷したシステム設定情報を参照して、正しい設定内容に復元してください。

2. 「[コンピュータカバーの取り外しと取り付け](#)」の手順に従い、コンピュータカバーを取り外します。
3. 「[AGPカードブレースの取り外しと取り付け](#)」の順に従い、AGPカードブレースを取り外します。
4. バッテリーを取り外します。

バッテリーの位置については、「コンピュータの内部」の[図3](#)を参照してください。

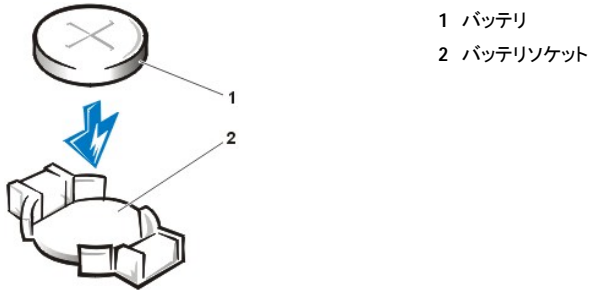
注意: 道具(先端の鋭くないものを使用してください)を使用して、バッテリーをソケットから取り出す場合は、道具がシステム基板に触れないよう注意してください。必ず、バッテリーとバッテリーソケットの間に道具を差し込んでから、バッテリーを取り出してください。これを怠ると、バッテリーソケットが外れたり、システム基板の回路を切断したりして、システム基板に損傷を与える恐れがあります。

プラスチック製のドライバなどのように先端部の鋭くない非導電性の道具、または指を使ってバッテリーをバッテリーソケットから取り外します。

5. 新しいバッテリーを取り付けます。

バッテリーの「+」のラベルが付いた面を上に向けます(図1を参照)。次に、バッテリーをソケットに入れ、カチッと音がするまで押し込みます。

図1. システムバッテリーの交換



6. AGPカードブレースを取り付けます。
7. コンピュータカバーを取り付け、コンピュータと周辺機器の電源プラグをコンセントに差し込み、電源を入れます。
8. [セットアップユーティリティ](#)を起動し、バッテリーが正しく動作しているかどうかを確認します。

セットアップユーティリティの **System Time** および **System Date** 項目に正確な時刻と日付を入力します。また、[手順1](#)で作成したメモを見て、他のセットアップユーティリティ項目の設定内容を正しく復元します。その後、セットアップユーティリティを終了します。

9. コンピュータの電源を切り、プラグを抜きます。コンピュータの電源を10分以上切ったままにします。
10. 10分後、電源プラグをコンセントに差し込みコンピュータの電源を入れ、セットアップユーティリティを起動します。日時がまだ正しくない場合は、[「困ったときは」](#)を参照してテクニカルサポートまでお問い合わせください。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

Dellへのお問い合わせ: Dell™ OptiPlex™ GX300システムユーザーズガイド

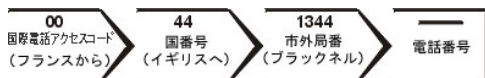
- [概要](#)
- [国際電話アクセスコード](#)
- [南北アメリカお問い合わせ番号](#)
- [ヨーロッパお問い合わせ番号](#)
- [アジアおよびその他の地域のお問い合わせ番号](#)

概要

Dellへお問い合わせになる場合は、次の電話番号、電子アドレスをご利用ください。「[国際電話コード](#)」は、長距離電話と国際電話をおかけになる際に必要な番号の一覧です。「[南北アメリカお問い合わせ番号](#)」、「[ヨーロッパお問い合わせ番号](#)」、および「[アジアおよびその他の地域のお問い合わせ番号](#)」は、世界各国の支所またはサービス拠点の、市外局番、フリーダイヤル番号、ウェブサイトおよび電子メールアドレスの一覧です。

海外へおかけになる場合は、電話番号に加えて「[国際電話コード](#)」が必要となります。


たとえば、フランスのパリからイギリスのブラックネルへ電話する場合は、次の図のように、フランス国内で指定の国際電話アクセスコード、イギリスの国番号、ブラックネルの市外局番、最後に電話番号になります。



国内の長距離電話の場合は、国際電話アクセスコード、国番号を省略し、受信先の市外局番から使用します。たとえば、フランスのモンペリエからフランスのパリへ電話する場合は、次の図のように、市外局番、電話番号の順にダイヤルします。



どのコードを選択するかは、どこから電話をかけるか、また受信先によっても異なります。さらに、国によって国際電話のかけ方も変わってきます。国際電話のかけ方については、国内または国際電話会社にお問い合わせください。

 **メモ:**フリーダイヤル番号は、その番号が記載されている国でのみ使用できます。市外局番は、国内長距離電話の際にご使用ください。

国際電話コード

お問い合わせ番号を確認するには、それぞれの国をクリックしてください。

国(都市)	国際電話アクセスコード	国番号	市外局番
オーストラリア (シドニー)	0011	61	2
オーストリア (ウィーン)	900	43	1
ベルギー (ブリュッセル)	00	32	2
ブラジル	0021	55	51
ブルネイ	—	673	—
カナダ (オンタリオ州、ノースヨーク)	011	—	不要
チリ (サンティアゴ)	—	56	2
中国 (厦門)	—	86	592
チェコ共和国 (プラハ)	00	420	2
デンマーク (オスロ)	009	45	不要
フィンランド (ヘルシンキ)	990	358	9
フランス (パリ)(モンペリエ)	00	33	(1) (4)
ドイツ (ランゲン)	00	49	6103
香港	001	852	不要
アイルランド (チェリーウッド)	16	353	1

イタリア(ミラノ)	00	39	02
日本(川崎)	001	81	44
韓国(ソウル)	001	82	2
ルクセンブルグ	00	352	—
マカオ	—	853	不要
マレーシア(ベナン)	00	60	4
メキシコ(コロニアグラナダ)	95	52	5
オランダ(アムステルダム)	00	31	20
ニュージーランド	00	64	—
ノルウェー(リサケー)	095	47	不要
ポーランド(ワルシャワ)	011	48	22
ポルトガル	00	35	—
シンガポール(シンガポール)	005	65	不要
南アフリカ(ヨハネスブルグ)	09/091	27	11
スペイン(マドリッド)	00	34	91
スウェーデン(アップランズヴェスビー)	009	46	8
スイス(ジュネーブ)	00	41	22
台湾	002	886	—
タイ	001	66	—
イギリス(ブラックネル)	010	44	1344
米国(テキサス州オースチン)	011	1	不要

南北アメリカお問い合わせ番号

国(都市)	部署名またはサービス内容	市外局番	市内番号またはフリーダイヤル
ブラジル	カスタマーサポート、テクニカルサポート		フリーダイヤル: 0800 90 3355
	セールス		フリーダイヤル: 0800 90 3366
	ウェブサイト: http://www.dell.com/br		
カナダ (オンタリオ州ノースヨーク)	自動オーダーステータスシステム		フリーダイヤル: 1-800-433-9014
	AutoTech(自動テクニカルサポート)		フリーダイヤル: 1-800-247-9362
	カスタマーケア(トロント市外から)		フリーダイヤル: 1-800-387-5759
	カスタマーケア(トロント市内から)	416	758-2400
	カスタマーテクニカルサポート		フリーダイヤル: 1-800-847-4096
	セールス(ダイレクトセールス、トロント市外から)		フリーダイヤル: 1-800-387-5752
	セールス(ダイレクトセールス、トロント市内から)	416	758-2200
	セールス(連邦政府、教育、医療)		フリーダイヤル: 1-800-567-7542
	セールス(大口顧客)		フリーダイヤル: 1-800-387-5755
	TechFax		フリーダイヤル: 1-800-950-1329
チリ (サンティアゴ)	セールス、カスタマーケア、テクニカルサポート		フリーダイヤル: 1230-020-4823
	メモ: チリからセールス、カスタマーケア、テクニカルサポートにお問い合わせの場合は米国の番号をご利用ください。		
ラテンアメリカ	カスタマーテクニカルサポート(米国、テキサス州オースチン)	512	728-4093
	メモ: ラテンアメリカからセールス、カスタマーケア、テクニカルサポート	512	728-3619

ニカルサポートにお問い合わせの場合は米国の番号をご利用ください。	Fax(テクニカルサポートおよびカスタマーケア) (米国、テキサス州オースチン)	512	728-3883
	セールス (米国、テキサス州オースチン)	512	728-4397
	セールスFax (米国、テキサス州オースチン)	512	728-4600 728-3772
メキシコ (コロンビアグラナダ) メモ: メキシコから自動応答システムおよびAutoTechに お問い合わせの場合は米 国の番号をご利用ください。	自動オーダーステータスシステム(米国、テキサス州オースチン)	512	728-0685
	Auto Tech(自動テクニカルサポート)(米国、テキサス州オースチン)	512	728-0686
	カスタマーテクニカルサポート	525	228-7870
	セールス	525	228-7811 フリーダイヤル: 91-800-900-37 フリーダイヤル: 91-800-904-49
	カスタマーケア	525	228-7878
	代表	525	228-7800
米国 (テキサス州オースチン)	自動オーダーステータスシステム		フリーダイヤル: 1-800-433-9014
	AutoTech(ノートブックおよびデスクトップコンピュータ用)		フリーダイヤル: 1-800-247-9362
	Dell Home and Small Businessグループ(ノートブックおよびデスクトップコンピュータ用):		
	カスタマーテクニカルサポート(製品返送確認ナンバー)		フリーダイヤル: 1-800-624-9896
	カスタマーテクニカルサポート (http://www.dell.comから購入の個人のお客様用)		フリーダイヤル: 1-877-576-3355
	カスタマーケア (返金確認ナンバー)		フリーダイヤル: 1-800-624-9897
	ナショナルアカウント システムをお求めになったDell既定のナショナルアカウントのお客様(アカウントナンバーをお手元にご用意ください)、医療機関、または VAR (value-added reseller) の場合:		
	カスタマーケアおよびテクニカルサポート(製品返送確認ナンバー)		フリーダイヤル: 1-800-822-8965
	Public Americasインターナショナル (Dellシステムをお求めになった政府機関または教育機関の場合):		
	カスタマーケアおよびテクニカルサポート(製品返送ナンバー)		フリーダイヤル: 1-800-234-1490
	Dellセールス		フリーダイヤル: 1-800-289-3355 フリーダイヤル: 1-800-879-3355
	交換部品販売		フリーダイヤル: 1-800-357-3355
	DellWare™		フリーダイヤル: 1-800-753-7201
	有料テクニカルサポート(デスクトップおよびノートブック)		フリーダイヤル: 1-800-433-9005
	サーバ有料テクニカルサポート		フリーダイヤル: 1-800-967-0765
	セールス(カタログ)		フリーダイヤル: 1-800-426-5150
	Fax		フリーダイヤル: 1-800-727-8320
	TechFax		フリーダイヤル: 1-800-950-1329
	聴覚・言語障害者のためのサービス		フリーダイヤル: 1-877-DELLTTY (1-877-335-5889)
	代表	512	338-4400

ヨーロッパお問い合わせ番号

国(都市)	部門名またはサービス	市外局番	市内番号またはフリーダイヤル
オーストリア (ウィーン) メモ: オーストリアで使用する場合は、テクニカルサポートについてはドイツのランゲンの電話番号をご利用ください。	代表	01	491 040
	Home/Small Businessセールス	01	795676-02
	Home/Small Business セールス Fax	01	795676-05
	Home/Small Business カスタマーケア	01	795676-03
	優先アカウント/法人カスタマーケア		0660-8056

	Home/Small Business テクニカルサポート	01	795676-04
	優先アカウント/法人テクニカルサポート		0660-8779
	Webサイト http://support.euro.dell.com		
	電子メール: tech_support_central_europe@dell.com		
ベルギー (ブリュッセル)	テクニカルサポート	02	481 92 88
	カスタマーケア	02	481 91 19
	Home/Small Businessセールス		フリーダイヤル:0800 16884
	法人セールス	02	481 91 00
	Fax	02	481 92 99
	代表	02	481 91 00
	Webサイト: http://support.euro.dell.com		
	電子メール: tech_be@dell.com		
チェコ共和国 (プラハ)	テクニカルサポート	02	22 83 27 27
	カスタマーケア	02	22 83 27 11
	Fax	02	22 83 27 14
	TechFax	02	22 83 27 28
	代表	02	22 83 27 11
	Webサイト: http://support.euro.dell.com		
	電子メール: czech_dell@dell.com		
	デンマーク (オスロ)	テクニカルサポート	
リレーショナルカスタマーケア(OptiPlex、Workstation、Latitude)			45170184
Home/Small Business カスタマーケア			32875505
代表			45170100
Faxテクニカルサポート(スウェーデン、アップランズヴェズビー)			859005594
Fax代表			45170117
Webサイト: http://support.euro.dell.com			
電子メール: den_support@dell.com			
フィンランド (ヘルシンキ)	テクニカルサポート	09	253 313 60
	テクニカルサポート Fax	09	253 313 81
	リレーショナルカスタマーケア(OptiPlex、Workstation、Latitude)	09	253 313 38
	Home/Small Business カスタマーケア	09	693 791 94
	Fax	09	253 313 99
	代表	09	253 313 00
	Webサイト: http://support.euro.dell.com		
	電子メール: fin_support@dell.com		
フランス (パリ・モンペリエ)	Home/Small Business		
	テクニカルサポート	0825	387 270
	カスタマーケア	0825	823 833
	Fax	0825	004 701
	代表	0825	004 700
	代表(選択可)	04	99 75 40 00
	セールス	0825	004 700
	Webサイト: http://support.euro.dell.com		
	電子メール: web_fr_tech@dell.com		
	法人		

	テクニカルサポート	0825	004 719
	カスタマーケア	0825	338 339
	Fax	01	55 94 71 99
	代表	01	55 94 71 00
	セールス	01	55 94 71 00
	Webサイト: http://support.euro.dell.com		
	電子メール: web_fr_tech@dell.com		
ドイツ (ランゲン)	テクニカルサポート	06103	766-7200
	Home/Small Business カスタマーケア		0180-5-224400
	グローバルカスタマーケア	06103	766-9570
	優先アカウントカスタマーケア	06103	766-9420
	大口アカウントカスタマーケア	06103	766-9560
	公共機関アカウントカスタマーケア	06103	766-9555
	代表	06103	766-7000
	Webサイト: http://support.euro.dell.com		
	電子メール: tech_support_central_europe@dell.com		
アイルランド (チェリーウッド)	テクニカルサポート		0870 908 0800
	カスタマーケア	01	204 4026
	セールス	01	286 0500
	セールスFax	01	204 0144
	Fax		0870 907 5590
	代表	01	286 0500
	ウェブサイト: http://support.euro.dell.com		
	電子メール: dell_direct_support@dell.com		
イタリア (ミラノ)	Home/Small Business		
	テクニカルサポート	02	577 826 90
	カスタマーケア	02	696 821 14
	Fax	02	696 824 13
	代表	02	696 824 12
	Webサイト: http://support.euro.dell.com		
	電子メール: web_it_tech@dell.com		
	法人		
	テクニカルサポート	02	577 826 90
	カスタマーケア	02	577 825 55
	Fax	02	575 035 30
	代表	02	577 821
	Webサイト: http://support.euro.dell.com		
	電子メール: web_it_tech@dell.com		
ルクセンブルグ メモ: ルクセンブルグから、セールス、カスタマーケア、およびテクニカルサポートにお問い合わせの場合はベルギーの番号をご利用ください	テクニカルサポート(ベルギー、ブリュッセル)	02	481 92 88
	Home/Small Business セールス (ベルギー、ブリュッセル)		フリーダイヤル: 080016884
	法人セールス (ベルギー、ブリュッセル)	02	481 91 00
	カスタマーケア(ベルギー、ブリュッセル)	02	481 91 19
	代表(ベルギー、ブリュッセル)	02	481 91 00

い。	Fax(ベルギー、ブリュッセル)	02	481 92 99
	Webサイト: http://support.euro.dell.com		
	電子メール: tech_be@dell.com		
オランダ (アムステルダム)	テクニカルサポート	020	581 8838
	カスタマーケア	020	581 8740
	Home/Small Businessセールス		フリーダイヤル: 0800-0663
	Home/Small Business セールスFax	020	682 7171
	法人セールス	020	581 8818
	法人セールスFax	020	686 8003
	Fax	020	686 8003
	代表	020	581 8818
	Webサイト: http://support.euro.dell.com		
	電子メール: tech_nl@dell.com		
ノルウェー (リサケー)	テクニカルサポート		671 16882
	リレーションナルカスタマーケア (OptiPlex、Workstation、Latitude)		671 17514
	Home/Small Business カスタマーケア		231 62298
	代表		671 16800
	Faxテクニカルサポート(スウェーデン、アップランズヴェズビー)		590 05 594
	Fax代表		671 16865
	Webサイト: http://support.euro.dell.com		
	電子メール: nor_support@dell.com		
ポーランド (ワルシャワ)	テクニカルサポート	22	57 95 700
	カスタマーケア	22	57 95 999
	セールス	22	57 95 999
	代表	22	57 95 999
	Fax	22	57 95 998
	Webサイト: http://support.euro.dell.com		
	電子メール: pl.support@dell.com		
ポルトガル	テクニカルサポート	35	800 834 077
	カスタマーケア	34	902 118 540
		35	または 800 834 075
	セールス	35	800 834 075
	代表	34	917 229 200
	Fax	35	121 424 01 12
	電子メール: es_support@dell.com		
スペイン (マドリード)	Home/Small Business		
	テクニカルサポート		902 100 130
	カスタマーケア		902 118 540
	代表		902 118 541
	Fax		902 118 539
	Webサイト: http://support.euro.dell.com		
	電子メール: web_esp_tech@dell.com		
	法人		
	テクニカルサポート		902 100 130
	カスタマーケア		902 118 546
	代表	91	722 92 00
	Fax	91	722 95 83

	Webサイト: http://support.euro.dell.com		
	電子メール: web_esp_tech@dell.com		
スウェーデン (アップランズヴェスビー)	テクニカルサポート	08	590 05 199
	リレーショナルカスタマーケア(OptiPlex、Workstation、Latitude)	08	590 05 642
	Home/Small Business カスタマーケア	08	587 70 527
	Faxテクニカルサポート	08	590 05 594
	セールス	08	590 05 185
	Webサイト: http://support.euro.dell.com		
	電子メール: swe_support@dell.com		
スイス (ジュネーブ)	テクニカルサポート (Home/Small Business)		0844 811 411
	テクニカルサポート(法人)		0844 822 844
	カスタマーケア (Home/Small Business)		0848 802 202
	カスタマーケア(法人)		0848 821 721
	代表	022	799 01 01
	Fax	022	799 01 90
	Webサイト: http://support.euro.dell.com		
	電子メール: swisstech@dell.com		
イギリス (ブラックネル)	テクニカルサポート(法人/優先アカウント/PAD[従業員1000名以上])		0870 908 0500
	テクニカルサポート(ダイレクト/PADおよび一般)		0870 908 0800
	グローバルアカウントカスタマーケア	01344	723186
	法人カスタマーケア	01344	723185
	優先アカウントカスタマーケア(従業員 500-5000名)	01344	723196
	中央政府機関カスタマーケア	01344	723193
	地方政府機関カスタマーケア	01344	723194
	Home/Small Businessセールス		0870 907 4000
	法人/公共機関セクターセールス	01344	860456
	Webサイト: http://support.euro.dell.com		
	電子メール: dell_direct_support@dell.com		

アジアおよびその他地域のお問い合わせ番号

国(都市)	部署名またはサービス内容	市外局番	市内番号またはフリーダイヤル
オーストラリア (シドニー)	Home/Small Business		1-300-65-55-33
	Government/Business		フリーダイヤル: 1-800-633-559
	PAD(優先アカウント部門)		フリーダイヤル: 1-800-060-889
	カスタマーケア		フリーダイヤル: 1-800-819-339
	法人セールス		フリーダイヤル: 1-800-808-385
	Dimension/Inspironセールス		フリーダイヤル: 1-800-808-312
	Fax		フリーダイヤル: 1-800-818-341
ブルネイ メモ:ブルネイから、カスタマーケアにお問い合わせの場合はマレーシアの番号をご利用ください。	カスタマーテクニカルサポート (マレーシア、ペナン)		604 633 4966
	カスタマーケア (マレーシア、ペナン)		604 633 4949
	Dimension/Inspironセールス(マレーシア、ペナン)		604 633 4955
中国 (廈門)	テクニカルサポート		フリーダイヤル: 800 858 2437
	カスタマーエクスペリエンス		フリーダイヤル: 800 858 2060
	Home/Small Business		フリーダイヤル: 800 858 2222

	優先アカウント部門		フリーダイヤル: 800 858 2062
	大口法人アカウント		フリーダイヤル: 800 858 2999
香港 メモ: 香港から、カスタマーケアにお問い合わせの場合はマレーシアの番号をご利用ください。	テクニカルサポート		フリーダイヤル: 800 96 4107
	カスタマーケア(マレーシア、ベナン)		604 633 4949
	Dimension/Inspironセールス		フリーダイヤル: 800 96 4109
	法人セールス		フリーダイヤル: 800 96 4108
日本 (川崎)	テクニカルサポート(サーバ)		フリーダイヤル: 0120-1984-35
	テクニカルサポート(Dimension™および Inspiron™)		フリーダイヤル: 0120-1982-26
	テクニカルサポート(海外から) (Dimensionおよび Inspiron)	81-44	520-1435
	テクニカルサポート(ワークステーション、OptiPlex™、および Latitude™)		フリーダイヤル: 0120-1984-33
	テクニカルサポート(海外から) (ワークステーション、OptiPlex、およびLatitude)	81-44	556-3894
	カスタマーケア	044	556-4240
	24時間納期情報案内サービス	044	556-3801
	ダイレクトセールス部	044	556-3344
	法人営業部	044	556-3433
	LCA営業部	044	556-3430
	Faxboxサービス	044	556-3490
	代表	044	556-4300
	ウェブサイト: http://support.jp.dell.com		
	韓国 (ソウル)	テクニカルサポート	
セールス			フリーダイヤル: 080-200-3777
カスタマーケア(マレーシア、ベナン)			604-633-4949
カスタマーケア(ソウル、韓国)			2194-6220
Fax			2194-6202
代表			2194-6000
マカオ メモ: マカオからカスタマーケアにお問い合わせの場合はマレーシアの番号をご利用ください。	テクニカルサポート		フリーダイヤル: 0800 582
	カスタマーケア(マレーシア、ベナン)		604 633 4949
	Dimension/Inspironセールス		フリーダイヤル: 0800 581
マレーシア (ベナン)	テクニカルサポート		フリーダイヤル: 1 800 888 298
	カスタマーケア	604	633 4949
	Dimension/Inspironセールス		フリーダイヤル: 1 800 888 202
	法人セールス		フリーダイヤル: 1 800 888 213
ニュージーランド	Home/Small Business		0800 446 255
	Government/Business		0800 444 617
	セールス		0800 441 567
	Fax		0800 441 566
シンガポール (シンガポール) メモ: シンガポールからカスタマーケアにお問い合わせの場合はマレーシアの番号をご利用ください。	テクニカルサポート		フリーダイヤル: 800 6011 051
	カスタマーケア(マレーシア、ベナン)	604	633 4949
	Dimension/Inspironセールス		フリーダイヤル: 800 6011 054
	法人セールス		フリーダイヤル: 800 6011 053
南アフリカ (ヨハネスブルグ)	テクニカルサポート	011	709 7710
	カスタマーケア	011	709 7707

	セールス	011	709 7700
	Fax	011	706 0495
	代表	011	709 7700
	Webサイト: http://support.euro.dell.com		
	電子メール: dell_zs_support@dell.com		
東南アジア/太平洋各国 (オーストラリア、ブルネイ、中国、香港、日本、韓国、マカオ、マレーシア、ニュージーランド、シンガポール、台湾、タイを除く - これらの国々については個々のリストを参照してください)。	カスタマーテクニカルサポート、カスタマーケア、セールス(マレーシア、ペナン)		604 633-4810
台湾	テクニカルサポート		フリーダイヤル: 0080 60 1225
	テクニカルサポート(サーバ)		フリーダイヤル: 0080 60 1256
	カスタマーケア(ペナン、マレーシア)		633-4949
	Dimension/Inspironセールス		フリーダイヤル: 0080 651 228/0800 33 556
	法人セールス		フリーダイヤル: 0080 651 227/0800 33 555
タイ メモ: タイからカスタマーケアにお問い合わせの場合はマレーシアの番号をご利用ください。	テクニカルサポート		フリーダイヤル: 088 006 007
	カスタマーケア(マレーシア、ペナン)		604 633 4949
	セールス		フリーダイヤル: 088 006 009

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

Dell™ 診断プログラム: Dell™ OptiPlex™ GX300システムユーザーズガイド

- [概要](#)
- [Dell診断プログラムの起動](#)
- [Dell診断プログラムの特徴](#)
- [Dell診断プログラムのメイン画面の概要](#)
- [いつDell診断プログラムを使用するか](#)
- [システム設定情報の確認](#)
- [テストを始める前に](#)
- [Dell診断プログラムの使い方](#)

概要

Dell診断プログラムは、一般の多くの診断プログラムとは異なり、コンピュータのハードウェアのチェックをおこなう際に、専用の装置を使う必要もなく、またデータを破壊することはありません。診断プログラムを使用することによって、コンピュータシステムの動作の信頼性を高めることができます。ユーザー自身では解決できない問題が見つかった場合、診断テストを実行すれば、Dellのテクニカルサポートの担当者が適切な技術サポートをおこなうための重要な情報が得られます。

注意: Dell診断プログラムは、Dellコンピュータシステム専用のもので、このプログラムを他のコンピュータで使用すると、コンピュータが間違った反応を示したり、エラーメッセージが表示されることがあります。

Dell診断プログラムの特徴

Dell診断プログラムには、特定のテストグループまたはサブテストを選択するための一連のメニューと項目があります。テストを実行する順序をご自身で調整してください。診断テストグループまたはサブテストには、次の有効な機能があります。

- 1. テストを個別に実行するか、またはまとめて実行するかを選択できます。
- 1. テストグループまたはサブテストを繰り返す回数が設定できます。
- 1. テスト結果の画面への表示、印刷、ファイルへの保存ができます。
- 1. エラーが検出された場合に一時的にテストを中断したり、エラーがあらかじめ設定された数に達したときに自動的にテストを終了するように設定できます。
- 1. Devicesというメニュー項目で、各テストとそのパラメータについて簡単に説明します。
- 1. Configというメニュー項目で、選択したデバイスグループ内のデバイスの構成について説明します。
- 1. テストグループまたはサブテストが正常終了したかどうかを知らせるステータスメッセージを表示します。
- 1. 問題が検出されたときに、エラーメッセージを表示します。

いつDell診断プログラムを使用するか

コンピュータの主要コンポーネントやデバイスが正しく機能しないときは、それらが故障している可能性があります。コンピュータのマイクロプロセッサと入出力装置（モニター、キーボード、ディスクドライブ）が機能しているときは、診断プログラムを使用して問題を調べることができます。コンピュータに関する詳しい知識があり、どのコンポーネントをテストしたらよいかをご存知の場合は、対応するテストグループまたはサブテストを選択し実行してください。どこから診断テストを始めたらいかが分からない場合は、まず本項を最後までよくお読みください。

テストを始める前に

プリンタを接続している場合はプリンタに電源を入れ、プリンタがオンラインになっていることを確認します。セットアップユーティリティを起動し、コンピュータのシステム設定情報を確認し、ポートなどのすべてのコンポーネントとデバイスを有効にします。

プログラムの起動と使い方の手順については、「[セットアップユーティリティの使い方](#)」を参照してください。

Dell診断プログラムの起動

前項で説明されている準備作業を完了した後、次の手順に従って診断プログラムを起動します。

1. システムの電源を切ります。

2. システムを再起動してセットアップユーティリティを実行し、画面の指示に従って<F2>を押します。
3. 全ての部分が有効になっているか確認します。またBoot SequenceがIDE CD-ROM Deviceに設定されているかも確認します。
4. Dell ResourceCDをCD-ROMに挿入し、<Alt>を押してシステムを再起動します。
5. 項目1のStart computer to run Dell Diagnosticsを選択し、<Enter>を押します。
6. 32ビット診断プログラム用の項目を選択します。

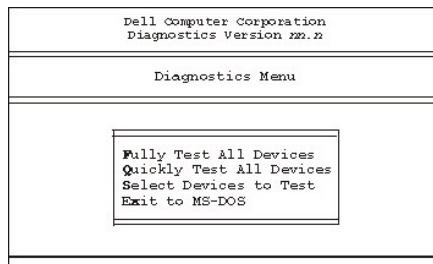
診断プログラムを起動すると、Dellロゴ画面が表示され、その後に診断プログラムがロードされていることを示すメッセージが表示されます。

診断プログラムがロードされると、Diagnostics Menu(診断プログラムメニュー)が表示されます(図1を参照)。このメニューで、すべてまたは特定の診断テストを実行したり、MS-DOS® プロンプトの状態に戻ることができます。

システムのクイックチェックを行う場合は、Quickly Test All Devices項目を選択します。この項目は、ユーザーの介入を必要としないサブテストと、実行に長い時間がかからないサブテストのみを実行します。Dellでは、まずこの項目を選択して問題の原因を早期に確認することをお勧めしています。システム全体のチェックを行う場合は、Fully Test All Devices項目を選択します。システムの特定の領域をチェックする場合は、Select Devices to Test項目を選択します。

このメニューから項目を選択するときは、項目をハイライト表示し、<Enter>を押すか、選択する項目でハイライト表示された文字に対応するキーを押します。

図1. 診断プログラムメニュー



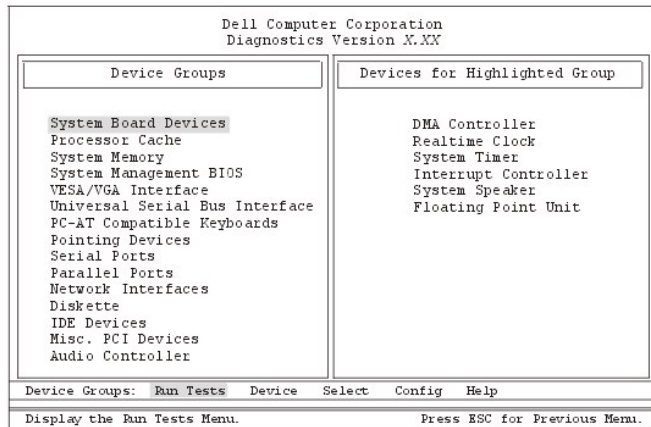
Dell診断プログラムのメイン画面の概要

Diagnostics MenuからSelect Devices to Testを選択すると、診断プログラムのメイン画面が表示されます(図2を参照)。メイン画面には、診断テストデバイスグループと、選択したデバイスグループのデバイスが表示されており、また、メニューから項目を選択することができます。この画面から、メイン画面にアクセスすることができます。

診断プログラムのメイン画面上には、以下の領域にそれぞれの情報が表示されています。

- 1 画面の最上部の2行には、Dell診断プログラムのバージョンナンバーが表示されます。
- 1 画面の左側で、Run Testsメニュー項目からAllを選択すると、Device Groups領域に診断テストグループが実行順に表示されます。<↑>キーまたは<↓>キーを押してテストデバイスグループをハイライト表示します。
- 1 画面の右側は、Devices for Highlighted Group領域になっており、現在検出されているコンピュータのハードウェア構成と、いくつかの関連する設定が表示されます。
- 1 画面の最下部の2行は、メニュー領域になっています。1行目には、選択できる項目が表示されます。<←>キーまたは<→>キーを押してメニュー項目をハイライト表示します。2行目には、現在ハイライト表示されている項目に関する情報が表示されます。

図2. Dell診断プログラムのメイン画面



システム設定情報の確認

診断プログラムディスクからシステムを起動すると、診断プログラムはシステム設定情報をチェックし、メイン画面のDevice Groups領域にその情報を表示します。

次のソースは、診断プログラムに対してこの設定情報を提供します。

- 1 セットアップユーティリティの使用中に選択したシステム設定情報の設定値([NVRAM])に保存されています)
- 1 マイクロプロセッサ、ビデオコントローラ、キーボードコントローラおよびその他の主要部品の識別テスト
- 1 RAMに一時的に保存されている、基本的なBIOS設定情報

コンピュータに取り付けられているすべての部品またはデバイスの名前が、Device Groups領域に表示されない場合があります。たとえば、プリンタがコンピュータに接続されていても、そのプリンタ名は表示されません。その代わりに、プリンタはパラレルポートとして表示されます。コンピュータは、そのパラレルポートをLPT1と認識します。このLPT1は、発信情報の送信先と着信情報の送信元をコンピュータに伝えるアドレスです。ご使用のプリンタはパラレル通信デバイスなので、コンピュータはプリンタのLPT1アドレスでプリンタを認識し、パラレルポートとして識別します。Parallel Portsテストでプリンタの接続をテストすることができます。

Dell診断プログラムの使い方

6つのわかりやすいメニュー選択方式のオンラインヘルプ項目は、プログラムの使い方の手順を示し、メニュー項目、テストグループ、サブテスト、テスト結果についてそれぞれ説明します。Helpメニューを起動するには、以下の手順を実行します。

1. Diagnostics MenuのSelect Devices to Testをハイライト表示します。
2. <Enter>キーを押します。
3. <h>キーを押します。

6つのHelpメニュー項目は、[Menu](#)、[Keys](#)、[Device Group](#)、[Device](#)、[Test](#)および [Versions](#)です。オンラインヘルプは、テストするデバイスの詳細説明も示します。以降では、Helpメニュー項目について説明します。

Menu項目

Menuヘルプ項目は、メインメニュー画面領域、デバイスグループ、様々な診断メニューやコマンドについて説明するほか、それらの使い方を指示します。

Keys項目

Keysヘルプ項目は、Dell診断プログラムで使用できるすべてのキーストロークの機能について説明します。

Device Group項目

Device Groupヘルプ項目は、メインメニュー画面のDevice Groupsリストで現在ハイライト表示されているテストグループについて説明します。また、いくつかのテストを使用する理由も示します。

Device項目

Deviceヘルプ項目は、オンラインヘルプの教育的な部分です。この項目は、Device Groups内にハイライト表示されているデバイスの機能と目的について説明します。たとえば、Device GroupsリストでDisketteのDeviceヘルプ項目を選択すると、次の情報が表示されます。

Diskette drive A:

The diskette disk drive device reads and writes data to and from diskettes. Diskettes are flexible recording media, sometimes contained in hard shells. Diskette recording capacities are small and access times are slow relative to hard disk drives, but they provide a convenient means of storing and transferring data.

(ディスクドライブは、ディスクとの間でデータを読み書きします。ディスクは融通のきく記録媒体で、ハードシェルに組み込まれている場合があります。ディスクの記録機能は小さく、アクセス時間はハードディスクドライブに比べて低速ですが、データの保存と転送に便利な手段です。)

Test項目

Testヘルプ項目は、現在ハイライト表示されている各サブテストのテスト手順を詳細に説明します。たとえば、Disketteデバイスグループのサブテスト **Diskette Drive Seek Test**は、次の情報を表示します。

Diskette drive A: - Diskette Drive Seek Test

This test verifies the drive's ability to position its read/write heads. The test operates in two passes: first, seeking from the beginning to ending cylinders inclusively, and second, seeking alternately from the beginning to ending cylinders with convergence towards the middle.

(このテストは、読み書きヘッドの位置を設定するドライブの機能を確認します。テストは2つのパスで動作します。第1に、開始シリンダから終了シリンダまでチェックし、第2に、開始シリンダから終了シリンダまで交互にチェックし、中央へ収束します。)

Versions項目

Versionsヘルプ項目は、Dell診断プログラムで使用されるサブテストのバージョンナンバーを表示します。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

ディスクドライブ、テープドライブ、およびCD-ROMドライブ: Dell™ OptiPlex™ GX300システム ユーザーズガイド

5.25インチドライブにディスクドライブ、テープドライブ、またはCD-ROMドライブを取り付けるには、以下の手順を実行します。

⚠ 警告: コンピュータカバーを取り外す前に、「[作業にあたっての注意](#)」をお読みください。

1. ドライブを箱から出して、取り付けの準備をします。

注意: コンピュータの背面の塗装されていない金属面に触れて、身体の静電気を逃します。

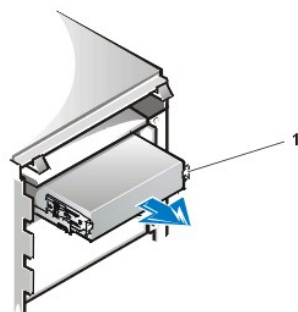
ドライブ付属のマニュアルを参照して、ドライブの設定がご使用のシステムに合っていることを確認します。必要に応じて、ドライブの設定を変更します。

2. EIDEドライブを取り付ける場合は、ドライブ付属のマニュアルを参照して、ドライブをCable Selectに設定して構成します。
3. 「[コンピュータカバーの取り外しと取り付け](#)」の手順に従って、コンピュータカバーを取り外します。
4. 「[前面ベゼルの取り外しと取り付け](#)」の手順に従って、前面ベゼルを取り外します。
5. 使用するドライブベイからドライブブラケットを取り外します。

ドライブブラケットの両側から伸びている金属製のブラケットタブを押しながら、ドライブベイからドライブブラケットを引き抜きます(図 1を参照)。

メモ: シャーシ内部に手が届くようにするには、邪魔にならないように一時的に電源装置を移動させなければならない場合があります。その際には、「[電源装置の移動](#)」を参照してください。

図 1. ドライブの取り外し



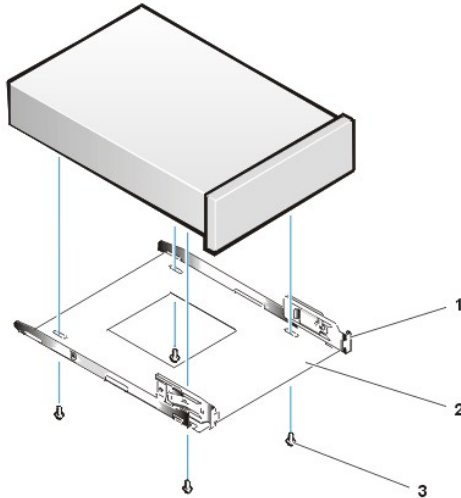
1 ブラケットタブ(2)

ドライブベイにすでに取り付けられているドライブを交換する場合は、必ずドライブの背面からDC電源ケーブルとインターフェースケーブルを取り外してから、ドライブブラケットを取り外します。ドライブブラケットから古いドライブを取り外すには、ドライブ・ブラケットアセンブリを裏返し、ドライブをドライブブラケットに固定している4本のネジを取り外します(図 2を参照)。

6. 新しいドライブにドライブブラケットを取り付けます。

ドライブを裏返し、4隅にある4つのネジ穴を確認します。ドライブにドライブブラケットをかぶせ、手前を上げるようにしてドライブを傾け、ドライブブラケットが所定の位置に収まるようにします。正しく取り付けるためには、必ずすべてのネジ穴を合わせ、ドライブブラケット前面のブラケットタブがドライブ前面と揃うようにします(図 2を参照)。

図 2. 新しいドライブへのドライブブラケットの取り付け



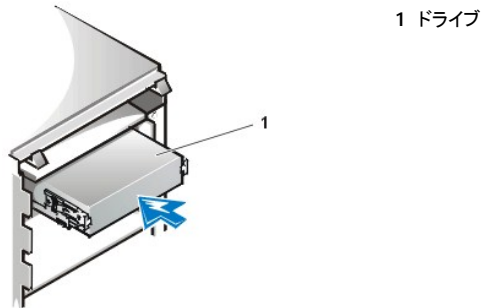
- 1 ブラケットタブ
- 2 ドライブブラケット
- 3 ネジ(4)

さらに、ドライブがシャーシに固定されるように、4本すべてのネジを穴の番号順に差し込んで締めます(穴には1~4の番号がついています)。

7. カチッと鳴って所定の位置に収まるまで、新しいドライブをスライドさせてドライブベイに差し込みます(図 3を参照)。

両方のブラケットタブがきっちりとドライブベイとかみ合っていることを確認してください。

図 3. ドライブベイへの新しいドライブの取り付け



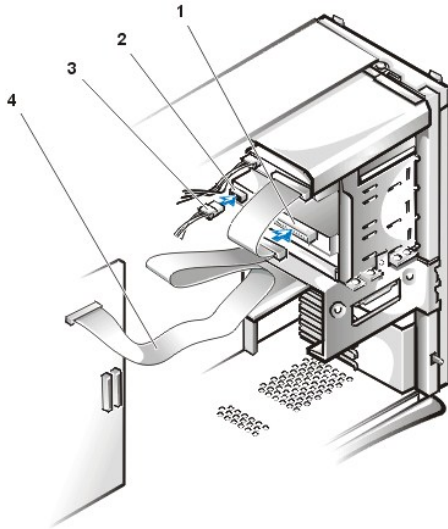
- 1 ドライブ

8. DC電源ケーブルをドライブの背面にある電源コネクタに接続します(図 4を参照)。
9. 該当するインタフェースケーブルをドライブの背面にあるインタフェースコネクタに接続します(図 4を参照)。

EIDE CD-ROMまたはテープドライブが搭載されている場合は、既存のインタフェースケーブルの予備コネクタを使用します。搭載されていない場合は、ドライブキットにあるEIDEインタフェースケーブルを使用します。

注意: システムに悪影響を与えないために、必ずドライブのインタフェースコネクタの1番ピンとインタフェースケーブルの色帯を合わせてください。

図 4. ディスケットドライブケーブルまたはテープドライブケーブルの接続



- 1 インタフェースコネクタ
- 2 電源コネクタ
- 3 DC電源コネクタ
- 4 インタフェースケーブル

10. EIDEテープドライブまたはCD-ROMドライブの場合は、インタフェースケーブルのもう一方の端をシステム基板の「IDE2」というラベルのインタフェースコネクタに接続します。

ディスクドライブの場合は、ドライブに接続されているケーブルをシステム基板の「DSKT」というラベルのインタフェースコネクタに接続します。

すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通気孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。

11. それまで5.25インチのドライブベイに何も取り付けしていなかった場合は、前面ベゼルからドライブベイカバーを取り外します。

内側を自分の方に向けた状態で前面ベゼルを持ち、カチッと音がして前面ベゼルから外れるまで、ドライブカバーの両端を親指で押します。

12. 前面ベゼルを取りつけます。


13. コンピュータカバーを取り付けます。コンピュータおよび周辺機器の電源プラグをコンセントに差し込み、電源を入れます。

14. [セットアップユーティリティ](#)で、システム設定情報を更新します。

ディスクドライブの場合は、Diskette Drive AまたはDiskette Drive Bを更新し、新しいディスクドライブのサイズと容量を反映させます。

EIDE CD-ROMドライブ、またはテープドライブの場合は、該当するSecondary Drive 0またはSecondary Drive 1をAutoに設定します。

15. [Dell診断プログラム](#)を実行して、システムが正常に動作することを確認します。

 **メモ:** Dell販売のテープドライブには、専用のソフトウェアとマニュアルが付属しています。テープドライブを取り付けた後の、テープドライブソフトウェアのインストールと使い方は、ドライブ付属のマニュアルを参照してください。

[目次ページに戻る](#)


[目次ページに戻る](#)

ドライバとユーティリティ: Dell™ OptiPlex™ GX300システムユーザーズガイド

- [デルディスクメーカー](#)
- [オーディオドライバ](#)
- [NICドライバ](#)
- [Windows NT 4.0用バスマスタリングEIDEドライバ](#)
- [Windows 98またはWindows 95用Intel INF Chipset Update Utility](#)
- [マウスドライバ](#)
- [Intel Streaming SIMD拡張ドライバ](#)
- [Intelセキュリティドライバ](#)
- [システムユーティリティ](#)

デルディスクメーカー

システムのハードディスクドライブには、システムユーティリティに加えて、オンボードデバイス用ドライバがすべてプリインストールされています。これらのドライバおよびユーティリティは、ディスクイメージ形式で提供されます。デルディスクメーカーを使用してこのディスクイメージからバックアップディスクを作成できます。ドライバやユーティリティを再インストールする場合に備えて、システムの初期セットアップを完了したら、すぐにバックアップディスクを作成することをお勧めします。

 **メモ:** Linuxオペレーティングシステム用ドライバは、オペレーティングシステムに含まれているので、デルディスクメーカーでは提供されません。

デルディスクメーカーはDell Accessoriesプログラムフォルダに入っており、使い方についての詳細なオンラインヘルプが用意されています。デルディスクメーカーを起動するには、次の手順を実行します。

1. オペレーティングシステムを起動します。
2. [スタート]→[プログラム]を順にクリックします。
3. [Dell Accessories]をクリックします。
4. [デルディスクメーカー]をクリックします。

オーディオドライバ

ご使用のシステムのオーディオドライバはプリインストールされており、システムがお手元に届いたらすぐに使用できる状態になっています。新たにインストールしたり、設定したりする必要はありません。ただし、ドライバを再インストールする必要がある場合には、次の手順を実行します。

1. 作成済みでなければ、ハードディスクドライブ上にインストールされているディスクイメージからディスクのコピーを作成します。
2. オペレーティングシステムを起動します。
3. オーディオドライバディスクをドライブAにセットします。
4. [スタート]ボタン→[ファイル名を指定して実行]をクリックし、[ファイル名を指定して実行]ウィンドウにa:\setupとタイプしてから[OK]をクリックします。
5. [Welcome]または[Setup Complete]ダイアログボックスで、[Next]をクリックします。
6. ファイルがハードディスクドライブにコピーされ、[Restarting Windows]ダイアログボックスが表示されたら、ディスクを取り出して[OK]をクリックします。



NICドライバ

この項では、以下の各オペレーティングシステムでNIC(ネットワークインターフェースコントローラ)ドライバを再インストールする方法を説明します。

- 1 [Microsoft® Windows NT® 4.0](#)
- 1 [Microsoft Windows® 98](#)
- 1 [Microsoft Windows 95](#)

Windows NT 4.0 NICドライバ

DellによりインストールされたWindows NT 4.0オペレーティングシステムは、NICドライバを自動的に検出してインストールします。ただし、ドライバの再インストールが必要になった場合は、以下の手順を実行します。

1. [デルディスクメーカー](#)(Dell Accessoriesプログラムフォルダ内にあります)を使用して、ハードディスクドライブにインストールされているディスクイメージからNICドライバのディスクコピーを作成します。
2. コンピュータの背面にネットワークケーブルを接続します。
詳細については、「[ネットワークケーブルの要件](#)」を参照してください。
3. [セットアップユーティリティ](#)のNIC項目が使用可能に設定されていることを確認します。
詳細については、「[Network Interface Controller](#)」を参照してください。
4. Windows NTオペレーティングシステムを起動し、管理者または管理権限を持つユーザーとしてログオンします。
管理権限については、Windows NT付属のマニュアルを参照してください。
5. **[マイコンピュータ]**アイコンをダブルクリックし、**[コントロールパネル]**をダブルクリックします。
 **メモ:** 初めてネットワークドライバをインストールする場合は、インストールを確認するメッセージが表示されます。[はい]をクリックし、手順の詳細についてはWindows NT付属のマニュアルを参照してください。
6. **[ネットワーク]**の**[アダプタ]**タブをクリックし、次に**[追加]**をクリックします。
 **メモ:** MS Loopbackが既にインストールされている場合は、削除してから追加をクリックして下さい。
7. ドライブAIにNICドライバディスク1を挿入して**[ディスク使用]**をクリックし、フロッピーディスクの挿入の画面でA:\と入力して**[OK]**をクリックします。
8. OEM項目の選択で**[3Com Fast EtherLink/Etherlink XL PCI Busmaster NIC]**のデバイス名が表示されたら**[OK]**をクリックします。
9. セットアップメッセージに**[3Com Ether Disk for EtherLink XL NICs(Diskette2)]**が表示されたらディスク2を挿入して**[OK]**をクリックします。
10. ドライバのインストールが終了したら、**[ネットワーク]**の**[閉じる]**をクリックしてください。
11. ネットワークカードの設定が必要な場合はここで設定を行い、**[OK]**をクリックしてシステムを再起動します。

Windows 98 NICドライバ

Windows 98にNICドライバを再インストールするには、以下の手順を実行します。

1. [デルディスクメーカー](#) (Dell Accessoriesプログラムフォルダ内にあります)を使用して、ハードディスクドライブにインストールされたNICドライバのディスクコピーを作成します。
2. コンピュータの背面にネットワークケーブルを接続します。
詳細な指示については、「[ネットワークケーブルの要件](#)」を参照してください。
3. NIC項目が有効に設定されて、ネットワークが接続されていることを確認します。
詳細については、「[Network Interface Controller](#)」を参照してください。
4. Windows 98オペレーティングシステムを起動します。
5. **[スタート]**ボタンをクリックし、**[設定]**をポイントし、**[コントロールパネル]**をクリックします。続いて**[システム]**アイコンをダブルクリックします。
6. **[システムのプロパティ]**ウィンドウで、**[デバイスマネージャ]**タブをクリックします。
7. **[その他のデバイス]**をダブルクリックして**[PCI Ethernet Controller]**を選択し、**[プロパティ]**をクリックします。
8. **[ドライバ]**タブをクリックします。
9. **[ドライバの更新]**ボタンをクリックします。
10. **[デバイスドライバの更新ウィザード]**が表示されます
11. **[次へ]**をクリックし、ドライブAIに**[3Com EtherDisk for EtherLink XL NICs (Diskette 1)]**のディスク1を挿入して**[現在使用しているドライバよりもさらに適したドライバを検索する(推奨)]**を選択し、**[次へ]**をクリックします。
12. **[フロッピーディスクドライブ]**をチェックし、**[次へ]**をクリックします。
13. **[3Com Fast EtherLink XL 10/100Mb TX Ethernet NIC (3C905B-TX)]**が表示されたのを確認して、**[次へ]**をクリックします。
14. ファイルのコピーが始まります。**[ディスクの挿入]**の画面で**[3Com EtherDisk for EtherLink XL NICs (Diskette 1)]**が表示されたら、**[ファイルのコピー元]**にA:\と入力して**[OK]**をクリックします

- Windows98 CD上を挿入するように指示された場合は、ファイルのコピー元でCabsファイルの場所を指定し、「OK」をクリックします。


例: [C:\Windows\Options\Cabs]

[D:\Win95](CD-ROMがDドライブの場合)

- 再度、[3Com EtherDisk for EtherLink XL NICs (Diskette 2)]のファイルのインストール場所を聞かれたら、ドライブAにディスク2を挿入して、[ファイルのコピー元]にA:\と入力して[OK]をクリックします。

Windows 95 NICドライバ

DellによりインストールされたWindows 95オペレーティングシステムは、NICドライバを自動的に検出してインストールします。ここでは、Windows 95 Service Release 2.1オペレーティングシステムがプリインストールされたシステムにNICドライバを再インストールする手順を示します。

 **メモ:** Windows 95を再インストールする場合は、プリインストール版Windows 95オペレーティングシステムのリリースバージョンまたはそれに相当するものを使用してください。Dell OptiPlex GX300システムのアーキテクチャは高度であるため、コンポーネントによってはService Release 2.1以前のWindows 95バージョンで正しく機能しないものがあります。

プリインストールされたWindows 95 Service Release 2.1にNICドライバを再インストールするには、以下の手順を実行します。


- [デルディスクメーカー](#)(Dell Accessoriesプログラムフォルダ内にあります)を使用して、ハードディスクドライブにインストールされているNICドライバのディスクコピーを作成します。
- コンピュータの背面にネットワークケーブルを接続します。
詳細については、「[ネットワークケーブルの要件](#)」を参照してください。
- NIC項目が有効に設定されて、ネットワークが接続されていることを確認します。
詳細については、「[Network Interface Controller](#)」を参照してください。
- Windows 95オペレーティングシステムを起動します。
- [スタート]ボタンをクリックし、[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックします。続いて[システム]アイコンをダブルクリックします。
- [システムプロパティ]ウィンドウで、[デバイスマネージャ]タブを選択します。
- 種類別に表示の中から[その他のデバイス]をダブルクリックします。次に[PCI Ethernet Controller]をクリックします。
- [PCI Ethernet Controllerのプロパティ]ウィンドウを開きます。
- [ドライバ]タブをクリックし、次に[ドライバの更新]をクリックします。
[デバイスドライバウィザード]が起動します。
- ドライブAに[3Com Ether Disk for EtherLink XL NICs (Diskette1)]を挿入し、[はい](通常はこちらを選んでください)を選択し、[次へ]をクリックします。
- [3Com Fast EtherLink XL 10/100Mb TX Ethernet NIC (3C905B-TX)]が検出されたら[完了]をクリックします。
- [ディスクの挿入]の画面が表示されたら、ドライブAに[3Com Ether Disk for EtherLink XL NICs (Diskette1)]を挿入して[ファイルのコピー元]にA:\と入力し、[OK]をクリックします。
- ファイルのコピーが始まります。ネットワーク名、コンピュータ名を入力し、ディスク挿入のプロンプトがでたら[3Com Ether Disk for EtherLink XL NICs (Diskette2)]を挿入し、[OK]をクリックします。
- Windows 95 CD-ROMを挿入するように表示されたら、[OK]をクリックします。
- ファイルのコピー元でCabsファイルの場所を指定し、[OK]をクリックします。
例: [C:\Windows\Options\Cabs]
[D:\Win95](CD-ROMがDドライブの場合)
- ドライバのインストールの後、[3Com Fast EtherLink XL 10/100Mb TX Ethernet NIC (3C905B-TX)のROMがあります]の画面が表示され、[デバイスの削除]か[テスト]を行う画面が表示されます。
- [キャンセル]をクリックします。
- コンピュータを再起動するように指示されたら[はい]をクリックします。

Microsoft Windows NT 4.0用バスマスタリングEIDEドライバ

Intel Ultra ATA ストレージドライバは、ストレージデバイスからのデータ転送中に、マイクロプロセッサから特定の機能の負荷を軽減することで、システム

の性能をアップします。このドライバは、広範囲のシステムデバイスや、マルチメディア性能の向上をサポートします。

Dellでは、ご使用のオペレーティングシステムに合わせてIntel Ultra ATA ストレージドライバをプリインストールしており、コンピュータがお手元に届いたらすぐに使用できる状態になっています。新たにインストールしたり、設定したりする必要はありません。


 **メモ:** Windows NT 4.0を再インストールする場合は、Intel Ultra ATA ストレージドライバも再インストールしてください。再インストールするには、システムにマウスを接続し、プライマリEIDEチャンネルに接続されたハードディスクドライブにWindows NT 4.0がインストールされている必要があります。

Windows NT 4.0用のIntel Ultra ATA ストレージドライバを再インストールするには、以下の手順を実行します。

1. 作成済みでなければ、[デルディスクメーカー](#)を使用してハードディスクドライブ上のディスクイメージからIntel Ultra ATA ストレージドライバのディスクコピーを作成します。

デルディスクメーカーはDell Accessoriesフォルダから起動します。詳細は、付属のオンラインヘルプを参照してください。

2. Windows NTオペレーティングシステムを起動します。すでにWindows NTが起動されている場合は、開いている文書やアプリケーションプログラムを閉じます。
3. 最新のIntel Ultra ATA ストレージドライバディスクをドライブAに挿入します。
4. [スタート]ボタンから[ファイル名を指定して実行]をクリックし、a:\setup.exe と入力してから、[OK]をクリックします。
5. 画面の指示に従います。
6. ドライブAからディスクを取り出してから、[Finish]をクリックしてコンピュータを再起動します。

 **メモ:** Intel Ultra ATA ストレージドライバは、デフォルトでダイレクトメモリアクセス(DMA)を有効にします。Intel Ultra ATA ストレージドライバをインストールした後にWindows 98用のDMAを無効にするには、Ultra ATA Storageの中のプログラムファイルにあるintelata.exeを実行します。

Windows NT 4.0用のIntel Ultra ATA ストレージドライバをアンインストールするには、以下の手順を実行します。

1. [スタート]ボタンをクリックし、[設定]を選択してから、[コントロールパネル]をクリックします。
2. [デバイスの追加と削除]をダブルクリックします。
3. Intel Ultra ATAドライバを選択し、[削除]をクリックします。
4. コンピュータを再起動します。

Windows 98またはWindows 95用Intel INF Chipset Update Utility

Windows 98またはWindows 95用Intel INF Chipset Update Utilityは、マルチスレッド演算中(複数のアプリケーションを同時に実行)にマイクロプロセッサから特定の機能の負荷を軽減することで、パフォーマンスを向上させます。Windows 98またはWindows 95用のINF Chipset Update Utilityは、ご使用のハードディスクドライブにインストール済みです。新たにインストールしたり、設定したりする必要はありません。再インストールが必要な場合に備えて、[デルディスクメーカー](#)を使用して、このドライバのバックアップコピーを作成してください。

Windows 98またはWindows 95が稼働するシステムにINF Chipset Update Utilityを再インストールするには、以下の手順を実行します。

注: Dellによって装備されたハードディスクドライブ以外は、バスマスタリングをサポートしていません。Dell以外から提供されたハードディスクドライブを装備したシステムでバスマスタリングを有効にすると、データが失われる場合があります。

1. Windows 98またはWindows 95がシステムにインストール済みであることを確認します。
2. 作成済みでなければ、[デルディスクメーカー](#)を使用してハードディスクドライブ上のディスクイメージからWindows 98またはWindows 95用INF Chipset Update Utilityのバックアップコピーを作成します。
3. 実行中のアプリケーションプログラムを終了します。
4. INF Chipset Update UtilityディスクをドライブAにセットします。[スタート]をクリックし、次に[ファイル名を指定して実行]をクリックします。
5. a:\setupとタイプしてから[OK]をクリックします。
6. 次の2つのプロンプトで[次へ]をクリックし、再度システムを再起動します。

マウスドライバ

マウスドライバを再インストールするには、以下の手順を実行します。

1. 作成済みでなければ、[デルディスクメーカー](#)を使用してハードディスクドライブ上のディスクイメージからマウスドライバのディスクコピーを作成します。

2. マウสดライブディスクをドライブに挿入します。
3. [スタート]ボタンをクリックし、次に[ファイル名を指定して実行]をクリックします。
4. a:\setupとタイプしてから <Enter>を押します。
5. 画面の指示に従って、インストールを完了します。

Windows NTまたはWindows 95上でマウスの動作を設定するには、以下の手順を実行します。

1. [スタート]ボタンをクリックし、[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックします。
2. [マウス]アイコンをダブルクリックします。
3. 必要に応じてマウスの動作を設定したら、[OK]をクリックします。

ヘルプを参照するには、[マウスプロパティ]ダイアログボックスで表示したいアイテムを右クリックし、ポップアップメニューで[ヘルプ]をクリックします。また、ダイアログボックスの右上角の[?]ボタンをクリックして目的のアイテムにドラッグし、そのアイテムをクリックしても参照できます。

Intel® Streaming SIMD拡張ドライバ

Intel Streaming SIMD拡張(SSE)ドライバは、Windows NT 4.0 Service Packオペレーティングシステム環境で、SIMD拡張に対応しているアプリケーションプログラムのマルチメディア性能を向上します。このドライバは、SSEのためのサポートを含んでいるWindows 98には不要です。Windows 95はSSEをサポートしていません。

このドライバは、ご使用のハードディスクドライブにすでにインストールされており、動作可能です。再インストールが必要な場合は、以下の手順を実行します。

1. 作成済みでなければ、[デルディスクメーカー](#)を使用して、ハードディスクドライブのIntel SSEドライバのディスクイメージからディスクコピーを作成します。

このドライバには2枚のディスクが必要です。

2. ディスク1をドライブAに挿入して、[スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。
3. a:\setupとタイプして、[OK]をクリックします。

4. 画面の指示に従い、すべてのデフォルト値を有効にします。

必ずドライブAからディスクを取り出してから、[終了]をクリックしてシステムを再起動してください。

5. ドライバが正しくインストールされているかを確認するには、[スタート]メニューから[プログラム]を選択し、[Streaming SIMD 拡張ドライバ]が表示されているかを確認してください。

Intelセキュリティドライバ

Intelセキュリティドライバは、送信前に乱数発生器を使用してデータを暗号化することで、ネットワークまたはインターネット経由のデータ転送に高度なセキュリティを提供します。

このドライバは、ご使用のハードディスクドライブにすでにインストールされており、動作可能です。再インストールが必要な場合は、以下の手順を実行します。

1. 作成済みでなければ、[デルディスクメーカー](#)を使用してハードディスクドライブのIntelセキュリティドライバのディスクイメージからディスクコピーを作成します。

2. ディスクをドライブAに挿入して、[スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。

3. a:\setupとタイプして[OK]をクリックします。

4. 画面の指示に従って、すべてのデフォルト値を有効にします。

5. [Setup Complete]ウィンドウで、readmeファイルを読むには[View Readme]を選択し、システムを再起動してドライバをロードするには[Restart]を選択し、次にシステムを再起動するまでドライバをロードしないでオペレーティングシステムに戻るには[Restart Later]を選択します。

ディスクをドライブAから取り出してから、システムを再起動します。

システムユーティリティ

この節では、以下のシステムユーティリティの再インストール方法について説明します。

- 1 [Windows NT 4.0](#)
- 1 [Windows 98またはWindows 95](#)
- 1 [オートシャットダウンサービス](#)

Windows NT 4.0用システムユーティリティの再インストール

システムユーティリティとサービスは、ご使用のハードディスクにプリインストールされており、動作可能です。ユーティリティとサービスを再インストールする必要がある場合は、以下の手順を実行します。

1. 作成済みでなければ、[デルディスクメーカー](#)を使用して、ハードディスクにDellシステムユーティリティディスクイメージのディスクコピーを作成します。
2. Windows NTを起動し、管理者または管理権限を持つユーザーとしてログインします。すでにWindows NTが起動されている場合は、開いている文書やアプリケーションプログラムを閉じます。
3. ユーティリティディスクをドライブAに挿入して、ディスクからsetup.exeプログラムを実行します。
4. 画面の指示に従って、Dellユーティリティまたはサービスをインストールします。インストールが完了したら、システムを再起動してサービスを有効にします。
5. ユーティリティまたはサービスが正しくインストールされ、稼働していることを確認します。
6. [コントロールパネル]の[サービス]アイコンをダブルクリックします。[AutoShutdown]が[開始]のステータスとともに表示されるはずですが。



メモ: Dell OpenManage™ 4.xがすでにインストールされているか、インストールする予定のある場合は、オートシャットダウンサービスをインストールしないでください。Dell OpenManage 4.xにはオートシャットダウンサービスの機能が含まれているので、Dell OpenManage 4.xをインストールした場合にコンフリクトが発生する可能性があります。

管理タグユーティリティとオートパワーオンユーティリティ(インストールされている場合)は、Windows NT 4.0のシステムファイルが入っているドライブの、c:\dellutil フォルダに収められています。

Windows 98またはWindows 95用システムユーティリティの再インストール

システムユーティリティとサービスは、ご使用のハードディスクにプリインストールされており、動作可能です。ユーティリティとサービスを再インストールする必要がある場合は、以下の手順を実行してください。

1. 作成済みでなければ、[デルディスクメーカー](#)を使用して、ハードディスクにDellシステムユーティリティディスクイメージのディスクコピーを作成します。
2. Windows 98またはWindows 95を起動します。すでにWindows 98またはWindows 95が起動されている場合は、開いている文書やアプリケーションプログラムを閉じます。
3. ユーティリティディスクをドライブAにセットして、ディスクからsetup.exeプログラムを実行します。
4. 画面の指示に従って、Dellユーティリティまたはサービスを再インストールします。

(インストールされている場合)アセットタグユーティリティとオートパワーオンユーティリティは、Windows 98またはWindows 95のシステムファイルが入っているドライブのc:\dellutilディレクトリに格納されています。

オートシャットダウンサービス

オートシャットダウンサービスは、電源ボタンが押されたときに、正しいシステムのシャットダウンを実行する機能を、Windows NT 4.0、Windows 98、およびWindows 95に提供します。

オートシャットダウンサービスを有効にする方法

電源ボタンは、即時モードとオートシャットダウンモードという2つのモードで動作します。システムの電源が切れている場合、電源スイッチは常に即時モードで動作します。つまり、電源スイッチを押すと、ただちにシステムに電源が入ります。

システムに電源が入っており、オートシャットダウンサービスがインストールされた場合、電源スイッチはオートシャットダウンモードで動作します。電源スイッチを押すと、オペレーティングシステムは正しくシャットダウン(データ損失やファイルの破壊の可能性を少なくします)を行ってから電源を切ります。シャットダウン中は、コンピュータの電源インジケータが点滅します。

オペレーティングシステムがロックした場合

電源ボタンを押しても、電源インジケータが点滅するだけでシステムの電源が切れない場合、オペレーティングシステムはロックしている可能性があります。ロックしたシステムの電源を切るには、電源ボタンを再度押すか、リセットボタンを押してください。



メモ: リセットボタンを押すとシステムが再起動せずにオフになるのは、オートシャットダウンサービスが有効な状態でシステムがロックしている場合だけです。

オートシャットダウンサービスの再インストールまたは削除

オートシャットダウンサービスを再インストールする場合は「[システムユーティリティ](#)」を参照してください。オートシャットダウンサービスを削除するには、次の手順を実行します。

1. ユーティリティディスクをドライブAに挿入します。
2. ディスクからremove.exeユーティリティを実行します。
3. [オートシャットダウンサービス(AutoShutdown)]が選択されていることを確認し、[次へ]をクリックします。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

拡張カード: Dell™ OptiPlex™ GX300システムユーザーズガイド

- [概要](#)
- [拡張カードの取り外し](#)
- [拡張カードの取り付け](#)

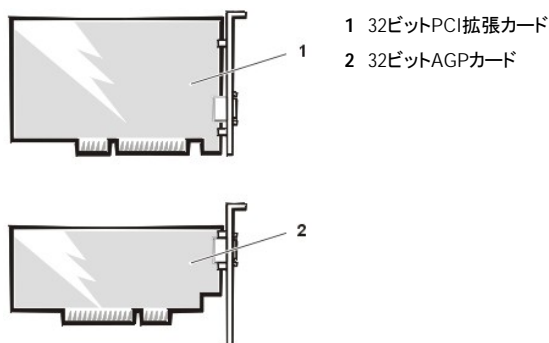
概要

ご使用のコンピュータには、32ビットPCI カードを5枚までと、32ビットAGP カード1枚を含む拡張カードを6枚まで取り付けることができます(これらのカードの例については図1を参照)。

 **メモ:** PC99条件を満たすため、Dellのシステムでは PCI 拡張スロットしか使用しません。ISA拡張カードはサポートしていません。

システムから周辺機器の接続を外す場合、またはシステム基板からコンポーネントを取り外す場合は、事前にシステム基板上のスタンバイ電源のLEDがオフになっていることを確認してください。LEDの位置は「コンピュータの内部」の [図3](#)を参照してください。

図1. 拡張カード




拡張カードの取り付け

拡張カードを取り付けるには、以下の手順を実行します。

 **警告:** コンピュータカバーを取り外す前に、「[作業にあたっての注意](#)」を参照してください。

1. 拡張カードを取り付ける準備をし、「[コンピュータカバーの取り外しと取り付け](#)」の手順に従ってコンピュータカバーを取り外します。

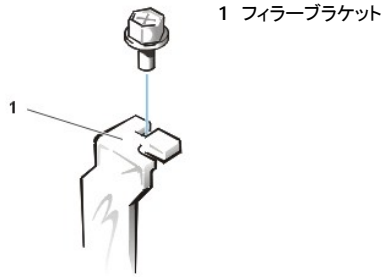
ご使用のシステムに対する拡張カードの設定方法や、内部の接続方法、または拡張カードのカスタマイズ方法などについては、拡張カードに付属のマニュアルを参照してください。

 **警告:** ネットワークカードの中には、接続時にシステムを自動的に起動するものがあります。電気ショックを避けるために、必ずコンピュータのプラグを電源コンセントから外してから拡張カードを取り付けてください。

2. 「[AGPカードブレースの取り外しと取り付け](#)」の手順に従い、AGPカードブレースを取り外します。
3. 使用する拡張カードスロットの開口部を覆っている、金属製フィラーブラケットのネジを緩めて取り外します(図2を参照)。

ネジは、後で拡張カードを取り付けるときに使用するので保管しておいてください。

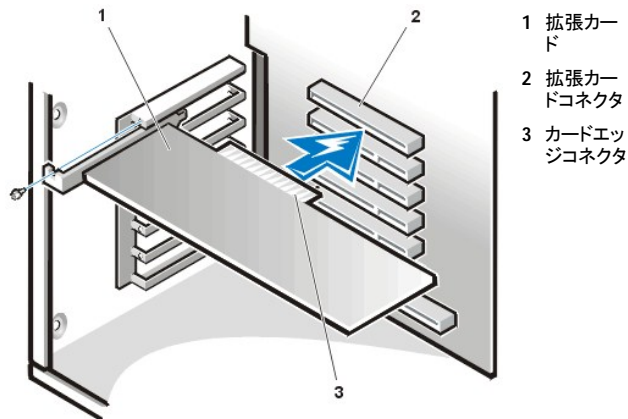
図2. フィラーブラケットの取り外し



4. 拡張カードコネクタに拡張カードを挿入します。

拡張カードが標準の長さである場合、拡張カードをコネクタに挿入するときに、拡張カードの前端をシャーシ前面の内側の対応するカードガイドに挿入します。カードエッジコネクタを拡張カードスロットにしっかりと差し込みます。カードがコネクタに完全に固定されるまでそっと差し込みます(図3を参照)。

図3. 拡張カードの取り付け




5. カードがコネクタにしっかりと固定されたら、手順2で取り外したネジでカードの取り付けブラケットをシャーシに固定します。
6. 拡張カードに取り付ける必要のあるケーブルを接続します。

拡張カードケーブルの接続については、拡張カードのマニュアルを参照してください。

エントリーレベルのOptiPlex™サウンドカードを取り付ける場合は、シャーシ正面のコントロールパネルから内蔵スピーカーケーブルを取り外し、サウンドカード上の INT SPKRコネクタに再接続します。サウンドカードコネクタにとどくように、シャーシ前面の穴に、スピーカーケーブルを通さなければならない場合があります。


7. AGPカードブレースを取り付けます。
8. コンピュータカバーを取り付け、コンピュータと周辺機器の電源プラグをコンセントに差し込み、電源を入れます。

 **メモ:** カバーを取り外してから取り付け直すと、次のシステム起動時に、シャーシイントルージョンディテクタから次のメッセージが表示されます。

ALERT! Cover was previously removed.
(警告! カバーが取り外されました。)

9. シャーシイントルージョンディテクタをリセットするには、セットアップユーティリティを起動して、Chassis IntrusionをEnabled またはEnabled-Silentにリセットします。


手順については、「[Chassis Intrusion](#)」を参照してください。

 **メモ:** セットアップパスワードを自分で設定しなかった場合は、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法について、ネットワーク管理者にお問い合わせください。


エントリーレベルのOptiPlexサウンドカードを取り付けた場合は、セットアップユーティリティで、Soundの設定をOffにします。

拡張カードの取り外し


拡張カードを取り外すには、以下の手順を実行します。

 **警告:** コンピュータカバーを取り外す前に、「[作業にあたっての注意](#)」を参照してください。

1. 「[コンピュータカバーの取り外しと取り付け](#)」の手順に従い、コンピュータカバーを取り外します。
2. 「[AGPカードプレースの取り外しと取り付け](#)」の手順に従い、AGPカードプレースを取り外します。
3. 必要に応じて拡張カードに接続されているケーブルを外します。
4. 取り外す拡張カードの取り付けブラケットのネジを外します。
5. 拡張カードの両方の角を持って、拡張カードコネクタからゆっくりと取り外します。
6. 別の拡張カードを取り付けられない場合は、空の拡張カードスロット開口部に金属製のフィルターブラケットを取り付けます。

 **メモ:** 米国連邦通信委員会 (FCC) のシステム認可に準拠するためには、使用していない拡張カードスロット開口部には、ブラケットが取り付けられている必要があります。またブラケットはコンピュータをほこりや汚れから守ります。


7. AGPカードプレースを取り付けます。
8. コンピュータカバーを取り付け、コンピュータと周辺機器の電源プラグをコンセントに差し込み、電源を入れます。

 **メモ:** カバーを取り外してから取り付け直すと、次のシステム起動時に、シャーシイントルージョンディテクタから次のメッセージが表示されます。

ALERT! Cover was previously removed.
(警告! カバーが取り外されました。)

9. シャーシイントルージョンディテクタをリセットするには、セットアップユーティリティを起動して、Chassis IntrusionをEnabledまたはEnabled-Silentにリセットします。

手順については「[Chassis Intrusion](#)」を参照してください。

 **メモ:** セットアップパスワードを自分で設定しなかった場合は、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法について、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

外部コンポーネント:Dell™ OptiPlex™ GX300システムユーザーズガイド

- [概要](#)
- [入出力ポートのトラブルシューティング](#)
- [モニタのトラブルシューティング](#)
- [基本入出力機能のトラブルシューティング](#)
- [キーボードのトラブルシューティング](#)
- [パラレルプリンタのトラブルシューティング](#)
- [マウスのトラブルシューティング](#)
- [シリアル入出力デバイスのトラブルシューティング](#)

概要

本項では、ご使用のモニタ、キーボード、マウス、プリンタなどのコンピュータの入出力パネルに直接接続する装置のトラブルシューティング手順を示します。本項の手順を実行するときは、「[接続とスイッチのチェック](#)」を参照してから、次に誤動作している装置のトラブルシューティング手順を実行してください。

本項の手順を実行するには、Dell ResourceCDのコピーが必要です。

[Dell診断プログラム](#)を実行する前に、システムがCD-ROMドライブから起動することを確認します。手順については、[Dell診断プログラムの起動](#)を参照してください。

モニタのトラブルシューティング

ビデオのトラブルシューティングでは、次のどれに原因があるかを判断する必要があります。

- 1 モニタまたはモニタインタフェースケーブル
- 1 ビデオコントローラ

本項の手順では、モニタとモニタインタフェースケーブルのみのトラブルシューティングをおこないます。

モニタに情報が正しく表示されないか、またはまったく表示されない場合は、問題が解決されるまで、以下の手順を実行します。

1. 接続されている周辺装置と、システムの電源を入れます。
2. 水平および垂直位置とサイズなどのビデオイメージを修正するには、モニタのマニュアルで指定されているようにスイッチとボタンで調整します。
3. Dell ResourceCDを挿入し、システムを再起動して、[Dell診断プログラム](#)を実行します。
4. Videoテストグループを実行します。
5. システムの電源を切り、電源コンセントから外します。モニタを現在機能している同じタイプのもので交換し、システムを電源コンセントに接続します。
6. システムを再起動し、もう一度Videoテストグループを実行します。
7. テストが正常終了した場合、最初のモニタが不良です。まだテストに不合格であれば、システム基板上のビデオコントローラが不良であると思われます。「[困ったときは](#)」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。

キーボードのトラブルシューティング

この手順では、キーボードにどのような問題があるかを判断します。コンピュータシステムの起動時にシステムエラーメッセージがキーボードの問題を示した場合、またはキーボードが正しく動作しない場合は、問題が解決されるまで、以下の手順を実行します。

1. キーボードまたはそのケーブルに物理的な損傷があるか、キーが機能しない場合は、正常に動作するキーボードと交換します。
 2. Dell ResourceCDを挿入し、システムを再起動して、[Dell診断プログラム](#)を実行します。
 3. Keyboardテストグループを実行します。
 4. Keyboard Interactive Testで問題があれば、キーボードを交換します。
 5. Keyboard Controller Testで問題があれば、システム基板が不良であると思われます。「[困ったときは](#)」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。
-

マウスのトラブルシューティング

この手順では、マウスにどのような問題があるかを判断します。コンピュータシステムの起動時にシステムエラーメッセージがマウスの問題を示した場合、またはマウスが正しく動作しない場合は、問題が解決されるまで、以下の手順を実行してください。

1. マウスのマニュアルで指示されているようにマウスをクリーニングします。

ほとんどのマウスの場合、裏返して底面のカバーを外しボールを取り出すことによって、ごみを除去することができます。またマウスの底面にたまった、くずやごみも除去します。

2. マウスまたはそのケーブルに物理的な損傷の跡があるか、ボタンが機能しない場合は、正常なマウスと交換します。
3. Dell ResourceCDを挿入し、システムを再起動して、[Dell診断プログラム](#)を実行します。
4. [Mouse Test](#)を実行します。
5. [Mouse Test](#)で問題があれば、システム基板が不良であると思われます。「[困ったときは](#)」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。


入出力ポートのトラブルシューティング

本項では、コンピュータの入出力パネル上のポートとそれらのポートに接続されているプリンタ、スキャナ、その他の周辺装置などのトラブルシューティングの手順を示します。

この手順で、拡張カード上の入出力ポートをテストすることもできます。ただし、まず「[拡張カードのトラブルシューティング](#)」の手順を実行して、このカードが正しく設定され取り付けられているかを確認してください。

システムエラーメッセージがポート上の問題を示しているか、ポートに接続されている装置が正しく動作していないか、またはまったく動作していない場合、その問題の原因は次のいずれかであると思われます。

- 1 入出力ポートと周辺装置の接続不良
- 1 入出力ポートと周辺装置のケーブル不良
- 1 周辺装置の不良
- 1 [セットアップユーティリティ](#)の設定値が正しくない
- 1 システムの設定ファイルの設定値が正しくない
- 1 システム基板上的入出力ポートロジックの不良

 **メモ:** ある種のモデムが取り付けられている場合、Serial Portテストグループのサブテストで問題があると診断されることがありますが、これはモデムが診断プログラムに対してシリアルポートとして認識されても、シリアルポートとしてはテストできないためです。モデムが取り付けられており、Serial Portテストで問題があれば、モデムを取り外し、診断テストをもう一度おこなってください。

基本入出力機能のトラブルシューティング

システムエラーメッセージが入出力ポート上の問題を示しているか、ポートに接続されているデバイスが正しく機能しない場合は、問題が解決されるまで、以下の手順を実行します。

1. [セットアップユーティリティを起動し](#)、Serial Port 1、Serial Port 2およびParallel Port の各項目が Autoに設定されているかどうかを確認します。
2. Dell ResourceCDを挿入し、システムを再起動して、[Dell診断プログラム](#)を実行します。
3. Serial/Infrared Portsテストグループと、Parallel Portsテストグループ、あるいはどちらか1つを実行します。

これらのテストで問題があれば、システム基板が不良であると思われます。「[困ったときは](#)」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。

問題が修正されない場合は、誤動作していると思われるデバイスによって、「[パラレルプリンタのトラブルシューティング](#)」または「[シリアル入出力デバイスのトラブルシューティング](#)」を参照してください。

パラレルプリンタのトラブルシューティング

「[基本入出力機能のトラブルシューティング](#)」でパラレルプリンタに問題があると示している場合は、問題が解決されるまで、以下の手順を実行します。

1. プリンタデバイスドライバを再インストールします。

プリンタドライバの再インストール手順については、プリンタとオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

2. パラレルプリンタとコンピュータの電源を切り、パラレルプリンタのインタフェースケーブルを問題がないと確認できているケーブルと交換し、パラレルプリンタとコンピュータの電源を入れます。

問題が解決された場合は、最初のプリンタケーブルが不良です。

3. パラレルプリンタのセルフテストをおこないます。

テストに不合格であれば、プリンタが不良です。

問題が解決されない場合は、システム基板が不良であると思われます。「[困ったときは](#)」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。

シリアル入出力デバイスのトラブルシューティング

「[基本入出力機能のトラブルシューティング](#)」でシリアルポートの1つに接続されているデバイスに問題があると示している場合は、問題が解決されるまで、以下の手順を実行します。

1. シリアルデバイスを他のシリアルポートに接続します(たとえば、シリアルデバイスがシリアルポート1に現在接続されている場合は、そのデバイスをシリアルポート2に接続します)。

問題が解決された場合は、システム基板上のシリアルポートが不良です。「[困ったときは](#)」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。

2. 不良デバイスに着脱式シリアルケーブルが付いている場合は、そのシリアルケーブルを交換してください。

問題が解決された場合は、シリアルケーブルが不良です。

3. 不良シリアルデバイスを交換してください。

問題が解決されない場合は、システム基板が不良であると思われます。「[困ったときは](#)」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

困ったときは: Dell™ OptiPlex™ GX300システムユーザーズガイド

- [ヘルプの概要](#)
 - [Dellへのお問い合わせ](#)
-

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

ハードディスクドライブ: Dell™ OptiPlex™ GX300システムユーザーズガイド

● [EIDEハードディスクドライブの取り付け](#)

● [SCSIデバイスの取り付け](#)

EIDEハードディスクドライブの取り付け

ドライブケースの下のドライブブラケットには、EIDEドライブを最大2台（その内の1台は厚さ1インチ以下）まで取り付けることができます。1台目のEIDEドライブは、「HD1」のラベルが付いた1インチドライブベイ（下側）に取り付けます。2台目のドライブは、「HD2」のラベルが付いた1.6インチベイに取り付けます。

EIDEドライブのアドレス指定

すべてのEIDEデバイスは、ジャンパの位置がCable Selectに設定されている必要があります。Cable Selectは、インタフェースケーブル上でのデバイスの位置によって、デバイスにマスタとスレーブのステータスを割り当てます。1本のEIDEインタフェースケーブルに2台のEIDEデバイスを接続し、ジャンパをCable Selectの位置に設定した場合は、インタフェースケーブル上の末端のコネクタに接続されたデバイスが、マスタまたは起動デバイス（ドライブ0）となり、ケーブル上の中間のコネクタに接続されたデバイスがスレーブデバイス（ドライブ1）となります。デバイスのジャンパをCable Selectの位置に設定する方法については、アップグレードキットに付属しているマニュアルを参照してください。

システム基板にはEIDEインタフェースコネクタが2基搭載されているため、合計4台までのEIDEデバイスを取り付けることができます。EIDEハードディスクドライブは、「IDE1」のラベルが付いたEIDEインタフェースコネクタに接続する必要があります。EIDE対応のテープドライブやCD-ROMドライブは、「IDE2」のラベルが付いたEIDEインタフェースコネクタに接続する必要があります。

EIDEハードディスクドライブをハードディスクドライブブラケットに取り付ける手順

EIDEハードディスクドライブをハードディスクドライブブラケットに取り付けるには、以下の手順を実行します。

⚠ 警告: コンピュータカバーを取り外す前に、「[作業にあたっての注意](#)」を参照してください。

1. 残しておきたいデータを保存しているハードディスクドライブを交換する場合は、それらのファイルのバックアップを取ってから、以下の手順を開始します。
2. ドライブを取り付ける準備をします。

注意: コンピュータ背面の塗装されていない金属面に触れて、身体から静電気を逃がしてください。

注意: ドライブをパッケージから取り出す際は、ドライブを損傷する恐れがありますので、固い台に直接置かず、発泡スチロールなどのクッション材の上に置いてください。

ドライブに付属のマニュアルを参照して、ご使用のコンピュータに適した設定になっているか確認します。

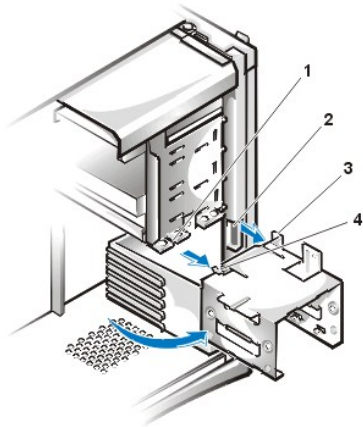
3. [「コンピュータカバーの取り外しと取り付け」](#)の手順に従って、コンピュータカバーを取り外します。
4. シャーシからドライブブラケットを取り外します。

すでにドライブブラケットにハードディスクドライブが取り付けられている場合は、そのドライブからDC電源ケーブルとEIDEケーブルを取り外します。

ハードディスクドライブブラケットとシャーシ内部のドライブケースを固定しているネジを取り外します。

ブラケットをつかんでシャーシの外側へ回転させて、スライドタブをドライブケースのスライドレールから外します（図1を参照）。ブラケットを少し持ち上げて、そのヒンジタブをシャーシのスロットから外します。

図1 ハードディスクドライブブラケットの取り外し

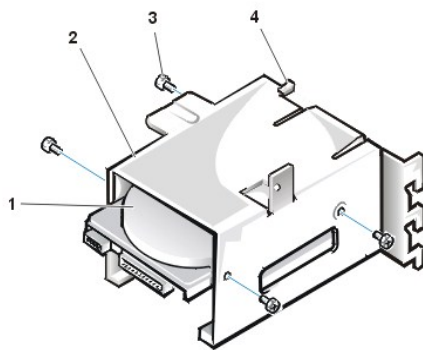


- 1 ドライブケーススライドレール
- 2 シャーシのスロット
- 3 ヒンジタブ
- 4 スライドタブ

5. ドライブ背面のコネクタがシャーシの背面側に位置するように、ドライブをブラケットの選択したベイにスライドさせます (図2を参照)。
6. ドライブとブラケットの4つのネジ穴を合わせて、アップグレードキットに付属するネジで固定します。

ドライブを1.6インチベイに取り付ける場合は、ブラケット側面の4つのネジ穴を使用してください(図2を参照)。ドライブを1インチベイに取り付ける場合は、ブラケット底部の4つのネジ穴を使用してください。

図2 1.6インチハードディスクドライブをブラケットに挿入する

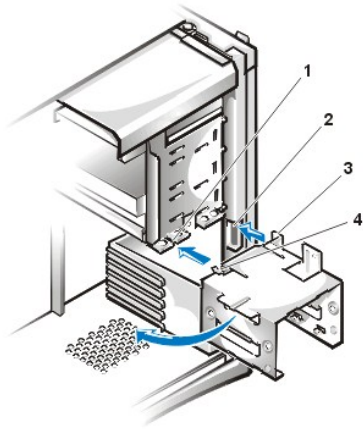


- 1 1.6インチドライブ
- 2 ドライブブラケット
- 3 ネジ(4)
- 4 スライドタブ

7. ハードディスクドライブブラケットをシャーシへ取り付けます (図3を参照)。

ブラケットのヒンジタブをシャーシのスロットへ挿入し、タブをスロットに掛けます。ブラケットをドライブケースの方へ回転させて、ブラケットのスライドタブをドライブケースのスライドレールに合わせます。ブラケットを所定の位置までスライドさせて、手順4で取り外したネジで固定します。

図3 ドライブブラケットをシャーシへ挿入する



- 1 ドライブケースのスライ
ドレール
- 2 シャーシのスロット
- 3 ヒンジタブ
- 4 スライドタブ

8. DC電源ケーブルをドライブ背面の電源入力コネクタに接続します(図4を参照)。

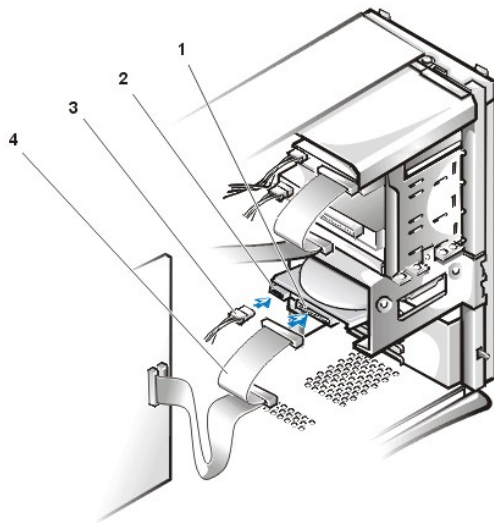
すべてのコネクタにケーブルが正しく接続され、固定されているか確認します。

9. EIDEケーブルのデバイスコネクタの1つを、ハードディスクドライブ背面の40ピンインタフェースコネクタに接続します。

注意:コンピュータを損傷する恐れがありますので、必ずEIDEケーブルの色帯と、ドライブのインタフェースコネクタの1番ピンを一致させてください。

メモ: Ultra ATA/66ハードディスクドライブの場合は、最高速度でデータ転送を行うには80コンダクタケーブルを使用する必要があります。80コンダクタケーブルは、Ultra ATA/33ケーブルとよく似た40ピンコネクタですが、ケーブル内部の導線の数が2倍になっています。Ultra ATA/66ハードディスクドライブにUltra ATA/33用のケーブルを使用すると、データ転送はUltra ATA/33の速度で行われます。

図4 ハードディスクドライブケーブルの接続



- 1 インタフェースコネクタ
- 2 ドライブの電源入力コ
ネクタ
- 3 DC電源ケーブル
- 4 EIDEケーブル

10. EIDEケーブルのもう一方の端のコネクタをまだ接続していない場合は、システム基板上のIDE1コネクタに接続します。

注意:コンピュータを損傷する恐れがありますので、必ずEIDEケーブルの色帯と、IDE1コネクタの1番ピンを一致させてください。

IDE1コネクタの位置については、「コンピュータの内部」の図3を参照してください。

11. コンピュータカバーを取り付けて、コンピュータと周辺機器をそれぞれ電源に接続して、それらの電源スイッチを入れます。

12. ドライブAに起動ディスクを挿入し、コンピュータを再起動します。

13. コンピュータの電源を入れます。


14. セットアップユーティリティを起動して、[Primary Drive 0](#)または[Primary Drive 1](#)の設定を更新します。
セットアップユーティリティの設定を更新したら、システムを再起動します。
15. 次の手順に進む前に、ドライブのパーティション設定と論理フォーマットを済ませます。
詳細な手順については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。
16. [Dell診断プログラム](#)を実行して、ハードディスクドライブをテストします。
17. 取り付けたドライブがプライマリドライブの場合は、そのハードディスクドライブにオペレーティングシステムをインストールします。
インストール手順については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

SCSIデバイスの取り付け

ここでは、SCSI (Small Computer System Interface) デバイスの設定や取り付け方法について説明します。

SCSIの設定ガイド

最大で2つのSCSIハードディスクドライブを、ハードディスクドライブブラケットに取り付けることができます。SCSIデバイスの取り付けは、基本的に他のデバイスと同じですが、設定の要件は異なります。特定のSCSIサブシステムの設定については、SCSIデバイスやホストアダプタカードのマニュアルを参照してください。以降では、一般的な設定ガイドを示します。


 **メモ:** Dell製コンピュータでは、同一のシステムでSCSIとEIDEのハードディスクドライブを混在させることはできません。EIDEハードディスクが装着されている場合は、SCSIハードディスクドライブは取り付けないでください。

SCSI ID番号

SCSIの内蔵デバイスには、0~15のいずれか固有のSCSI ID番号が割り当てられる必要があります。

DellからSCSIデバイスが出荷される際には、プライマリおよびセカンダリコントローラにデフォルトで以下のSCSI ID番号が設定されています。

- 1 SCSIコントローラ: SCSI ID 7
- 1 起動可能なSCSIハードディスクドライブ: SCSI ID 0
- 1 SCSI CD-ROMドライブ: SCSI ID 5
- 1 SCSIテープドライブまたはDAT (デジタルオーディオテープ) ドライブ: SCSI ID 6

 **メモ:** デバイスに連続するSCSI ID番号を割り当てたり、デバイスをID番号順にケーブル接続したりする必要はありません。

Dellで取り付けしたSCSIデバイスは、工場出荷時に正しい設定が済んでいます。これらのSCSIデバイスには、あらかじめSCSI ID番号を設定する必要はありません。

オプションのSCSIデバイスを取り付ける場合は、それぞれのマニュアルを参照して適切なSCSI ID番号を設定してください。

注意: SCSIケーブルはDellから購入したものだけを使用されることをお勧めします。他社のSCSIケーブルは、Dellのシステムでの動作が保証されていません。

デバイスのターミネーション

SCSIロジックでは、SCSIチェーンの両端に位置するデバイスのターミネータを有効にして、その間に位置するすべてのデバイスのターミネータを無効にする必要があります。

オプションで購入したSCSIデバイスのターミネータを無効にする方法については、SCSIデバイスに付属するマニュアルを参照してください。

SCSIケーブル

Ultra2/Wide LVDデバイス (ハードディスクドライブ) では、68ピンケーブルを使用します。このケーブルの一方の終端はSCSIコントローラカードに接続して、残りのコネクタには各種のLVDデバイスを接続します。

Narrow SCSIデバイス (テープドライブ、CD-ROMドライブ、およびいくつかのハードディスクドライブ) では、50ピンケーブルを使用します。このケーブルの一方の終端はSCSIコントローラカードに接続して、残りのコネクタには各種のNarrow SCSIデバイスを接続します。

SCSIデバイスの一般的な取り付け手順

SCSIデバイスの設定やコンピュータへの取り付けは、以下の手順を実行します。

1. 内部のSCSIケーブルのどちらのコネクタをSCSIデバイスに接続するのかを決めます。

- SCSIデバイスをパッケージから取り出して、取り付ける準備をします。

注意: コンピュータ背面の塗装されていない金属面に触れて、身体から静電気を逃がしてください。

注意: ドライブをパッケージから取り出す際は、ドライブを損傷する恐れがありますので、固い台に直接置かず、発泡スチロールなどのクッション材の上に置いてください。

デバイスにSCSI ID番号を設定して、必要な場合はターミネータを無効にします。

- SCSIデバイスを正しく取り付けます。

- SCSIハードディスクドライブを取り付ける場合は、「[EIDEハードディスクの取り付け](#)」の手順3~9を実行してから、手順4に進みます。
- SCSIテープドライブ、CD-ROMドライブ、またはDATドライブを取り付ける場合は、「[ディスクドライブ、テープドライブ、およびCD-ROMドライブ](#)」の手順2~6を実行してから、手順4に進みます。
- 外付けSCSIデバイスを取り付ける場合は、手順4に進みます。
- SCSIホストアダプタカードを取り付ける場合は、カードの設定を行ってから、空いている拡張スロットに装着します（「[拡張カードの取り付け](#)」を参照）。ホストアダプタカードにSCSIハードディスクドライブを接続する場合は、ハードディスクドライブのアクセスケーブルを、SCSIホストアダプタカードとシステム基板上のAUX_LEDコネクタに接続します（「コンピュータの内部」の[図3](#)を参照）。

- SCSIデバイスをSCSIケーブルに接続します。

注意: コンピュータを損傷する恐れがありますので、必ずケーブルの色帯と、ドライブのインタフェースコネクタの1番ピンを一致させてください。

Narrow SCSIケーブルの場合は、ヘッダコネクタの外側の突き出した部分を、デバイスのコネクタのノッチに固定します。LVD SCSIケーブルのコネクタは、接続する向きが決まっています。

外付けSCSIデバイスを取り付ける場合は、SCSIケーブルの一方の端を、デバイス背面のSCSIバスコネクタに接続します。外付けSCSIケーブルのもう一方の端は、コンピュータの背面パネルのSCSIコネクタに接続します。

- SCSIデバイスを電源に接続します。


- 内蔵SCSIデバイスを取り付ける場合は、SCSIデバイスの電源入力コネクタにDC電源ケーブルを接続します。
- 外付けSCSIデバイスを取り付ける場合は、SCSIデバイス背面のコンセントに電源ケーブルのソケットを接続します。電源ケーブルのプラグは、通常の電源コンセントに接続します。

その他のケーブルの接続をすべてチェックします。内部のケーブルは、ファンや冷却装置による空気の流れを遮断しないように配置します。

- 外付けデバイスを取り付けたときは、前面ベゼルを取り外し、前面ベゼルからドライブベイカバーを取り外して、前面ベゼルを取り付け直します。

前面ベゼルの取り外し手順については、「[前面ベゼルの取り外しと取り付け](#)」を参照してください。ドライブベイカバーを取り外すには、ベゼルの内側を手前にして、カバーの両端を親指で押してベゼルから外します。


- コンピュータカバーを取り付けます。コンピュータと周辺機器を電源に接続して、周辺機器の電源を入れます。

 **メモ:** カバーを取り外してから取り付け直すと、次のシステム起動時に、シャーシイントルージョンディテクタから次のメッセージが表示されます。

ALERT! Cover was previously removed.
(警告! カバーが取り外されました。)

- シャーシイントルージョンディテクタをリセットするには、セットアップユーティリティを起動してChassis Intrusionを、Enabled または Enabled-Silentに設定し直します。

設定方法については、「[Chassis Intrusion](#)」を参照してください。

 **メモ:** セットアップパスワードを自分で設定しなかった場合は、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法について、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

- 必要な場合は、セットアップユーティリティを実行してドライブシステムの設定を更新します。

SCSIハードディスクドライブを取り付けた場合は、Primary Drive 0とPrimary Drive 1をNoneに設定する必要があります。セカンドEIDEチャンネルにEIDEデバイス(CD-ROMドライブやテープドライブなど)を接続している場合は、Secondary Drive 0およびSecondary Drive 1またはどちらか1つをAutoに設定する必要があります。セカンドEIDEチャンネルにSCSIデバイスを接続している場合は、Secondary Drive 0およびSecondary Drive 1またはどちらか1つをNoneに設定する必要があります。

- SCSIハードディスクドライブを取り付けた場合は、ドライブのパーティション設定とフォーマットを行ってから、オペレーティングシステムをインストールします。

手順については、「[SCSIハードディスクドライブのパーティション設定とフォーマット](#)」およびオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

11. SCSIデバイスをテストします。

SCSIハードディスクドライブは、[Dell診断プログラム](#)を実行してテストします。

SCSIテープドライブのテストについては、テープドライブ用ソフトウェアのマニュアルを参照して、テープドライブのバックアップや確認のためのテストを行ってください。

SCSIハードディスクドライブのパーティション設定とフォーマット

SCSIハードディスクドライブのパーティション設定やフォーマットを行うには、オペレーティングシステムに付属するプログラムだけでは不十分な場合があります。SCSIハードディスクドライブを使用できるようにするには、SCSIソフトウェアドライバに付属するマニュアルを参照して適切なドライバをインストールしてください。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

ヘルプの概要 : Dell™ OptiPlex™ GX300システムユーザーズガイド

- [テクニカルサポート](#)
- [ヘルプツール](#)
- [ご注文に関する問題](#)
- [製品情報](#)
- [保証期間中の修理もしくは返金による返送品目](#)
- [お問い合わせになる前に](#)

テクニカルサポート

技術上の問題のサポートを受けなければならないときは、以下の手順に従ってください。

1. Dell診断プログラムを実行します。
2. [診断チェックリスト](#)を印刷し、それに記入します。
3. インストールとトラブルシューティングの手順に関しては、DellのWorld Wide Webサイト(<http://www.dell.com/jp/>)のサポートページをご覧ください。
4. これまでの手順で問題が解決されず、Dellの技術者に問い合わせなければならないときは、Dellのテクニカルサポートサービスにお電話ください。

テクニカルサポートにお問い合わせになるときは、まず「[お問い合わせになる前に](#)」を参照してから、「[Dellへのお問い合わせ](#)」に記載の番号にご連絡ください。

ヘルプツール

Dellは、ユーザーを支援するための多数のツールを提供しています。以降では、これらのツールについて説明します。

World Wide Web

インターネットは、ご使用のコンピュータやその他のDell製品に関する情報を得るための最も強力なツールです。Faxboxサービス、ご注文状況、テクニカルサポート、製品情報などにインターネットからアクセスできます。

 DellのWorld Wide Webホームページ(<http://www.dell.com/jp/>)から、[サポート]アイコンをクリックしてください。

以下のツールや情報など、システムについて知っておかなければならないことはすべてサポートページに示しています。

- 1 製品別サポート — システムマニュアル、ドライバやBIOSのアップデート、コンピュータに関連する問題を解決する診断プログラムなどがダウンロードできます。
- 1 各種サポート — Q&A、再インストール方法、ファイルライブラリ、ファクス情報サービス等をご提供いたします。

インターネット上でのDellへのアクセスは、次のアドレスをご利用ください。

- 1 World Wide Web
 - <http://www.dell.com/jp/>(日本)
 - <http://www.dell.com/>(北米)
 - <http://www.dell.com/ap/>(アジア/太平洋諸国のみ)
 - <http://www.euro.dell.com/>(ヨーロッパのみ)
 - <http://www.dell.com/la/>(ラテンアメリカ諸国のみ)

FaxBox サービス(ファクス情報サービス)

Dell FaxBox サービス(ファクス情報サービス)は、フリーダイヤルでファクシミリを使用して24時間年中無休で技術情報を提供するサービスです。

プッシュホン式の電話から必要なトピックを選択します。テクニカル情報が指定したファクス番号宛に送信されます。FaxBox サービス(ファクス情報サービス)の電話番号については、「[Dellへのお問い合わせ](#)」を参照してください。

ご注文に関する問題

欠品、誤った部品、正しくない請求書などの注文に関する問題があれば、Dellカスタマーケアにご連絡ください。お電話の際は、納品書または出荷伝票

をご用意ください。電話番号は、「[Dellへのお問い合わせ](#)」を参照してください。

製品情報

Dellが提供しているその他の製品に関する情報が必要な場合や、ご注文になりたい場合は、DellのWorld Wide Webサイトの<http://www.dell.com/jp/>をご覧ください。電話で販売担当者と話したいときは、「[Dellへのお問い合わせ](#)」を参照してください。

保証期間中の修理もしくは返品について

製品を修理する場合(引き取り修理対応機種のみ)

Dellテクニカルサポートの担当者は、ご使用のコンピュータに関する問題の解決にあたりますが、修理が必要と判断された場合は修理のためにシステムやその備品の返送をお願いすることがあります。

1. テクニカルサポートのお電話でシステムを引き取りに何日程、システム梱包用の箱の有無、引き取る場所、連絡先を確認させていただきます。システムと同梱するべきものがある場合は、その際にご案内いたします。
2. 指定の日、指定の場所に提携宅配業者がシステムを引き取りにお伺いします。梱包用の箱をお持ちの場合は、それまでにシステムの梱包を終わってください。また、サービスタグナンバー(Service Tag #・5桁の英数字で、通常バーコードが記載された細長いシール上に書かれています。このシールは、ノートパソコンの場合はシステムの底面、デスクトップパソコンの場合は本体の背面あるいは側面に貼られています)をお手元に控えておかれるようお願いいたします。このサービスタグナンバーはシステムに関するお問い合わせの際に必要です。

修理以外の理由で製品を返品する場合


1. はじめにDellの営業担当者にご連絡ください。Dellから製品返送用のRMAナンバー(返却番号)をお知らせいたしますので梱包する箱の外側にはっきりとよくわかるように書き込んでください。
2. 製品返却手続きのご案内用紙をファックス(または郵送)でお送りします。返却する製品を、購入時に入っていた箱に梱包し、上記のご案内用紙から返却シートを切り離して箱に貼付します。コンピュータ本体を返品される場合は、返却手続きのご案内に記載されているサービスタグナンバーと、製品に貼付されているサービスタグナンバーが一致しているか、必ずご確認ください。(サービスタグナンバーに関しては「製品を修理する場合」の手順2を参照してください)電源コード、ソフトウェアディスク、マニュアルなどの付属品も全て製品と同梱してください。
3. 集荷依頼窓口に電話し、集荷希望の日時・場所を伝えます。

運送中に破損、紛失、盗難などに遭った場合、Dellでは一切責任を負いかねますので、予めご了承ください。

以上の条件が満たされていない場合は、そのままお客様へ返送させていただくことがあります。

お問い合わせになる前に

必ず[診断チェックリスト](#)に記入してください。可能であれば、システムの電源を入れてから[Dellへお問い合わせ](#)の上テクニカルサポートを受け、コンピュータの近くの電話から電話をかけてください。キーボードからコマンドを入力したり、操作時に詳細情報を説明したり、コンピュータシステム自体でのみ可能な他のトラブルシューティング手順を試してみるようお願いする場合があります。システムのマニュアルがあることを確認してください。

 **警告:** コンピュータカバーを外さなければならないときは、まずすべての電源コンセントからシステムの電源ケーブルとモデムケーブルを外してください。

診断チェックリスト

日付:
名前:
住所:
電話番号:
サービスタグ(コンピュータ背面のバーコード):
返品番号(Dellサポート技術者から提供された場合):
オペレーティングシステムとバージョン:
周辺機器:
拡張カード:

ネットワークに接続されていますか?
ネットワーク、バージョン、ネットワークカード:
プログラムとバージョン:
システムのスタートアップファイルの内容を確認するときは、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。コンピュータがプリンタに接続されている場合は、各ファイルを印刷します。それ以外は、各ファイルの内容を記録してからDellに電話してください。
エラーメッセージ、ビープコードまたは診断コード:
問題点の説明と実行したトラブルシューティング手順:

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

コンピュータの内部 : Dell™ OptiPlex™ GX300システムユーザーズガイド

- [概要](#)
- [内部の図](#)
- [システム基板のコンポーネント](#)
- [システム基板のジャンパ](#)
- [システム基板のラベル](#)
- [AGPカードブレースの取り外しと取り付け](#)
- [電源装置の移動](#)
- [前面ベゼルの取り付けと取り外し](#)

概要

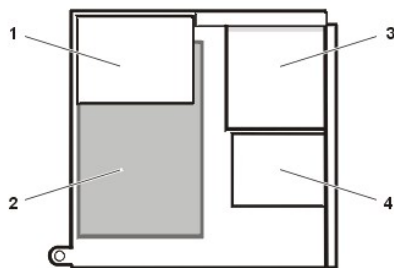
この章ではコンピュータの内部について説明します。アップグレードおこなう前に、参照してください。

⚠ 警告 : コンピュータ内部の作業をおこなう前に、「[作業にあたっての注意](#)」をお読みください。

内部の図

図 1は、側面から見たコンピュータの内部を示しています。コンピュータ内部の作業をするときに、この図で位置の確認ができます。

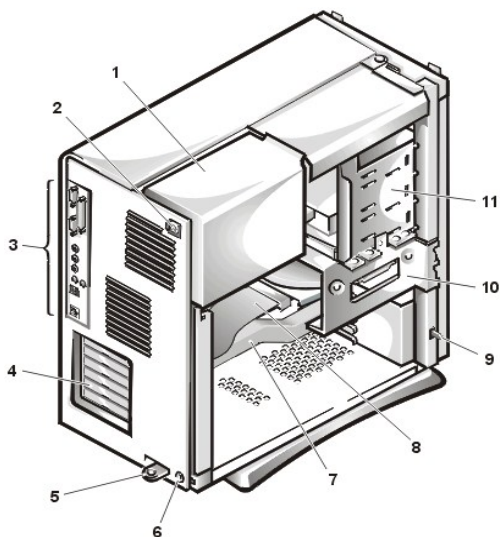
図 1. コンピュータ内の配置図



- 1 電源装置
- 2 システム基板
- 3 フロントドライブ
- 4 ハードディスクドライブ

図 2は、コンピュータカバーを取り外した状態を示しています。

図 2. シャーシの内部

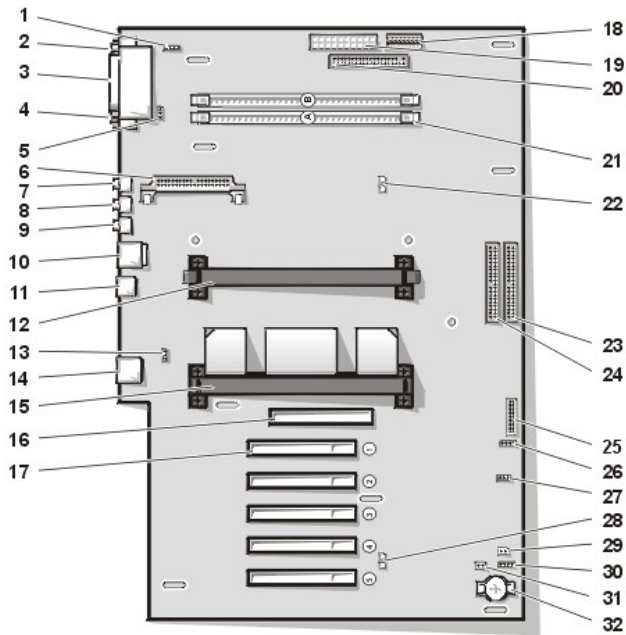


- 1 電源装置
- 2 AC電源ソケット
- 3 [入出力パネルコネクタ](#)
- 4 拡張カードスロット
- 5 パドロックリング
- 6 セキュリティケーブルスロット
- 7 AGPカードブレース
- 8 ドライブインタフェースケーブル
- 9 シャーシイントルージョンスイッチ
- 10 ハードディスクドライブケージ
- 11 フロントドライブベイ

システム基板のコンポーネント

図 3は、システム基板とそのすべてのコネクタとソケットの位置を示しています。

図 3. システム基板のコンポーネント



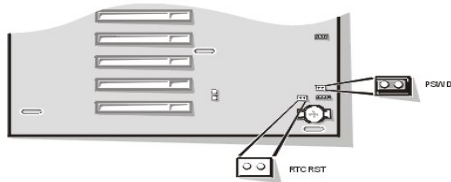
- 1 CD-ROMドライブオーディオインタフェースコネクタ
- 2 シリアルポート1コネクタ
- 3 パラレルポートコネクタ
- 4 シリアルポート2コネクタ
- 5 ファンコネクタ
- 6 VRMコネクタ
- 7 マイクコネクタ
- 8 ライン出カコネクタ
- 9 ライン入カコネクタ
- 10 マウス/キーボードコネクタ
- 11 USBコネクタ
- 12 セカンダリプロセッサコネクタ
- 13 電話通信コネクタ
- 14 NICコネクタ
- 15 プライマリプロセッサコネクタ
- 16 AGPコネクタ
- 17 PCI拡張カードコネクタ(5)
- 18 3.3V電源コネクタ
- 19 電源コネクタ
- 20 ディスケットドライブインタフェースコネクタ
- 21 RIMMソケット(2)
- 22 Suspend-to-RAM LED(発光ダイオード)
- 23 プライマリEIDEインタフェースコネクタ
- 24 セカンダリEIDEインタフェースコネクタ
- 25 コントロールパネルコネクタ
- 26 外付けスピーカコネクタ
- 27 リモートウェイクアップ電源コネクタ
- 28 スタンバイLED
- 29 パスワードジャンパ

- 30 補助ハードディスクドライブインジケータコネクタ
- 31 RTCRST(Real-time clock reset)ジャンパ
- 32 バッテリソケット

システム基板のジャンパ

図 4は、システム基板のジャンパの位置を示しています。表 1は、システム基板のジャンパとそれらの設定を示しています。

図 4. システム基板のジャンパ








ジャンパは、回路基板上の小さなブロックで、2本以上のピンが出ています。内側にワイヤのついたプラスチック製のプラグをピンに差し込むと、ワイヤがピンに接続され、回路が形成されます。

注意:ジャンパの設定を変更するときは、必ずシステムの電源をオフにしてください。電源が入ったまま設定を変更しようとすると、システムの破損など、予期せぬ結果を引き起こすことがあります。

ジャンパの設定を変更するときは、プラグをピンから抜き、抜いたプラグを慎重に指定されたピンに差し込んでください。

表 1. システム基板のジャンパの設定

ジャンパ	設定	説明
PSWD	 (デフォルト)	パスワード機能が有効になっています。
		パスワード機能が無効になっています。
RTCST		リアルタイムクロックリセット。 トラブルシューティングの目的 に使用されます。
 ジャンパあり  ジャンパなし		

システム基板のラベル

表 2に、システム基板上にあるコネクタとソケットのラベルを示し、それぞれの機能を簡単に説明します。

表 2. システム基板のコネクタとソケット

コネクタまたはソケット	説明
AUX_LED	ハードディスクドライブLEDコネクタ
BATT	バッテリーソケット
CD_IN	CD-ROMオーディオインタフェースコネクタ
RIMM_x	RIMMソケット
DSKT	ディスケット/テープドライブインタフェースコネクタ
ENET	内蔵NICコネクタ
EXT_SPKR	外付けスピーカコネクタ
FAN	マイクロプロセッサファンコネクタ
IDEn	EIDEインタフェースコネクタ
INTRUSION	シャーシイントルージョンスイッチコネクタ
KYBD	キーボードコネクタ

MONITOR	ビデオコネクタ
MOUSE	マウスコネクタ
PANEL	コントロールパネルコネクタ
PAR	パラレルポートコネクタ(LPT1と表すこともある)
PCIn*	PCI拡張カードコネクタ
POWER_1	主電源入力コネクタ
POWER_2	3.3V電源入力コネクタ
PROC_0	プライマリマイクロプロセッサコネクタ
PROC_1	セカンダリマイクロプロセッサコネクタ
SER	シリアルポートコネクタ
STANDBY	スタンバイ電源LED
STR	Suspend-to-RAM LED
USB	USBコネクタ
TAPI	電話通信コネクタ
WUOL	リモートウェイクアップ電源コネクタ

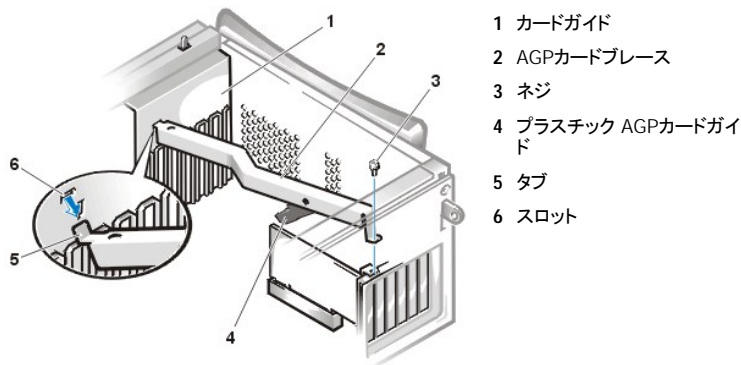
AGPカードブレースの取り外しと取り付け

システム基板の拡張カードまたはコンポーネントに手が届くようにするため、まずAGPカードをAGPソケットに固定しているAGPカードブレースを取り外す必要があります。

⚠ 警告: コンピュータカバーを取り外す前に、「[作業にあたっての注意](#)」をお読みください。

1. [コンピュータカバーを取り外します](#)。
2. AGPカードブレースをシャーシに固定しているネジを取り外します(図 5を参照)。

図5. AGPカードブレースの取り外し



- 1 カードガイド
- 2 AGPカードブレース
- 3 ネジ
- 4 プラスチック AGPカードガイド
- 5 タブ
- 6 スロット

3. ブレースがシャーシ前部のカードガイドから外れるまで、ブレースを回しながら持ち上げます。次にブレースをシャーシから引き上げます。

ブレースを取り付けるには、次の手順を実行します。

1. ブレースの一方の端にあるタブを、シャーシ前部のカードガイドのスロットに差し込みます(図5を参照)。
2. ブレース底部にあるプラスチックAGPカードガイドが、AGPカードの上端とかみ合っていることを確認し、ブレースを下げます。
3. ブレースをシャーシに固定するネジを取り付けます。

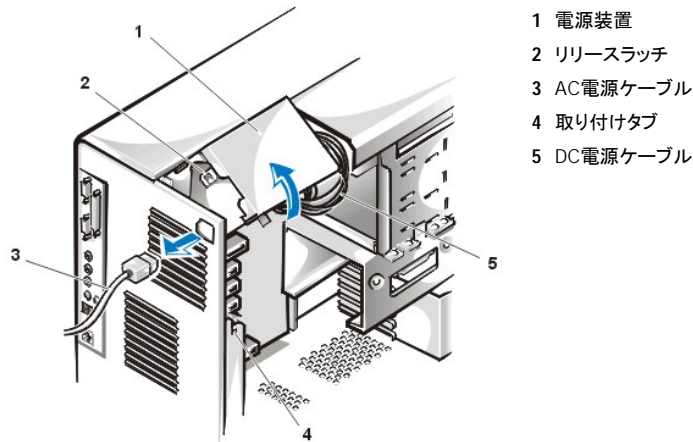
電源装置の移動

システム基板上的のコンポーネントに手が届くように、電源装置を移動させて邪魔にならないようにしなければならないことがあります。電源装置を移動させるには、以下の手順に従ってください。

⚠ 警告: コンピュータカバーを取り外す前に、「[作業にあたっての注意](#)」をお読みください。

1. 「[コンピュータカバーの取り外しと取り付け](#)」の手順に従って、コンピュータカバーを取り外します。
2. AC電源ケーブルを電源装置背面にあるAC電源ソケットから外します(図 6を参照)。

図 6. 電源装置の移動

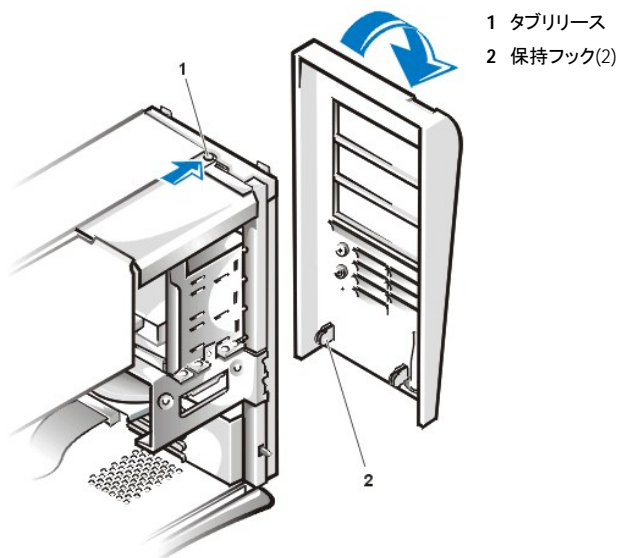


3. 「RELEASE->(外す)」というラベルのついた取り付けタブから電源装置を外し、外した電源装置を上方向に移動させ固定します。

前面ベゼルの取り外しと取り付け

ドライブベイに手が届くようにするには、まず前面ベゼルを取り外す必要があります。前面ベゼルを取り外すには、まずコンピュータカバーを取り外します(「[コンピュータカバーの取り外しと取り付け](#)」を参照)。カバーを外した状態で、図中で示されているタブリリースを押してベゼルを取り外します(図 7を参照)。

図 7. 前面ベゼルの取り外し



タブリリースを押しながら、ベゼルを傾け、まず上部をシャーシから外します。次にベゼルの底部にある2つの保持フックを外し、慎重に手前に引きながらベゼルをシャーシから外します。

ベゼルを取り付けるには、まず、2つの保持フックをシャーシ底部の対応するスロットに合わせます。次に、ベゼルを垂直にし、シャーシ上部のタブリリースを対応するベゼルのスロットにカチッとめ込みます。

[目次ページに戻る](#)

アップグレードのインストール: Dell™ OptiPlex™ GX300システムユーザーズガイド

- [コンピュータの内部](#)
 - [拡張カード](#)
 - [システムメモリ](#)
 - [マイクロプロセッサ](#)
 - [バッテリー](#)
 - [ディスクドライブ、テープドライブおよびCD-ROMドライブ](#)
 - [ハードディスクドライブ](#)
-

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

内部コンポーネント: Dell™ OptiPlex™ GX300システムユーザーズガイド

- [概要](#)
- [作業にあたっての注意](#)
- [コンピュータカバーの取り外しと取り付け](#)
- [濡れたコンピュータのトラブルシューティング](#)
- [損傷を受けたコンピュータのトラブルシューティング](#)
- [バッテリーのトラブルシューティング](#)
- [拡張カードのトラブルシューティング](#)
- [システムメモリのトラブルシューティング](#)
- [ビデオサブシステムのトラブルシューティング](#)
- [システム基板のトラブルシューティング](#)
- [RTC/RSTジャンパを備えたシステム基板の故障のトラブルシューティング](#)
- [ドライブのトラブルシューティング](#)

概要

本章では、コンピュータ内のコンポーネントのトラブルシューティング手順について説明します。本章の手順を開始する前に、以下の事項をおこないます。

- 1 「[接続とスイッチのチェック](#)」および「[セットアップユーティリティ](#)」で説明されている手順を実行します。
- 1 「[作業にあたっての注意](#)」をお読みください。

本章の手順を実行するには、次のアイテムが必要です。

- 1 Dell ResourceCDのコピー
- 1 小型のマイナスドライバと、1番のプラスドライバ(または1/4インチの六角ナットドライバ)

作業にあたっての注意

本項では、コンピュータカバーを取り外してコンピュータ内部の作業を行う必要があります。コンピュータ内部の作業を行う際は、本書およびその他のDellマニュアルに説明されている作業以外は行わないでください。必ず手順を厳密に守ってください。

安全にコンピュータ内部の作業をおこなうために、以下の注意事項に従ってください。

お客様の安全と装置の保護のための警告

コンピュータの作業を開始する前に、以下の操作を順番通りにおこなってください。

1. コンピュータとすべての周辺機器の電源を切ります。
2. コンピュータ背面のカードスロットなど、シャーシの塗装されていない金属部分に触れてから、コンピュータ内部の部品を扱ってください。
3. けがや感電の危険を防止するため、コンピュータと周辺機器の電源コードを電源コンセントから抜きます。さらに、電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータから外します。

 **メモ:** コンピュータから周辺機器を取り外す際や、システム基板からコンポーネントを取り外す際は、システム基板上のスタンバイ電源LEDがオフになっていることを確認します。このLEDの位置については、「コンピュータの内部」の [図3](#)を参照してください。

作業中も、コンピュータシャーシの塗装されていない金属部分にときどき触れて、内部コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を逃がしてください。

さらに、『システム情報ガイド』の安全上の注意も定期的に確認することをお勧めします。

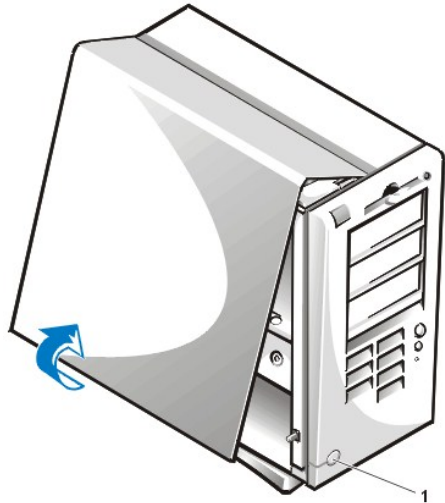
コンピュータカバーの取り外しと取り付け

コンピュータカバーを取り外すには、以下の手順を実行します。

1. コンピュータと周辺機器の電源を切り、「[作業にあたっての注意](#)」の「お客様の安全と装置の保護のための警告」を参照します。
2. 背面パネルの [パッドロックリング](#) にパッドロックを取り付けている場合は、パッドロックを取り外します。

3. コンピュータの背面を手前に向けて、パッドロックリングの上半分を左にスライドさせてカバーのロックを解除します。
4. 次のようにしてコンピュータカバーを取り外します。
 - a. 左側のカバーを手前に向けて、前面ベゼル左下の端にあるリリースボタンを押します(図1を参照)。
 - b. カバーの底を持ち上げて、手前に開きます。
 - c. カバーをシャーシ上部に固定しているタブを外して、カバーを取り外します。

図1 コンピュータカバーの取り外し

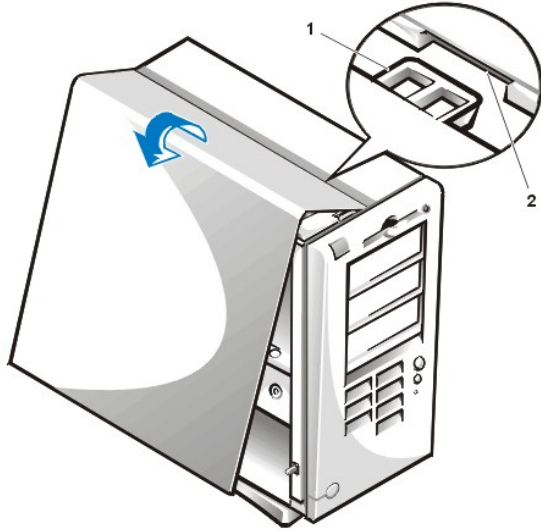


1 リリースボタン

コンピュータカバーを取り付けるには、以下の手順を実行します。

1. すべてのケーブル接続、特に作業中にゆるんだと思われるケーブル接続をチェックします。ケーブルは邪魔にならない場所に束ね、コンピュータカバーに引っかからないようにします。さらに、コンピュータカバーをきちんと閉じられなくなりますので、ケーブルはドライブケージの上に配線しないでください。
2. 工具や部品(ネジなど)がコンピュータシャーシの内部に残っていないかを確認します。
3. 以下のようにしてコンピュータカバーを取り付けます。
 - a. コンピュータの左側を手前に向けて、図2のようにカバーを少し傾けて持ちます。
 - b. カバーの上部とシャーシの上部を合わせて、カバーのフックをコンピュータシャーシの凹型スロットに挿入し、タブをスロット内部のフックに掛けます。
 - c. カバーをシャーシ底部に向かって倒し、カバー底部の固定用フックを所定の位置にカチッとはめます。

図2 コンピュータカバーの取り付け



- 1 フック
- 2 凹型スロット

4. 半分に分かれていたパドロックリングをスライドさせていっしょにし、カバーをロックします。
5. パドロックを使ってコンピュータを固定していた場合は、パドロックを取り付けます。

濡れたコンピュータのトラブルシューティング

液体はコンピュータを損傷します。コンピュータを水浸しにすることはないでしょうが、水滴をこぼしたり、液体をかけたり、過度の湿気にさらすとコンピュータが損傷する恐れがあります。外付けデバイス（プリンタや外付けドライブなど）が濡れた場合は、それぞれのメーカーに問い合わせる指示を仰いでください。コンピュータが濡れた場合は、以下の手順を実行します。

1. コンピュータと周辺機器の電源を切り、すべての電源コードを電源コンセントから抜きます。さらに、電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータから抜きます。

⚠ 警告 : コンピュータカバーを取り外す前に「[作業にあたっての注意](#)」を参照してください。

2. [コンピュータカバーを取り外します](#)。
3. コンピュータを24時間以上乾かします。以降の作業は必ずコンピュータが完全に乾いてから行ってください。
4. 「[AGPカードブレースの取り外しと取り付け](#)」の手順に従って、AGPカードブレースを取り外します。
5. ドライブコントローラカードとビデオ拡張カード以外の、コンピュータに取り付けられているすべての[拡張カードを取り外します](#)。
6. コンピュータカバーを取り付けて、システムの電源プラグをコンセントに差し込み、電源を入れます。

システムに電源が入った場合は、手順6に進みます。システムに電源が入らなかった場合は、「[困ったときは](#)」を参照してテクニカルサポートまでお問い合わせください。

7. システムの電源を切り、電源プラグを電源コンセントから抜き、コンピュータカバーを取り外して、手順4で外した拡張カードをすべて取り付け直します。
8. AGPカードブレースを取り付けます。
9. コンピュータカバーを取り付けて、システムの電源プラグをコンセントに差し込みます。さらに、電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータに再接続します。
10. Dell ResourceCDを挿入して[Dell診断プログラム](#)を実行し、システムを再起動します。
11. System Board Devices テストグループを実行します。

テストが正常終了した場合、システムは正しく動作しています。「[困ったときは](#)」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。

損傷を受けたコンピュータのトラブルシューティング

コンピュータを落としたり損傷を与えた場合は、コンピュータが正常に動作するかどうかチェックしてください。外付けデバイスを落としたり損傷を与えた場合は、デバイスのメーカーに問い合わせる指示を仰ぐか、「[困ったときは](#)」を参照して、Dellのテクニカルサポートにお問い合わせください。損傷を受けたコンピュータのトラブルシューティングを行うには、以下の手順を実行します。

1. コンピュータとすべての周辺機器の電源を切り、すべての電源コードを電源コンセントから抜きます。さらに、電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータから外します。

⚠ 警告: コンピュータカバーを取り外す前に「[作業にあたっての注意](#)」を参照してください。

2. [コンピュータカバーを取り外します](#)。
3. コンピュータ内部のすべての拡張カードの接続を確認します。
4. ディスケット・テープドライブ、ハードディスクドライブなどコンピュータ内部に取り付けられているすべてのデバイスの接続を確認します。
すべてのケーブルが正しく接続されていることと、すべてのコンポーネントが所定のコネクタやソケットに正しく装着されていることを確認してください。
5. [コンピュータカバーを取り付けて](#)、電源コンセントにシステムを再接続し、電話回線または通信回線を再接続します。
6. Dell ResourceCDを挿入して[Dell診断プログラム](#)を実行し、システムを再起動します。
7. System Board Devicesテストグループを実行します。

テストが正常終了した場合、システムは正しく動作しています。何らかのテストが失敗した場合は、「[困ったときは](#)」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。

バッテリーのトラブルシューティング

⚠ 警告: 新しいバッテリーは、正しく装着しないと破裂する恐れがあります。バッテリーの交換の際は、同じバッテリー、またはメーカーが推奨する同等のバッテリーのみを使用してください。使用済みのバッテリーは、メーカーの指示に従って廃棄してください。

バッテリーの問題を示すエラーメッセージが表示されたり、コンピュータの電源を切ったときに[セットアップユーティリティ](#)でシステム設定情報が失われた場合は、バッテリーが不良である可能性があります。

バッテリーのトラブルシューティングを行うには、以下の手順を実行します。

1. コンピュータとすべての周辺機器の電源を切り、すべての電源コードを電源コンセントから抜きます。さらに、電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータから抜きます。

⚠ 警告: コンピュータカバーを取り外す前に「[作業にあたっての注意](#)」を参照してください。

2. [コンピュータカバーを取り外します](#)。
3. 「[AGPカードブレースの取り外しと取り付け](#)」の手順に従って、AGPカードブレースを取り外します。
4. バッテリーをソケットに装着し直します。

バッテリーはコインの形をしていて、システム基板上のソケットにカチッとハマるようになっています。

5. 問題が解決しない場合は、バッテリーを交換します。

それでも問題が解決しない場合は、システム基板が故障している可能性があります。「[困ったときは](#)」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。

拡張カードのトラブルシューティング

拡張カードの問題を示すエラーメッセージが表示されたり、拡張カードが正常に動作しなかったり、まったく動作しない場合は、接続が間違っているか、ソフトウェアや他のハードウェアとのコンフリクトが発生しているか、または拡張カードが故障している可能性があります。拡張カードのトラブルシューティングを行うには、以下の手順を実行します。

1. コンピュータとすべての周辺機器の電源を切り、すべての電源コードを電源コンセントから抜きます。さらに、電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータから抜きます。

⚠ 警告: コンピュータカバーを取り外す前に、「[作業にあたっての注意](#)」を参照してください。

2. [コンピュータカバーを取り外します](#)。
3. 「[AGPカードブレースの取り外しと取り付け](#)」の手順に従って、AGPカードブレースを取り外します。
4. 拡張カードがコネクタにしっかりと装着されているか確認します。拡張カードがゆるんでいる場合は、装着し直します。
5. 拡張カードのコネクタに対応するケーブルがしっかりと接続されているか確認します。ゆるんでいるケーブルは接続し直します。

拡張カードの特定のコネクタに対応するケーブルを接続する手順については、拡張カードのマニュアルを参照してください。

6. ビデオカードを除くすべての**拡張カードを取り外します**。
7. **コンピュータカバーを取り付けて**、電源ケーブルを電源コンセントに接続し、コンピュータの電源を入れます。
8. Dell ResourceCDを挿入してシステムを再起動し、**Dell診断プログラム**を実行します。
9. RAMテストグループを実行します。

テストが成功した場合は、手順8に進みます。何らかのテストが失敗した場合は、「**困ったときは**」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。

10. システムの電源を切り、電源コードを電源コンセントから抜いて、コンピュータカバーを取り外します。
11. 取り外した拡張カードの1つを取り付け直して、手順6と7を繰り返します。

何らかのテストが失敗した場合は、装着し直した拡張カードが不良ですので、交換する必要があります。テストが正常終了したら、他の拡張カードについても手順8と9を繰り返します。

12. 取り外した拡張カードをすべて取り付け直しても、拡張カードの問題が解決しない場合は、「**困ったときは**」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。

システムメモリのトラブルシューティング

コンピュータのメモリに問題がある場合は、RIMMに欠陥があるか、またはシステム基板の不良である可能性があります。RAMのエラーメッセージが表示された場合は、コンピュータのメモリに問題があると考えられます。

システムの電源を入れたり、再起動したときは、キーボード上のCaps LockやScroll Lockのインジケータは一瞬点滅してから消えます。**セットアップユーティリティ**のNum Lock項目がOnに設定されている場合は、Num Lockインジケータは一瞬点滅してから、点灯したままになります。それ以外は、消えてしまいます。これらのインジケータの異常な動作は、ソケットAのRIMMの不良が原因と思われます。システムメモリの問題を解決するには、以下の手順を実行します。

1. システムと接続されている周辺機器の電源を入れます。

⚠ 警告 : コンピュータカバーを取り外す前に「**作業にあたっての注意**」を参照してください。

2. システム設定情報が無効というエラーメッセージが表示された場合は、**セットアップユーティリティを起動**して、System Memory項目をチェックします。表示されたメモリの合計容量が、実際に装着されているメモリの合計容量と一致しない場合は、コンピュータの電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜き、**コンピュータカバーを取り外し**、**AGPカードブレースを取り外して**、RIMMをソケットに装着し直します。
3. AGPカードブレースを取り付けてから、**コンピュータカバーを取り付けて**、システムの電源プラグをコンセントに差し込み、電源を入れます。
4. 問題が解決しない場合は、Dell ResourceCDを挿入して、システムを再起動し、**Dell診断プログラム**を実行します。
5. RAMテストグループを実行します。
6. Dell診断プログラムでRIMMの不良と診断された場合は、**RIMMを交換してください**。Dell診断プログラムでシステム基板の不良と診断された場合や、Dell診断プログラムでは問題の原因を特定できず、問題が解決できない場合は、「**困ったときは**」を参照して、テクニカルサポートまでお問い合わせください。

ビデオサブシステムのトラブルシューティング

ビデオのトラブルシューティングは、モニタ、モニタインタフェースケーブル、またはビデオカードのどれが原因なのかを特定することから始まります。

ビデオサブシステムのトラブルシューティングを行う前に、「**モニタのトラブルシューティング**」の手順を実行して、問題の原因がモニタなのかどうか判断してください。

モニタが故障していない場合は、以下の手順を実行します。

1. 「**接続とスイッチのチェック**」を参照して、モニタケーブルの接続を調べます。
2. 問題が解決しない場合は、ビデオカードのマニュアルを参照してトラブルシューティングを続行します。

何らかのテストが失敗した場合は、「**困ったときは**」を参照して、テクニカルサポートまでお問い合わせください。

システム基板のトラブルシューティング

システム基板の問題は、システム基板のコンポーネントの故障や、電源ユニットの故障、またはシステム基板に故障したコンポーネントが接続されてい

ることが原因で起こります。システム基板の問題を示すエラーメッセージが表示された場合は、以下の手順を実行します。

1. Dell ResourceCDを挿入して、[Dell診断プログラム](#)を実行し、システムを再起動します。
2. System Board Devicesテストグループを実行します。
何らかのテストが失敗した場合は、「[困ったときは](#)」を参照してテクニカルサポートまでお問い合わせください。
3. コンピュータとすべての周辺機器の電源を切り、すべての電源コードを電源コンセントから抜きます。さらに、電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータから外します。

⚠ 警告: コンピュータカバーを取り外す前に、「[作業にあたっての注意](#)」を参照してください。

4. [コンピュータカバーを取り外します](#)。
5. 「[AGPカードブレースの取り外しと取り付け](#)」の手順に従って、AGPカードブレースを取り外します。
6. 電源ユニットの電源ケーブルが、システム基板上のコネクタにしっかりと接続されているか確認します。
7. AGPカードブレースを取り付けます。
8. [コンピュータカバーを取り付けて](#)、システムの電源プラグをコンセントに差し込み、電源を入れます。問題が解決されない場合は、手順9に進みます。
9. 「[拡張カードのトラブルシューティング](#)」の手順を実行します。それでも問題が解決しない場合は、手順10に進みます。
10. 「[キーボードのトラブルシューティング](#)」の手順を実行します。
11. それでも問題が解決しない場合は、「[困ったときは](#)」を参照してテクニカルサポートまでお問い合わせください。

RTC/RSTジャンパを備えたシステム基板の故障のトラブルシューティング

システムが起動せず、他に解決する手段が何もない場合、以下の手順を実行します。

1. システムおよび接続されているすべての周辺機器の電源を切り、すべてのAC電源ケーブルをコンセントから抜きます。また、すべての電話回線または通信回線もコンピュータから外します。

⚠ 警告: コンピュータカバーを取り外す前に、「[作業にあたっての注意](#)」を参照してください。

2. [コンピュータカバーを取り外します](#)。
3. ミニタワーシャーシをお使いの場合、「[AGPカードブレースの取り外しと取り付け](#)」の手順に従ってAGPカードブレースを取り外します。
4. ジャンパプラグを[RTC/RSTジャンパピン](#)に取り付け、次に取り外します。
5. [コンピュータカバーを取り付けて](#)、システムを電源コンセントに接続して電源を入れます。問題が解決しない場合は、「[困ったときは](#)」を参照してテクニカルサポートにお問い合わせください。

ドライブのトラブルシューティング

起動ルーチンの実行中や、[Dell診断プログラム](#)の実行中に、ドライブの問題を示すエラーメッセージが表示された場合や、ドライブが正常に動作しない場合は、以下の手順を実行します。

1. [セットアップユーティリティ](#)を起動して、問題のドライブが正しく設定されているか確認します。必要な場合は設定を変更して、システムを再起動します。
2. 問題が解決しない場合は、コンピュータと周辺機器の電源を切り、すべての電源コードを電源コンセントから抜きます。さらに、電話回線や通信回線のケーブルもコンピュータから抜きます。

⚠ 警告: コンピュータカバーを取り外す前に、「[作業にあたっての注意](#)」を参照してください。

3. [コンピュータカバーを取り外します](#)。
4. 電源装置からのDC電源ケーブルが、各ドライブのコネクタにしっかりと接続されているか確認します。さらに、各ドライブのインタフェースケーブルが、ドライブとシステム基板にしっかりと接続されているかどうか確認します。
5. [コンピュータカバーを取り付けて](#)、システムの電源プラグをコンセントに差し込み、電源を入れます。問題が解決されない場合は、手順6に進みます。
6. Dell ResourceCDを挿入してシステムを再起動し、[Dell診断プログラム](#)を実行します。

7. 該当するテストグループを実行します。
 8. Dell診断プログラムでドライブの不良と診断された場合は、そのドライブを交換します。コントローラの不良と診断された場合は、システム基板の不良が考えられます。「[困ったときは](#)」を参照してテクニカルサポートまでお問い合わせください。
-

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

はじめに: Dell™ OptiPlex™ GX300システムユーザーズガイド

- [概要](#)
- [ハードウェアの機能](#)
- [ソフトウェアの機能](#)
- [管理機能](#)
- [ENERGY STAR®への準拠](#)


概要

Dell OptiPlex GX300 Managed PCシステムは、Intel® Pentium® IIIマイクロプロセッサを搭載した、高速かつ拡張可能なパーソナルコンピュータです。高性能なPCI設計を採用しているため、初期の必要に応じてシステムを構成し、その後Dellがサポートするアップグレード製品を追加することができます。


ハードウェアの機能

ご使用のシステムは、以下の機能を備えています。

- 1 最大2つまで搭載可能な、Intel Pentium IIIマイクロプロセッサ。
- 1 RDRAM(Rambus dynamic random-access memory)RIMMをシステム基板のRIMMソケットに取り付けることで、最大1GBまで増設可能な、[システムメモリ](#)。

 **メモ:** 最大の1GBまでメモリを増設するには、512MBのRIMMを2つ取り付ける必要があります(各RIMMには、最大搭載可能数である16個のメモリチップが搭載されていることが望ましい)。システムは、取り付けられている全てのRIMM上の、合計32個までのメモリチップをサポートします。搭載されているメモリチップ数を示したRIMM上のラベルの位置は、「システムメモリ」の[図1](#)を参照してください。

- 1 最大で32MBのSDRAMまたはSGRAMビデオメモリを搭載した、4X AGPビデオカード。詳細は、ビデオカードのマニュアルを参照してください。
- 1 内蔵Analog Devices AD1881 AC97 Codecオーディオコントローラ。Sound Blasterエミュレーション機能や、16ビットのA/D(アナログからデジタル)およびD/A(デジタルからアナログ)ステレオ変換機能を備えています。
- 1 SMART IIのサポート。ハードディスクドライブの信頼性が低くなると、システム起動時に警告が表示されます。
出荷時にOptiPlex GX300システムに搭載されているハードディスクドライブはSMART II に準拠しています。
- 1 Ultra ATA/66のサポート。ATA対応のEIDE固定ディスク記憶装置によって、最大で66MB/秒のデータ転送が実現します。
- 1 PCI仕様2.2に完全準拠

 **メモ:** PC99要件を満たすために、お使いの Dell システムはPCI拡張スロットのみを使用しています。ISA (Industry-Standard Architecture) 拡張カードはサポートしていません。

- 1 内蔵NICおよびオプションのNIC拡張カードの両方に対応した[リモートウェイクアップ](#)機能。内蔵の[セットアップユーティリティ](#)でRemote Wake Up項目が有効になっている場合は、サーバ管理コンソールからシステムを起動させることができます。

リモートウェイクアップ機能を使って、ネットワークの通信量が最小になる夜間や週末に、リモートコンピュータのセットアップ、ソフトウェアのダウンロードやインストール、ファイルの更新、およびトラッキング管理をおこなうこともできます。

- 1 MBA機能。PXE、RPL、BootP、またはNovell® NetWare® Remote Bootという4つのネットワークプリブートプロトコルのいずれかを使ってシステムを起動できます。
- 1 リモートシステム警告機能。特定の操作状態になると、あらかじめ決められたネットワークメッセージが、システムから送信されます。
- 1 USB機能。マウス、プリンタ、コンピュータスピーカなどの周辺機器の接続を簡素化します。システムBIOSは、MS-DOS®や、Windows®以外のオペレーティングシステム環境で使用するUSB対応キーボードやマウスをサポートします。
- 1 メンテナンス性に優れ、取り外しが簡単なDell OptiFrame™シャーシ。

ハードウェアの機能の詳細については、「[仕様](#)」を参照してください。

ソフトウェアの機能

ご使用のシステムには、次のソフトウェアが用意されています。



メモ: お使いのシステムのすべてのバックアップコピーは、Dell ResourceCDに収録されています。これらのドライバを再インストールする必要がある場合は、Dell ResourceCDに付属のマニュアルを参照してください。

- 1 BIOS。フラッシュメモリに常駐しています。必要に応じて、ディスクを使って、またはネットワークを通じてアップグレードできます。
- 1 オーディオドライバ。内蔵オーディオコントローラのサウンド機能を使用できるようにします。
- 1 バスマスタリングEIDEドライバ。これにより、複数のアプリケーションが同時に起動されている場合のマルチスレッド処理中に、マイクロプロセッサからの負荷が減少し、パフォーマンスが向上します。
- 1 内蔵の**セットアップユーティリティ**。システム設定情報の表示、および変更を迅速におこないます。また、セットアップユーティリティは、いくつかの**高度なセキュリティ機能**(セットアップパスワード、システムパスワード、システムパスワードロックオプション、ディスクドライブの書き込み禁止オプション、およびシステムのサービスタグナンバーの表示)も提供します。
- 1 **Dell診断プログラム**。コンピュータのコンポーネントおよびデバイスを診断します。
- 1 複数のオペレーティングシステム用ネットワークデバイスドライバ
- 1 DMI(Desktop Management Interface)のサポート。DMIにより、ご使用のコンピュータシステムのソフトウェアおよびハードウェアをリモート管理できます。
- 1 **Dell OpenManage™ IT Assistant** のサポート

管理機能

Dell OptiPlex GX300 Managed PCシステムは、箱から取り出してすぐに使えるよう設計されています。システムの管理を簡単にするために、システムはDMIエージェントが有効な状態で出荷されていますので、システム設定へのアクセスと変更がリモートで管理できます。ただし、注意しないと、DMIエージェントが有効なシステムでは不正な変更を簡単におこなうことができます。このため、**Setup Password**を有効にしてシステム設定への不正な変更を防止することを強くお勧めします。

以下の項では、お使いのハードウェアまたはソフトウェアに応じた管理機能について説明しています。

- 1 [Dell OpenManage IT Assistant](#)
- 1 [MBA](#)
- 1 [リモートウェイクアップ](#)
- 1 [リモートシステムアラート](#)
- 1 [オートパワーオン](#)
- 1 [シャーシイントルージョンアラート](#)
- 1 [温度および電圧モニタ](#)
- 1 [CIMのサポート](#)
- 1 [構成変更アラート](#)
- 1 [COO MIF規格に対応したAsset Info](#)
- 1 [リモートBIOSフラッシュ](#)
- 1 [リモートシステム設定](#)
- 1 [故障前のアラート](#)

Dell OpenManage IT Assistant

Dell OpenManage IT Assistantプログラム(Dellのウェブサイト <http://www.dell.com> からダウンロードするか、お使いのハードディスクドライブにDellがオプションとしてインストールしたものを利用)は、DellのDMI用ソフトウェア管理アプリケーションインタフェースです。Dell OpenManage IT Assistantを使用すると、システムレベルの情報(たとえばシステム設定情報、管理情報フォーマット(MIF)のデータベース値など)が管理できます。

Dell OpenManage IT Assistantには、以下のような故障管理機能があります。

- 1 ローカルまたはリモートシステム上のSMARTドライブで発生したイベントについて警告を表示します。
- 1 テキストファイルにイベントをイベントログとして保存し、イベントについて以下の情報を表示します。**システム名、コンポーネント名、日時、イベントタイプ、イベントの重大性、イベントクラス、およびイベントシステム。**

Dell OpenManage IT Assistantには、以下のような設定管理機能があります。

- 1 リモートウェイクアップ機能のサポート。この機能を使って、ネットワーク管理者は、Dell DMIネットワークのManaged PCシステムを起動させること

ができます。

- 1 **System Properties**ウィンドウ。このウィンドウを使用して、ネットワーク管理者は、Dell DMIネットワークのローカルおよびリモートシステムの特定のハードウェアの設定値を参照したり、設定したり、無効にしたりできます。
- 1 Microsoft® SMS(システム管理サーバ)のサポート。1つまたは複数のグループを、SMS管理者がアクセスできるSMSディレクトリに転送できます。
- 1 Windows 98またはWindows 95が実行され、かつDDC(display data channel)に準拠したビデオサブシステムおよびモニタが搭載されたシステム用のモニタコンポーネント。
- 1 1つまたは複数のグループの自動資源管理。この機能は、Dell DMIネットワークのリモートシステム用です。

ネットワーク管理者は、毎日、毎週または毎月の決まった時間に、資源管理を自動で作動させることができます。また、必要に応じて、その機能を作動させることもできます。Dell OpenManage IT Assistantは、グループのテキストファイルを作成し、ユーザが定義したディレクトリに保存します。

- 1 UDA(ユーザ定義属性)を作成するために必要なアプリケーションのサポート

Dell OpenManage IT Assistantには、以下のような資産管理機能があります。

- 1 ネットワーク管理者は、Dell DMIネットワークのリモートシステムに対して、管理タグをリモートで参照したり、入力したり、変更したりできます。
- 1 1つまたは複数のグループを、ユーザ定義のディレクトリに自動または手動で割り当てることができます。

Dell OpenManage IT Assistantにはセキュリティ管理機能として、パスワードセキュリティ機能があります。ネットワーク管理者は、Dell DMIネットワークのローカルおよびリモートシステムに対して、標準の属性値を維持できます。

Dell OpenManage IT Assistantの詳細については、Dell OpenManage IT Assistant付属のオンラインマニュアルを参照してください。

MBA


3Com® MBAは、複数のプリブート環境をサポートしているので、ネットワーク管理者はネットワークサーバからシステムを起動できます。

MBAの詳細については、「[Network Interface Controller](#)」を参照してください。

リモートウェイクアップ

リモートウェイクアップ機能を使って、スリープ状態や電源の入っていない状態のManaged PCシステムをリモートで起動できます。これにより、リモートでコンピュータのセットアップ、ソフトウェアのダウンロードやインストール、ファイルの更新、およびアセットラッキングをいつでもおこなうことができます。

リモートウェイクアップ機能を使用するには、各Managed PCシステムにリモートウェイクアップ機能に対応した内蔵NICが必要になります。また、[セットアップユーティリティ](#)のRemote Wake Up項目を有効にしておく必要があります。

 **メモ:**システムを電源タップまたはサージプロテクタを使用してシャットダウンした場合、この機能は使用できません。

リモートシステムアラート


リモートシステムアラート機能により、システムが起動する前に、システムの動作状態についてのあらかじめ決められたメッセージを、リモート管理コンソールに送信されます。たとえば、コンピュータカバーが取り外されると、システムは警告を送信します。

リモートシステム警告機能を使用するには、各Managed PCシステムにリモートシステムアラート機能に対応した内蔵NICが必要になります。

 **メモ:**システムを電源タップまたはサージプロテクタを使用してシャットダウンした場合、この機能は使用できません。

オートパワーオン

オートパワーオン機能を使用すると、ある曜日の所定の時刻に自動的にシステムを起動することができます。Auto Power Onを設定して、毎日、または月曜日から金曜日までの曜日を指定して自動的にシステムを起動させることができます。

 **メモ:**システムを電源タップまたはサージプロテクタを使用してシャットダウンした場合、この機能は使用できません。

シャーシイントリージョンアラート

ローカルまたはリモートシステムのシャーシが開けられると、警告が表示されます。

温度および電圧モニタ

ご使用のシステムには、オーバーヒートや電源電圧の適正範囲からの逸脱を検知する温度プローブと電圧プローブがあります。いずれの場合も、Dell OpenManage IT Assistantの実行中、もしくは次のシステムの起動中に、問題の発生を知らせるメッセージが画面に表示されます。

CIMのサポート

WBEM(Web-Based Enterprise Management)コアコンポーネントを搭載したMicrosoft Windows 98またはその他のWindowsオペレーティングシステムが実行されている場合に、CIMを使用してシステム管理情報にアクセスできます。WBEMコアコンポーネントとそのインストールの詳細は、MicrosoftのWeb

サイト<http://www.microsoft.com>を参照してください。

CIMのサポートの詳細については、ハードディスクドライブのDell Documentsフォルダにある『Dell OpenManage Client Instrumentation Version 5.0 User's Guide』を参照してください。

構成変更アラート

ローカルまたはリモートシステムのハードウェア構成が変更されると、それを知らせる警告メッセージが表示されます。

COO MIF規格に対応したAsset Info

非独占的なDMI規格を採用したAsset Info機能を使って、ユーザはシステム関連のコストを記録したり追跡したりできます。コストに関する情報は、ハードディスクドライブの`coo.mif`(所有コスト管理情報フォーマット)ファイルに保存されます。Asset InfoおよびCOO MIF規格の詳細については、オンラインの『Dell OpenManage Client Instrumentation Version 5.0 User's Guide』を参照してください。

リモートBIOSフラッシュ

リモートBIOSフラッシュを使って、ネットワーク管理者は、ネットワーク上のシステムに対してリモートでBIOSをアップグレードできます。

リモートシステム設定


リモートシステム設定機能を使って、ネットワーク管理者は、システム管理タグ、起動順序、プロパティ所有タグ、およびセットアップユーティリティの設定を変更したり、BIOSを更新したりできます。

故障前のアラート

故障前のアラート機能により、SMART IIハードディスクドライブで発生しそうな故障についての警告メッセージが表示されます。

ENERGY STAR®への準拠

Dellのいくつかのコンピュータシステムは、省エネコンピュータを目指した米国環境保護局(EPA)が規定する要件を満たしています。ご使用のコンピュータの正面パネルにENERGY STAR®エンブレム(図1を参照)があれば、このコンピュータの出荷時の構成はこの規格に準拠しており、コンピュータのENERGY STAR®電力管理機能のすべてが使用できます。

 **メモ:** Dell Computer Corporationは、ENERGY STAR® のパートナーです。本製品はエネルギー効率に関して、ENERGY STAR®ガイドラインを満たしています。

ENERGY STAR®エンブレムの付いたDellコンピュータは、Dellからの出荷時にEPA ENERGY STAR®の要件に従って構成されていることが証明されています。この構成になんらかの変更(拡張カードまたはドライブの増設など)をおこなうと、システムの消費電力はEPAのENERGY STAR®Computersプログラムで設定されている限界を超えるおそれがあります。

図 1. ENERGY STAR®エンブレム



EPAのENERGY STAR®コンピュータプログラムは、省エネコンピュータ製品を促進することによって大気汚染を減らすために、EPAとコンピュータメーカーが共同で作成したものです。EPAでは、ENERGY STAR®コンピュータ製品を使用することによって、コンピュータユーザの年間電気料が最高で20億ドル節約されると予測しています。この電気使用量の節減によって、温室効果の一番の原因となる二酸化炭素の発生、および酸性雨の主要な原因である二酸化硫黄と窒素酸化物の発生を減少させることができます。

またコンピュータユーザは、夜間および週末などコンピュータを長時間使用しないときに電源を切ることによって、電気使用量とそれによる悪影響を減少させることができます。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

システムメモリ: Dell™ OptiPlex™ GX300システムユーザーズガイド


● [概要](#)

● [RIMMの取り外し](#)

● [RIMMの取り付け](#)

概要

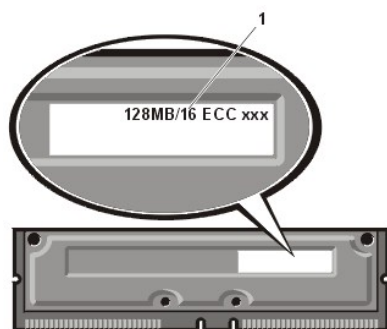
RDRAMやRIMMを取り付けることにより、システムメモリを最大1GBまで増設できます。「コンピュータの内部」にある[図 3](#)にシステム基板のRIMMソケットの位置が示されています。

 **メモ:** 最大1GBまでメモリを増設するには、512MBのRIMMを2つ取り付ける必要があります(各RIMMには、最大搭載可能数である16個のメモリチップを搭載していることが望ましい)。システムは、取り付けられている全てのRIMM上の、合計32個までのメモリチップをサポートします。搭載されているメモリチップ数を示したRIMM上のラベルの位置は、[図 1](#)を参照してください。また、セットアップユーティリティの [System Memory](#) 項目でも確認することができます。

システムは6個のメモリチップを搭載したRIMMはサポートしません。


すべてのRIMMソケットには、RIMMまたは連続カードを取り付けておく必要があります。

図1. メモリチップの数を表示するRIMMラベル




1 RIMM上のメモリチップの数

システムの動作を最適な状態にするために、まずソケットA(プロセッサに一番近い)にRIMMを取り付けてから、ソケットBにRIMMを取り付けることをお勧めします。

 **メモ:** 周辺機器をシステムから外したり、システム基板からコンポーネントを取り外したりする前に、システム基板のスタンバイ電源LEDがオフになっていることを確認してください。スタンバイ電源LEDの位置については、「コンピュータの内部」にある[図 3](#)を参照してください。

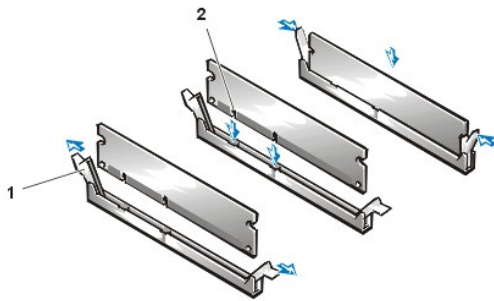
RIMMの取り付け

メモリをアップグレードするには、以下の手順を実行します。

 **警告:** 感電の危険を避けるために、コンピュータおよび周辺機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。電源プラグを抜いてから最低5秒はコンピュータカバーを外さないでください。また、アップグレード作業をおこなう前には、「[作業にあたっての注意](#)」に書かれているその他の注意事項もお読みください。


1. 「[コンピュータカバーの取り外しと取り付け](#)」の手順に従って、コンピュータカバーを取り外します。
2. 「[電源装置の移動](#)」の手順に従って、電源装置を移動します。
3. 必要であれば、アップグレードするRIMMを取り付ける予定のソケットにあるRIMMを取り外します。
4. アップグレードするRIMMを取り付けます。
 - a. RIMMソケットの両端にあるプラスチック製の取り付けクリップの場所を確認します([図 2](#)を参照)。
 - b. カチッと鳴って開くまで取り付けクリップを外側に押します。
 - c. 取り付けクリップがカチッと鳴ってRIMMの両端の所定の位置に収まるまで、RIMMをRIMMソケットのスロットにまっすぐ押し込みます。

図2. RIMMの取り付け



- 1 取り付けクリップ(2)
- 2 スロット

5. 電源装置を元の位置に戻し、取り付けタブがカチッと所定の位置に収まるのを確認します。
6. コンピュータカバーを取り付けます。コンピュータおよび周辺機器の電源プラグをコンセントに差し込み、電源を入れます。

 **メモ:** カバーを取り外してから取り付け直すと、次のシステム起動時に、シャーシイントルージョンディテクタから次のメッセージが表示されます。

ALERT! Cover was previously removed.
(警告！カバーが取り外されました。)


システムは起動時に新しいシステムメモリが既存のシステム設定情報と一致しないことを検出し、次のメッセージを表示します。

The amount of system memory has changed.
Strike the F1 key to continue, F2 to run the setup utility.
(メモリの容量が変更されました。<F1>を押すと続行します。<F2>を押すとセットアップユーティリティを起動します。)

7. <F2>キーを押して、[セットアップユーティリティ](#)を起動し、[System Memory](#)の値をチェックします。

システムはすでに新しく増設したメモリを認識して、[System Memory](#)の値をすでに変更しているはずです。メモリの新しい値を確認してください。その値が正しいければ、[手順 9](#)に進んでください。

8. 表示された総メモリ容量が間違っている場合は、まず、コンピュータおよび周辺機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。次にコンピュータカバーを取り外し、電源装置を回転させてから、RIMMがきっちりとソケットに取り付けられているかどうか確認します。確認したら、[手順 4、5、6、および7](#)を繰り返します。
9. [Chassis Intrusion](#)をEnabled またはEnabled-Silent に変更し、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

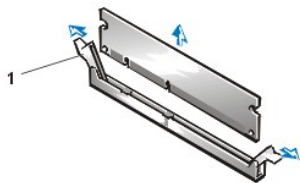
 **メモ:** セットアップパスワードを自分で設定しなかった場合は、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法について、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

10. [System Memory](#)の総メモリ容量が正しい場合は、<Esc>を押してセットアップユーティリティを終了します。
11. [Dell 診断プログラム](#)を実行して、RIMMが正しく動作することを確認します。

RIMMの取り外し

RIMMを取り外すには、RIMMがRIMMソケットから外れる(少し持ち上がる)まで、取り付けクリップを同時に外側へ押し開きます(図 3を参照)。

図 3. RIMMの取り外し



- 1 取り付けクリップ(2)

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

メッセージとコード: Dell™ OptiPlex™ GX300システムユーザーズガイド

- [概要](#)
- [システムメッセージ](#)
- [システムビープコード](#)
- [警告メッセージ](#)
- [診断メッセージ](#)
- [LEDIによる診断](#)

概要

ご使用のアプリケーションプログラム、オペレーティングシステムおよびコンピュータは、問題を見つけてユーザーに知らせる機能を備えています。問題が発生すると、モニタ画面にメッセージが表示されるか、ビープコードが鳴ります。各メッセージまたはビープコードについては、「[システムメッセージ](#)」または「[システムビープコード](#)」を参照してください。

システムメッセージ

システムメッセージが表示されたら、[表1](#)を参照してエラーを解決してください。システムメッセージはアルファベット順に表示されます。


 **メモ:** 表示されているシステムメッセージが表にない場合は、メッセージが表示されたときに実行していたアプリケーションプログラムのマニュアルを調べるか、オペレーティングシステムのマニュアルで、メッセージと推奨されている処置について調べてください。

表1. システムメッセージ

メッセージ	原因	処置
Address mark not found	BIOSがディスクセクタの不良を見つけたか、特定のディスクセクタを発見できませんでした。	「 ドライブのトラブルシューティング 」を参照してください。
Alert! Previous attempts at booting this system have failed at checkpoint [nnnn]. For help in resolving this problem, please note this checkpoint and contact Dell Technical Support.	システムが同じエラーにより3回続けて起動ルーチンを完了できませんでした。	「 困ったときは 」を参照して、テクニカルサポートに連絡し、チェックポイントコード(nnnn)を技術者に報告してください。
Attachment failed to respond	ディスクドライブまたはハードディスクドライブのコントローラは、関連するドライブにデータを送れません。	「 ドライブのトラブルシューティング 」を参照してください。
Bad command or file name	入力したコマンドが存在しないか、指定したパス名ではありません。	コマンドのスペルが正しいか、スペースを適切な位置に置いたか、正しくパス名を使用したかを確認してください。
Bad error-correction code(ECC) on disk read	ディスクドライブまたはハードディスクドライブコントローラが修正不能な読み取りエラーを検出しました。	「 ドライブのトラブルシューティング 」を参照してください。
Controller has failed	ハードディスクドライブまたはそれに関連するコントローラが不良です。	「 ドライブのトラブルシューティング 」を参照してください。
Data error	ディスクまたはハードディスクドライブがデータを読み取れません。	Microsoft® Windows® オペレーティングシステムでScanDiskユーティリティを実行し、ディスクまたはハードディスクドライブのファイルの構造を調べてください。詳細は、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。 他のオペレーティングシステムを使用しているときは、対応するユーティリティを実行し、ディスクまたはハードディスクドライブのファイルの構造を調べてください。オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。
Decreasing available memory	1つまたは複数のRIMMが不良か、正しく設定されていない可能性があります。	「 システムメモリのトラブルシューティング 」を参照してください。
Diskette drive 0 seek failure	ケーブルがゆるんでいる	「 ドライブのトラブルシューティング 」を参照して

Diskette drive 1 seek failure	か、システム設定情報がハードウェア構成と一致しない可能性があります。	ください。
Diskette read failure	ケーブルがゆるんでいるか、ディスクが不良の可能性あります。	ドライブのトラブルシューティング を参照してください。
Diskette subsystem reset failed	ディスクドライブコントローラが不良の可能性あります。	Dell診断プログラム でDisketteテストを実行します。
Diskette write protected	ディスクの書き込み保護機能が有効になっています。	ドライブAからディスクを取り出し、書き込み保護タブをロックされていない位置に移動してください。
Drive not ready	ディスクがドライブ内がありません。ドライブにディスクがないと、操作を続行できません。	ドライブにディスクを入れるか、ドライブラッチを閉じてください。
Error! The previous boot failed to complete. Last reported checkpoint was nnnn.	システムが起動ルーチンを完了できません。	システムを再起動します。問題が再発した場合は、ビープコードを聴き表2を参照してください。ビープコードを発しない場合は Dell診断プログラムのSystem Board Devices テストを実行してください。
Gate A20 failure	1つまたは複数のRIMMがゆるんでいる可能性があります。	「システムメモリのトラブルシューティング」 を参照してください。
General failure	オペレーティングシステムがコマンドを実行できません。	通常、このメッセージの後ろには具体的な情報が付きます(たとえば、PRINTER OUT OF PAPER)。適切な処置をとって対応してください。
Hard disk configuration error	ハードディスクドライブが初期化をおこなえませんでした。	「ドライブのトラブルシューティング」 を参照してください。
Hard disk controller failure	ハードディスクドライブが初期化をおこなえませんでした。	「ドライブのトラブルシューティング」 を参照してください。
Hard disk failure		
Hard-disk drive read failure		
Incompatible Processors: Cache sizes different!	このメッセージは、両方のプロセッサが同じサイズのレベル2キャッシュを持っていない場合にデュアルプロセッサシステムに対して表示されます。	レベル2キャッシュサイズを一致させるためにマイクロプロセッサのうちの1つを交換してください。テクニカルサポートが必要であれば、「 困ったときは 」を参照してください。 メモ:このメッセージは致命的エラーを示しています。致命的エラーが発生すると、システムは通常、対応するハードウェア変更がおこなわれるまで再起動できません。
Invalid configuration information - please run SETUP program	システム設定情報がハードウェア構成に合っていない可能性があります。	セットアップユーティリティ を起動し、システム設定情報を修正してください。
Keyboard clock line failure	ケーブルまたはコネクタがゆるんでいるか、キーボードまたはキーボード・マウスコントローラが不良の可能性あります。	「キーボードのトラブルシューティング」 を参照してください。
Keyboard controller failure		
Keyboard data line failure		
Keyboard failure		
Keyboard stuck key failure		
Memory address line failure at address, read value expecting value	1つまたは複数のRIMMが不良か、正しく設定されていない可能性があります。	「システムメモリのトラブルシューティング」 を参照してください。
Memory allocation error	実行しようとするソフトウェアが、オペレーションシステムまたは他のアプリケーションプログラムあるいはユーティリティとコンフリクトしています。	コンピュータの電源を切り、30秒間待ってから電源を入れて、もう一度プログラムを実行してみてください。問題が解消されない場合は、ソフトウェア会社に問い合わせてください。
Memory data line failure at address, read	1つまたは複数のRIMMが不	「システムメモリのトラブルシューティング」 を参

value expecting value Memory double word logic failure at address, read value expecting value Memory odd/even logic failure at address, read value expecting value Memory write/read failure at address, read value expecting value	良か、正しく設定されていない可能性があります。	照してください。
Memory size in CMOS invalid	システム設定情報に記録されているメモリ量がコンピュータにインストールされているメモリと一致していません。	コンピュータを再起動してください。エラーが再度現れた場合は、「 困ったときは 」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。
Memory tests terminated by keystroke	メモリテストが完了していません。	メモリテストを再実行してください。
No boot device available	コンピュータがディスクまたはハードディスクドライブを見つけられません。	セットアップユーティリティ を起動し、ディスクとハードディスクドライブに関するシステム設定情報をチェックし、必要であれば、その情報を修正してください。
No boot sector on hard-disk drive	セットアップユーティリティのシステム設定情報が正しくないか、オペレーティングシステムが破壊されている可能性があります。	セットアップユーティリティ を起動し、ハードディスクドライブに関するシステム設定情報をチェックし、必要であれば、その情報を修正してください。メッセージが消えなければ、オペレーティングシステムを再インストールしてください。オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。
No timer tick interrupt	システム基板上のチップが誤動作している可能性があります。	Dell診断プログラム でSystem Board Devicesテストを実行します。
Non-system disk or disk error	ドライブAまたはハードディスクドライブ内のディスクに起動可能オペレーティングシステムがインストールされていません。	起動可能でないディスクがドライブAにあります。そのディスクを、起動可能なオペレーティングシステムを持つディスクと交換するか、ドライブAからそのディスクを取り出してコンピュータを再起動します。
Not a boot diskette	ディスク上にオペレーティングシステムがありません。	オペレーティングシステムを含むディスクでコンピュータを起動します。
Plug and Play Configuration Error	システムが1つまたは複数の拡張カードを設定しようとして問題を生じました。	システムの電源を切り、プラグを抜きます。拡張カードの内の1つを除いてすべてを取り外します。システムの電源プラグを差し込み、システムを再起動します。メッセージがまだ表示される場合は、拡張カードが誤動作している可能性があります。メッセージが表示されない場合は、電源を切り、その他のカードの内の1つを再度挿入します。誤動作しているカードがわかるまで、この手順を繰り返してください。
Read fault Requested sector not found	オペレーティングシステムがディスクまたはハードディスクドライブからデータを読み取れません。 ディスク上の特定のセクタが見つからなかったか、要求されたセクタが不良です。	「 ドライブのトラブルシューティング 」を参照してください。
Reset failed	ディスクリセット動作が障害になりました。	「 ドライブのトラブルシューティング 」を参照してください。
Sector not found	オペレーティングシステムがディスクまたはハードディスクドライブ上のセクタを見つけることができません。	「 ドライブのトラブルシューティング 」を参照してください。
Seek error	オペレーティングシステムがディスクまたはハードディスクドライブ上の特定のトラックを見つけることができません。	ディスクドライブ上にエラーがある場合は、そのドライブ内に別のディスクを入れてみてください。

Shutdown failure	システム基板上のチップが誤動作している可能性があります。	Dell診断プログラム でSystem Board Devicesテストを実行します。
Terminator/processor card cannot be installed!	ターミネーターカードまたはセカンドマイクロプロセッサがセカンドマイクロプロセッサコネクタ(PROC.1)に取り付けられていません。	ターミネーターカードまたはセカンドマイクロプロセッサがPROC.1に取り付けられているかを確認します。マイクロプロセッサを取り付け直し、システムを再起動します。問題が解決しない場合は「 困ったときは 」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。 メモ: このメッセージは致命的エラーを示しています。致命的エラーが発生すると、システムは通常、対応するハードウェア変更がおこなわれるまで再起動できません。
Time-of-day clock stopped	バッテリーが消費している可能性があります。	セットアップユーティリティ を起動し、日時を修正してください。 問題が解消されない場合は、「 バッテリーのトラブルシューティング 」を参照してください。
Time-of-day not set	システム設定情報に表示される日時がシステムクロックに合っていないです。	セットアップユーティリティ を起動し、日時を修正してください。
Timer chip counter 2 failed	システム基板上のチップが誤動作している可能性があります。	Dell診断プログラム でSystem Board Devicesテストを実行します。
Unexpected interrupt in protected mode	キーボードコントローラが誤動作しているか、1つまたは複数のRIMMがゆるんでいる可能性があります。	Dell診断プログラム でSystem MemoryテストとKeyboardテストを実行します。
WARNING:Dell's Disk Monitoring System has detected that drive [0/1] on the [primary/secondary] EIDE controller is operating outside of normal specifications. It is advisable to immediately back up your data and replace your hard-disk drive by calling your support desk or Dell Computer Corporation.	POST は、ステータス情報についてEIDEを照会しました。ドライブは、動作仕様のエラー条件を検出したことを示すコールからパラメータを返しました。	コンピュータが起動を終了したら、ただちにデータのバックアップをとり、ハードディスクドライブを交換してください。データを交換されたドライブに戻します。 交換用ドライブがすぐには使用できず、そのドライブが唯一の起動可能ドライブではない場合は、 セットアップユーティリティ を起動し、対応するドライブの設定をNoneに変更します。システムからドライブを取り外します。これは、データのバックアップをとった後のみおこなってください。
Warning - Thermal probes failed.	システムの起動時にBIOSがコンピュータの温度調整機能の1つまたは両方が動作していないことを検知しました。	システムの使用を続けることはできますが、温度調整機能が無効になっていることを認識してください。プロセッサがオーバーヒートした場合でも、サーマルシャットダウンサービスによってシステムを終了することはできません。 メモ: Intel® Pentium® IIIマイクロプロセッサはマイクロプロセッサが一定の温度を超えると動作を停止させる温度調整機能を内蔵しています。 問題を解決するにはシステム基板を取り付け直します。テクニカルサポートについては「 困ったときは 」を参照してください。
Warning - Temperature is too high.	システムの起動時にBIOSがコンピュータの温度調整機能の1つまたは両方がオーバーヒートしたことを検知しました。このメッセージを表示した後、BIOSはプロセッサの動作を停止し、システムを終了します。	システムの温度を下げてから再起動してください。
Write fault Write fault on selected drive	オペレーティングシステムがディスクまたはハードディスクドライブにデータを書き込めません。	「 ドライブのトラブルシューティング 」を参照してください。

システムビープコード

モニタ上で報告できない起動ルーチン実行時にエラーが発生すると、コンピュータは問題を示す連続ビープを出す場合があります。ビープコードは音のパターンです。たとえば、1つのビープ音のあとに2番目が続き、その後3つのビープ音が聞こえた場合(コード1-1-3)、これはコンピュータがNVRAM内のデータを読み取れなかったことを意味します。この情報は、電話によるテクニカルサポートの際に、Dellのサポートスタッフにとって重要になります。

ビープコードが発生したら、「困ったときは」にある診断チェックリストを印刷し、そのコードを書き留め、次に表2でそのコードを調べてください。ビープコードの意味を調べることで問題を解決できなかった場合、[Dell診断プログラム](#)を使用してより重要な原因をつきとめてください。それでも問題を解決できない場合は、「困ったときは」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。

表2. システムビープコード

コード	原因	処置
1-1-2	Microprocessor register failure(マイクロプロセッサレジスタ障害)	「困ったときは」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。
1-1-3	NVRAM	Dell診断プログラム でSystem Board Devicesテストを実行します。
1-1-4	ROM BIOS checksum failure(ROM BIOSチェックサム障害)	可能であれば、 Dell診断プログラム でSystem Board Devicesテストを実行します。
1-2-1	Programmable interval timer(プログラム可能インターバルタイマ)	可能であれば、 Dell診断プログラム でSystem Board Devicesテストを実行します。
1-2-2	Direct memory access (DMA) initialization failure(ダイレクトメモリアクセス(DMA)初期化障害)	可能であれば、 Dell診断プログラム でSystem Board Devicesテストを実行します。
1-2-3	DMA page register read/write failure(DMAページレジスタ読み書き障害)	可能であれば、 Dell診断プログラム でSystem Board Devicesテストを実行します。
1-3	Video Memory Test failure(ビデオメモリテスト障害)	Dell診断プログラム でVESA/VGA Interfaceテストを実行します。
1-3-1~ 2-4-4	RIMMs not being properly identified or used (RIMMが正しく確認されないか、使用されていません。)	「 システムメモリのトラブルシューティング 」を参照してください。
3-1-1	Slave DMA register failure(スレーブDMAレジスタ障害)	可能であれば、 Dell診断プログラム でSystem Board Devicesテストを実行します。
3-1-2	Master DMA register failure(マスタDMAレジスタ障害)	可能であれば、 Dell診断プログラム でSystem Board Devicesテストを実行します。
3-1-3	Master interrupt mask register failure(マスタ割り込みマスクレジスタ障害)	「困ったときは」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。
3-1-4	Slave interrupt mask register failure(スレーブ割り込みマスクレジスタ障害)	「困ったときは」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。
3-2-2	Interrupt vector loading failure(割り込みベクタロード障害)	「困ったときは」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。
3-2-4	Keyboard Controller Test failure(キーボードコントローラテスト障害)	Dell診断プログラム でKeyboardテストを実行します。または、「困ったときは」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。
3-3-1	NVRAM power loss(NVRAM電力損失)	可能であれば、 Dell診断プログラム でSystem Board Devicesテストを実行します。
3-3-2	NVRAM configuration(NVRAM構成)	可能であれば、 Dell診断プログラム でSystem Board Devicesテストを実行します。
3-3-4	Video Memory Test failure(ビデオメモリテスト障害)	Dell診断プログラム でVESA/VGA Interfaceテストを実行します。
3-4-1	Screen initialization failure(画面初期化障害)	Dell診断プログラム でVESA/VGA Interfaceテストを実行します。
3-4-2	Screen retrace failure(画面リトレース障害)	Dell診断プログラム でVESA/VGA Interfaceテストを実行します。
3-4-3	Search for video ROM failure(ビデオROMの検索障害)	Dell診断プログラム でVESA/VGA Interfaceテストを実行します。
4-2-1	No time tick(タイマーチェックなし)	「困ったときは」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。
4-2-2	Shutdown failure(シャットダウン障害)	「困ったときは」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。
4-2-3	Gate A20 failure(ゲートA20の障害)	「困ったときは」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。
4-2-4	Unexpected interrupt in protected mode(保護モードで予測外の中断が発生しました。)	「困ったときは」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。
4-3-1	Memory failure above address 0FFFFh(アドレス0FFFFh以上のメモリ障害)	Dell診断プログラム でSystem Memoryテストを実行します。

4-3-3	Timer chip counter 2 failed(タイマーチップカウンタ2に障害が発生しました。)	「 困ったときは 」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。
4-3-4	Time-of-day clock stopped(刻時機構が停止しました。)	「 困ったときは 」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。
4-4-1	Serial or parallel port test failure(シリアルまたはパラレルポートテスト障害)	Dell診断プログラム でSerial PortsテストとParallel Portsテストを実行します。
4-4-2	Failure to decompress code to shadowed memory(シャドウメモリにコードを解凍できません。)	Dell診断プログラム でSystem Board Devicesテストを実行します。
4-4-3	Math-coprocessor test failure(マスコプロセッサテスト障害)	Dell診断プログラム でSystem Board Devicesテストを実行します。
4-4-4	Cache test failure(キャッシュテスト障害)	Dell診断プログラム でSystem Board Devicesテストを実行します。
5-2-2-1	RDRAMデバイスカウントの不一致 サポートされていないRIMMデバイスカウントまたはテクノロジー	両方のRIMMソケットがRIMMまたはRCM(Rambus continuity module)を装着していることを確認します。問題が再発する場合は、ソケットB(どれでも可)にRIMMを取り付けてからソケットAにRIMMを取り付けます。それでも問題が解決しない場合は、「 困ったときは 」を参照してテクニカルサポートにお問い合わせください。
5-2-2-3	RDRAMのレベル統一障害	両方のRIMMソケットがRIMMまたはRCM(Rambus continuity module)を装着していることを確認します。問題が再発する場合は、ソケットB(どれでも可)にRIMMを取り付けてからソケットAにRIMMを取り付けます。それでも問題が解決しない場合は、「 困ったときは 」を参照してテクニカルサポートにお問い合わせください。

警告メッセージ

警告メッセージは、問題が発生している可能性があることを知らせ、処置をおこなってから実行を続けるように指示します。たとえば、ディスクをフォーマットする前に、間違ってデータを消去または上書きしないようにする方法として、ディスク上のすべてのデータを失う可能性があるということをメッセージで警告します。これらの警告メッセージは通常、手順を中断し、y (はい)または n (いいえ)と入力して応答することを要求します。



メモ: 警告メッセージは、アプリケーションプログラムまたはオペレーティングシステムから生成されます。「[ソフトウェアチェック](#)」とオペレーティングシステムおよびアプリケーションプログラムに付属のマニュアルを参照してください。

診断メッセージ

[Dell診断プログラム](#)でテストグループまたはサブテストを実行すると、エラーメッセージが発生する場合があります。本章では、これらのエラーメッセージについては説明していません。「[困ったときは](#)」の診断チェックリストのコピーにメッセージを記録します。「[困ったときは](#)」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。

LEDによる診断

電源インジケータLEDとハードディスクドライブLEDは、コンピュータ本体の前面にあります。LEDの診断コードは、システムの問題のトラブルシューティングに役立ちます。表3は、LEDの診断コード、考えられる原因、推奨する処置の一覧です。



警告: コンピュータ内部のコンポーネントを取り扱う前に、「[作業にあたっての注意](#)」を参照してください。

表3. 診断 LED コード

電源LEDコード	ハードディスクドライブLEDコード	原因	処置
黄色の点滅	無灯	システムの電源が不良です。	「 困ったときは 」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。
黄色の点滅	緑色に点灯	システム基盤上の電圧調節器が不良です。	「 困ったときは 」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。
黄色の点灯	—	システム基盤上のデバイスが不良か、あるいは、正しく取り付けられていない可能性があります。	マイクロプロセッサが全て正しく装着されているか確認します。全ての 拡張カードを取り外し 、再起動してください。もし、システムが起動しないときは、「 困ったときは 」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。
POST中に、緑色の点灯とビープコード	—	BIOS実行中に、問題が検出されました。	ビープコードによる診断については、 表2 を参照してください。

POST中に、緑色の点灯、ビープコードおよび画面表示なし	—	モニタか、グラフィックカードが不良の可能性があります。	「 モニタのトラブルシューティング 」を参照してください。もし、モニタが正常に作動し、正しく接続されている場合は、「 困ったときは 」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。
POST中に、緑色の点灯、ビープコードはないが、システムがロック	—	システム基盤のデバイスが不良の可能性があります。	「 困ったときは 」を参照して、テクニカルサポートにお問い合わせください。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

マイクロプロセッサ: Dell™ OptiPlex™ GX300システムユーザーズガイド

- [2つ目のマイクロプロセッサの追加](#)
- [現在のマイクロプロセッサのアップグレード](#)


2つ目のマイクロプロセッサの追加


2つ目のマイクロプロセッサを追加するには、以下の手順を実行します。

注意: 2つ目のプロセッサの種類や速度は、1つ目のプロセッサと同じでなければなりません。

 **メモ:** 以下の手順は、技術的な知識を持った方が実行するようにしてください。

2つ目のマイクロプロセッサを使用するには、Microsoft® Windows® NTオペレーティングシステムを実行する必要があります。


 **警告:** コンピュータカバーを取り外す前に「[作業にあたっての注意](#)」を参照してください。

 **メモ:** コンピュータから周辺機器を取り外す際や、システム基板からコンポーネントを取り外す際は、システム基板上のスタンバイ電源LEDがオフになっていることを確認します。このLEDの位置については、「コンピュータの内部」の[図3](#)を参照してください。

1. 「[コンピュータカバーの取り外しと取り付け](#)」の手順に従って、コンピュータカバーを取り外します。
2. 「[電源装置の移動](#)」の説明に従って、電源装置を移動させます。
3. 「[AGPカードブレースの取り外しと取り付け](#)」の手順に従い、AGPカードブレースを取り外します。
4. セカンドSECカートリッジコネクタ(「PROC_1」のラベルが付いています)からターミネータカードを取り外します。
SECカートリッジのリリースラッチを所定の位置まで内側へ押し、ターミネータカードをまっすぐに引き出し、コネクタから取り外します。
5. VRM(電圧調整器)をシステム基板上の専用のソケットに装着します。
VRMソケットの位置については、「コンピュータの内部」の[図3](#)を参照してください。VRMのコンデンサーを電源ユニットの方に向けて、VRMを配置します。
6. 新しいSECカートリッジ・ヒートシンクアセンブリを、システム基板上のコネクタに挿入します。
SECカートリッジを、ラッチがカチッと所定の位置に戻るまでしっかりとコネクタに押し込みます。SECカートリッジをコネクタに完全に装着するには、最大11kgの力を必要とします。2本の大きな蝶ネジで、ヒートシンクをシステム基板に固定します。
7. AGPカードブレースを取り付けます。
8. 電源ユニットを元の位置に回転させて、固定用タブがカチッと所定の位置に戻っていることを確認します。
9. コンピュータカバーを取り付けて、コンピュータと周辺機器の電源ケーブルを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

システムの起動時に新しいプロセッサが検出され、セットアップユーティリティのシステム設定情報が自動的に変更されます。2つ目のマイクロプロセッサを装着した場合は、次のメッセージが表示されます。


Second processor detected (2つ目のプロセッサが検出されました。)

 **メモ:** カバーを取り外してから取り付け直すと、次のシステム起動時に、シャーシントルージョンディテクタから次のメッセージが表示されます。

ALERT! Cover was previously removed.
(警告! カバーが取り外されました。)

- 10.
11. セットアップユーティリティを起動して、システムデータ領域の最上部の行に、装着したプロセッサが正しく表示されているかどうか確認します。
「[セットアップユーティリティの使い方](#)」を参照してください。
12. セットアップユーティリティを起動した状態で、Chassis IntrusionをEnabledまたはEnabled-Silentに変更して、シャーシントルージョンディテクタをリセットします。

変更手順については、「[Chassis Intrusion](#)」を参照してください。

 **メモ:** セットアップパスワードを自分で設定しなかった場合は、シャーシントルージョンディテクタのリセット方法について、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

- 2個目のマイクロプロセッサを装着して、Microsoft Windows NT 4.0オペレーティングシステムを実行している場合は、オペレーティングシステムを再インストールします。

再インストール方法については、Windows NTのマニュアルを参照してください。


Windows NT 4.0を再インストールすると、オペレーティングシステムが2つ目のマイクロプロセッサを検出します。


- [Dell診断プログラム](#)を実行して、新しいマイクロプロセッサが正しく動作するか確認します。

現在のマイクロプロセッサのアップグレード

現在使用しているマイクロプロセッサをアップグレードするには、以下の手順を実行します。

 **メモ:** 以下の手順は、技術的な知識を持った方が実行するようにしてください。

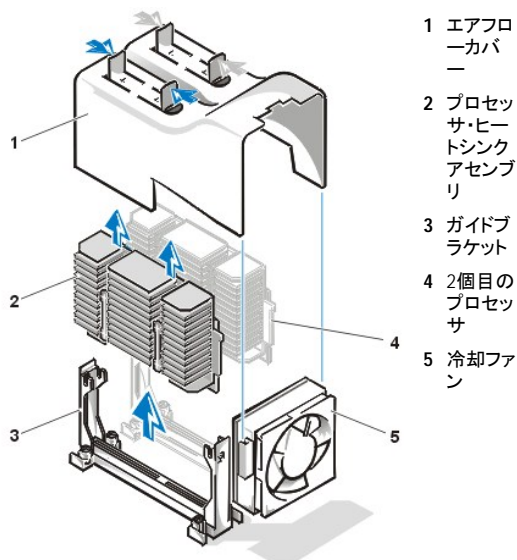
 **警告:** コンピュータカバーを取り外す前に、「[作業にあたっての注意](#)」を参照してください。

 **メモ:** コンピュータから周辺機器を取り外す時や、システム基板からコンポーネントを取り外す際は、システム基板上のスタンバイ電源LEDがオフになっていることを確認します。このLEDの位置については、「[コンピュータの内部](#)」の[図3](#)を参照してください。

- 「[コンピュータカバーの取り外しと取り付け](#)」の手順に従って、コンピュータカバーを取り外します。
- 「[電源装置の移動](#)」の説明に従って、電源装置を移動させます。
- 「[AGPカードブレースの取り外しと取り付け](#)」の手順に従い、AGPカードブレースを取り外します。
- 現在装着されているマイクロプロセッサをコネクタから取り外します。

エアフローカバーに付いている2組のタブを内側へ押し、カバーを持ち上げます。ガイドブラケットタブを外側に押し、プロセッサ・ヒートシンクアセンブリから離します。プロセッサ・ヒートシンクアセンブリをコネクタから引き上げて外します(図1を参照)。プロセッサをコネクタから取り外すには、最大7kgの力が必要です。


図1 マイクロプロセッサの取り外し



- 新しいマイクロプロセッサを、システム基板上的コネクタに挿入します。

プロセッサをしっかりとコネクタに押しつけて、完全に装着します。プロセッサをコネクタに完全に装着するには、最大11kgの力を必要とします。その後、エアフローカバーを取り付けます。

- AGPカードブレースを取り付けます。
- 電源ユニットを元の位置に回転させて、固定用タブがカチッと所定の位置に戻っていることを確認します。
- コンピュータカバーを取り付けて、コンピュータと周辺機器の電源ケーブルを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

 **メモ:** カバーを取り外してから取り付け直すと、次のシステム起動時に、シャールシントルージョンディテクタから次のメッセージが表示されます。

ALERT! Cover was previously removed.
(警告！カバーが取り外されました。)

9. セットアップユーティリティを起動して、システムデータ領域の最上部の行に、装着したプロセッサが正しく表示されているかどうか確認します。

「[セットアップユーティリティの使い方](#)」を参照してください。

10. セットアップユーティリティを起動した状態で、Chassis IntrusionをEnabledまたはEnabled-Silentに設定して、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

変更手順については、「[Chassis Intrusion](#)」を参照してください。



メモ: セットアップパスワードを自分で設定しなかった場合は、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法について、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

11. [Dell診断プログラム](#)を実行して、新しいマイクロプロセッサが正しく動作するか確認します。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

セットアップと操作 : Dell™ OptiPlex™ GX300システムユーザーズガイド

- [はじめに](#)
- [周辺機器の接続](#)
- [ボタンとインジケータ](#)
- [シャーシントルージョン](#)
- [セキュリティケーブルスロットとパドロックリング](#)
- [システムパスワード機能の使い方](#)
- [セットアップパスワード機能の使い方](#)
- [パスワードを忘れたとき](#)

はじめに

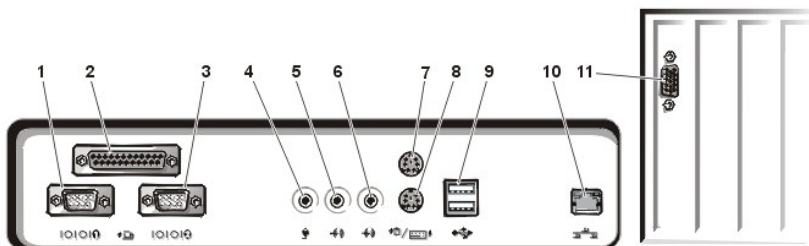
ネットワーク管理者がコンピュータシステムをセットアップするのではなく、ご自分でセットアップする必要がある場合は、ケーブル類の接続や初めてのシステム起動について、システム付属の『システム情報ガイド』の「はじめに」を参照してください。

すべてのケーブルをシステムに正しく接続し、システムを起動したら、オペレーティングシステムのセットアップガイドを参照して、インストールを完了してください。オペレーティングシステムをインストールすると、プリンタなどの周辺機器を接続したり、プリインストールされている以外のアプリケーションプログラムをインストールすることができます。

周辺機器の接続

図1に、コンピュータ背面にある外付けデバイス接続用のコネクタを示します。

図1 入出力ポートとコネクタ



- 1 [シリアルポート1コネクタ](#)
- 2 [パラレルポートコネクタ](#)
- 3 [シリアルポート2コネクタ](#)
- 4 [マイク入力ジャック](#)
- 5 [ライン出力ジャック](#)
- 6 [ライン入力ジャック](#)
- 7 [マウスコネクタ](#)
- 8 [キーボードコネクタ](#)
- 9 [USBコネクタ](#)
- 10 [内蔵NICコネクタ](#)
- 11 [ビデオコネクタ](#)

外付けデバイスをコンピュータ背面に接続する場合は、以下のガイドラインに従ってください。

- 1 具体的な取り付けおよび設定手順については、デバイスに付属のマニュアルを参照してください。

たとえば、ほとんどのデバイスは特定の入出力ポートまたはコネクタに接続しないと、正しく動作しません。また、マウスやプリンタなどの外付けデバイスは、一般にデバイスドライバをシステムメモリにロードしてからでないと動作しません。

- 1 外付けデバイスは、コンピュータの電源がオフになっているときに接続してください。デバイスのマニュアルに指定されている場合を除いて、コンピュータ本体の電源を入れてから、外付けデバイスの電源を入れてください(コンピュータがデバイスを認識しない場合は、先にデバイスの電源を入れてからコンピュータの電源を入れてください)。

注意: 外付けデバイスをコンピュータ背面から取り外す場合は、システム基板に損傷を与えないために、コンピュータの電源を切り、5秒待ってから取り外します。

シリアルポートコネクタ

シリアルポートは、背面パネルの9ピンDサブミニコネクタを使用します。これらのポートは、シリアルデータ転送（1本の線でデータを1ビットずつ送信）をおこなう外付けのモデムやプロッタなどのデバイスをサポートします。

内蔵のシリアルポート1にはCOM1が、シリアルポート2にはCOM2がデフォルトで指定されています。ポートの指定は、デバイスが使用するポートを識別するために、ソフトウェアのインストール手順で使用します。たとえば、通信ソフトウェアをインストールするときに、モデムが使用するポートを指定します。

システムには、追加する拡張カードのシリアルポートの指定が内蔵ポートと同じ場合に、シリアルポートの指定を再割り当てするための設定機能が用意されています。

内蔵シリアルポートが**セットアップユーティリティ**でAutoに設定されており、追加する拡張カードのシリアルポートが特定のポート指定を使用する場合、コンピュータは、内蔵ポートを適切なCOM設定に自動的にマッピングします（割り当てます）。


シリアルポートを装備したカードを追加する前に、ソフトウェアに付属のマニュアルを参照して、ソフトウェアが新しいCOMポート指定にマッピング可能であることを確認してください。

パラレルポートコネクタ

内蔵パラレルポートは、背面パネルの25ピンDサブミニコネクタを使用します。

内蔵パラレルポートが使用するのは、背面パネルの25ピンDサブミニコネクタです。この入出力ポートは、パラレル形式のデータを送信します（1本のケーブル内の8本の線を通して、8ビットすなわち1バイトのデータを同時送信）。パラレルポートは、主としてプリンタに使用します。

ご使用のコンピュータの内蔵パラレルポートには、LPT1がデフォルトで指定されています。ポートの指定を使用する例として、ソフトウェアのインストール手順があります。その手順の中では、プリンタ接続用のポートを指定することで、出力送信先をソフトウェアに指示します（指定先を間違えると、プリンタから印刷できなくなったり、印刷が乱れる原因になったりします）。

 **メモ:**パラレルポートを持つ拡張カードが、**セットアップユーティリティ**の**Parallel Port**で内蔵ポートと同じアドレスを使用するよう設定されている場合、内蔵パラレルポートは自動的に使用不可になります。

マイク入力ジャック

マイク入力ジャックには、パーソナルコンピュータ用の標準的なマイクを接続できます。オーディオケーブルを、マイクからマイク入力ジャックに接続します。マイク入力はモノソースで、最大信号レベルが89mVrmsです。

ライン出力ジャック

ライン出力ジャックには、ほとんどのコンピュータ用スピーカーを接続できます。ライン出力ジャックは増幅されるので、アンプ内蔵スピーカーは必要ありません。オーディオケーブルを、スピーカーからこのジャックに接続します。

ライン入力ジャック

ライン入力ジャックには、カセットプレーヤー、CDプレーヤー、VTRなどの録音・再生デバイスを接続できます。録音・再生デバイスのライン出力ケーブルを、これらのデバイスとコンピュータ背面のライン入力ジャックに接続します。

マウスコネクタ

ご使用のシステムでは、PS/2互換マウスを使用します。マウスケーブルは、コンピュータの背面パネルの6ピンミニDINコネクタに接続します。コンピュータ本体と周辺機器の電源を切ってから、マウスをコンピュータに接続してください。

PS/2互換マウスは、業界標準のシリアルマウスまたはパスマウスと同じように動作しますが、専用コネクタを持っていることから拡張カードを必要とせず、またシリアルポートに接続する必要もありません。

マウスドライバソフトウェアは、マウスが移動するたびにIRQ12を発行することにより、マウスに優先権を与えるようにマイクロプロセッサに指示し、同時に、アプリケーションにマウスのデータを送ります。Microsoft® Windows® 98、Windows 95、またはWindows NT® 4.0オペレーティングシステムをご使用の場合、Dellではあらかじめ必要なマウスドライバをハードディスクドライブにプリインストールしています。マウスドライバの再インストールが必要な場合は、その手順についてはDell ResourceCD に付属のマニュアルを参照してください。

キーボードコネクタ

ご使用のシステムは、PS/2式キーボードを使用しています。キーボードケーブルは、コンピュータの背面パネル上の6ピンミニDINコネクタに接続します。

USBコネクタ

ご使用のシステムには、USB準拠デバイスを接続するためのUSBコネクタが2つ装備されています。代表的なUSB準拠デバイスは、キーボード、マウス、プリンタ、コンピュータ用スピーカーなどの周辺装置です。

内蔵NICコネクタ

ご使用のシステムには、内蔵の10/100Mbps 3Com® PCI 3C920 (3C905C-TX-compatible) Ethernet NIC (ネットワークインターフェースコントローラ) が搭載されています。NICは、個別のネットワーク拡張カードが処理する機能をすべて提供し、10BASE-Tと100BASE-TXの両方のEthernet規格をサポートしています。

NICには、サーバー管理コンソールからの特殊なLAN信号によってコンピュータを起動可能にするリモートウェイクアップ機能が装備されています。リモ

ートウェイクアップを使用すると、通常はLANトラフィックが最小となる夜間や週末に、コンピュータのリモートセットアップ、ソフトウェアのダウンロードとインストール、ファイルのアップデート、およびアセットトラッキングをおこなうことができます。

コンピュータ背面のNICコネクタには、以下のインジケータがあります(図1を参照)。

- 1 黄色のアクティブインジケータは、システムがデータを送受信しているときに点滅します(データ通信量が多い場合はインジケータが常に「オン」になっているように見えます)。
- 1 デュアルカラーの通信状態インジケータは、10-MbpsネットワークとNICの接続が良好な場合に緑に点灯し、100-MbpsネットワークとNICの接続が良好な場合にオレンジ色に点灯します。オレンジ色または緑色のインジケータがオフになっている場合、コンピュータが物理的にネットワーク接続されていないことを示します。

ネットワークケーブルの要件

コンピュータのNICコネクタ(背面パネルにあるRJ45コネクタ)は、UTP Ethernetケーブル接続用に設計されています。UTPケーブルの片方をNICコネクタに接続します(UTPケーブルが所定の位置にしっかりと固定されるまで、コネクタにケーブルを差し込んでください)。

ネットワーク構成に応じて、ケーブルのもう一方をUTP集線デバイスまたはハブにあるRJ45ジャックの側面またはRJ45ポートに接続します。

100Mbpsのネットワークには、カテゴリ5のワイヤとコネクタが必要です。10Mbpsのネットワークには、カテゴリ3またはカテゴリ5のワイヤとコネクタが必要です。

ビデオコネクタ

ご使用のシステムでは、背面パネルの15ピン高密度Dサブミニコネクタを使用して、VGA互換モニタを接続します。

ボタンとインジケータ

コンピュータの正面パネルの制御ボタンとインジケータを図2に示します。

図2 ボタンとインジケータ



- 1 [ディスクドライブインジケータ](#)
- 2 [電源ボタン](#)
- 3 [電源インジケータ](#)
- 4 [リセットボタン](#)
- 5 [ハードディスクドライブインジケータ](#)
- 6 [カバーリリースボタン](#)

ディスクドライブインジケータ

ディスクドライブインジケータは、ディスクからデータを読み書きしているときに点灯します。アクセスインジケータが消えるのを待って、ディスクをドライブから取り出してください。

電源ボタン

電源ボタンは、システムのAC入力電力を制御します。

Microsoft Windows 95の場合、電源ボタンは以下のように動作します。

- 1 コンピュータがオフのときに押すと、コンピュータがオンになります。
- 1 コンピュータがオンのときに押すと、コンピュータがオフになります。

Microsoft Windows 98とWindows NTの場合、BIOSを使用して電源ボタンの機能を設定できます。電源ボタンを設定した場合の動作は以下のとおりです。

- 1 コンピュータがオフのときに押すと、コンピュータがオンになります。
- 1 コンピュータがオンのときに6秒以上押し続けると、コンピュータがオフになります。
- 1 コンピュータがオンのときに1回押すと、コンピュータはBIOSで設定したサスペンド状態になります。
- 1 コンピュータがサスペンド状態のときに1回押すと、コンピュータはサスペンド状態から復帰します。

電源ボタンを押してもシステムがオフにならない場合、システムがハングしている可能性があります。システムがオフになるまで、電源ボタンを押し続けてください(このプロセスには数秒かかることがあります)。または、リセットボタンを押してシステムをリセットし、再起動します。システムがハングして、どちらのボタンも機能しない場合は、コンピュータからAC電源ケーブルを抜いて、コンピュータが完全に停止するのを待ってからAC電源ケーブルを差し込みます。システムが再起動しない場合は、電源ボタンを押してシステムを再起動します。

電源インジケータ

コンピュータ正面の電源インジケータのLEDは、2色で点滅または点灯することにより、複数の異なる状態を示します。各状態の詳細は、「[LEDによる診断](#)」を参照してください。

リセットボタン

リセットボタンを押すと、電源をオフにしてから再度オンにしなくても、システムを再起動できます。このボタンで再起動すると、システムコンポーネントに対するストレスが減ります。ただし、データが失われないように、可能であれば開いているファイルとアプリケーションをすべて保存および終了してください。次に、オペレーティングシステムのシャットダウン手順を実行します(手順についてはオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください)。

ハードディスクドライブインジケータ

ハードディスクドライブインジケータは、ハードディスクドライブまたはCD-ROMドライブからデータを読み書きしているときに点灯します。

カバーリリースボタン

シャーシ背面にある[パドロックリング](#)の上半分を左側へスライドさせます。それからカバーリリースボタンを押して、コンピュータカバーを取り外します。

シャーシイントルージョン

内蔵シャーシイントルージョンアラームは、システムシャーシイントルージョンモニタ(シャーシ内への不正アクセスモニタ)のステータスを表示します。シャーシが開かれると、設定値はDetectedに変更され、次のメッセージがシステム起動時に表示されます。

Alert! Cover was previously removed.
(警告! カバーが取り外されました。)

[セットアップユーティリティ](#)を使用して、次の侵入を検出できるように、アラームをリセットします。

セキュリティケーブルスロットとパドロックリング

コンピュータ背面には、市販の盗難防止器具を取り付けるセキュリティケーブルスロットとパドロックリング(図3を参照)が設けられています。通常、パーソナルコンピュータ用のセキュリティケーブルには、ロック用デバイスとキーが付いた亜鉛メッキ部分があります。コンピュータの盗難を防ぐため、固定された物にセキュリティケーブルを巻き付けて、コンピュータの背面のセキュリティケーブルスロットにロック用デバイスを差し込んでから、付属のキーでデバイスをロックしてください。このような盗難防止器具を取り付けるための説明書は通常、器具に付属しています。


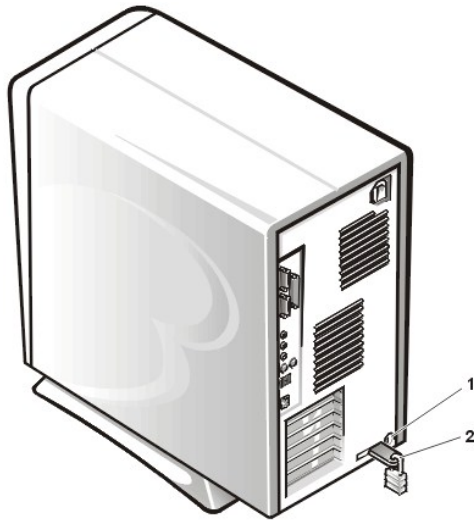
 **メモ:** 盗難防止器具はそれぞれ設計が異なります。購入する前に、ご使用のコンピュータのケーブルスロットに対応しているか確認してください。

図3 セキュリティケーブルスロットとパドロックリング



- 1 セキュリティケーブルスロット
- 2 パドロックリング

システムパスワード機能の使い方

注意:パスワード機能は、システム内のデータに対して基本的なセキュリティを提供しますが、決して万全ではありません。より強固なセキュリティが必要なデータについては、データ暗号化プログラムなどの保護機能を、ご自身でご用意ください。

ご使用のDellシステムは、出荷時にはシステムパスワードが設定されていません。システムのセキュリティが必要な場合は、必ずシステムパスワード保護機能を有効にした状態でシステムを操作してください。

[セットアップユーティリティ](#)を使ったシステムパスワードの設定方法は、「[システムパスワードの設定](#)」を参照してください。システムパスワードを設定すると、そのパスワードを知っているユーザーでなければシステムの全機能は利用できません。

System PasswordがEnabledになっていると、システムパスワード要求のプロンプトがシステムの起動直後に表示されます。詳細は、「[システムパスワードの使い方](#)」を参照してください。

現在のシステムパスワードを変更するには、そのパスワードを事前を知っておく必要があります（「[システムパスワードの取り消しと変更](#)」を参照）。設定したパスワードを忘れた場合は、コンピュータのカバーを取り外し、ジャンパの設定を変更してシステムパスワード機能を一時的に解除する必要があります（「[パスワードを忘れたとき](#)」を参照）。ただし、システムパスワードを消去すると、セットアップパスワードも同時に消去されるので注意してください。

注意:システムパスワードを設定せずに作動中のシステムから離れたり、システムをロックせずに放置したりした場合には、第三者がジャンパ設定を変更し、システムパスワード機能を解除することができます。結果、誰でもハードディスク内の情報にアクセスできるようになります。

システムパスワードの設定

システムパスワードを設定する前に、セットアップユーティリティを起動してSystem Password項目をチェックします。

システムパスワードが設定されている場合、System Password項目はEnabledです。システム基板のジャンパ設定によってシステムパスワード機能が解除されている場合は、Disabledと表示されます。このいずれかが表示されている場合は、システムパスワードの変更や新しいパスワードの入力はできません。

システムパスワードが設定されていない場合で、システム基板上のパスワードジャンパがEnabled（デフォルト）に設定されているときは、System PasswordはNot Enabledと表示されます。System PasswordがNot Enabledに設定されている場合のみ、以下の手順でシステムパスワードを設定することができます。

1. Password StatusがUnlockedに設定されていることを確認します。

Password Statusの設定の変更方法については、[Password Status](#)を参照してください。

2. System Passwordをハイライト表示させてから、<←>または<→>を押してください。

項目名がEnter Passwordに変わり、その後ろに32文字分の空白のフィールドが現れます。


3. 新しいシステムパスワードをタイプします。

パスワードは32文字まで入力できます。

それぞれの文字キー（または空白としてのスペースバー）を押すごとに「*」が表示されます。パスワードの設定では、大文字と小文字は区別されません。たとえば、パスワードが大文字のMであっても、システムはM かm であれば正しいと判断します。

ある種のキーの組み合わせはパスワードとして使用することができません。このようなキーが入力されるとコンピュータのスピーカーから警告のピープ音が鳴ります。

入力した文字を訂正する場合は、<Backspace>または<←>キーを押してください。

 **メモ:**システムパスワードの入力を途中で中止したい場合は、<Tab>または<Shift><Tab>キーを押して別のフィールドに移動するか、手順5を終了する前に<Esc>を押します。

4. <Enter>を押します。

新しく設定したシステムパスワードが32文字未満の場合は、残りの部分には「*」が挿入されます。その後、項目名がVerify Passwordに変わり、32桁の空白のフィールドが再度表示されます。

5. パスワードを確認するために、もう一度パスワードを入力して <Enter>を押します。

パスワード設定はEnabledに変わります。これで、システムパスワードが設定されました。セットアップユーティリティを終了して、システムを使用することができます。ただし、リセットボタンを押すか、電源を入れ直してシステムを再起動しないと、パスワード保護機能は有効になりません。

システムパスワードの使い方

電源を入れるか、リセットボタンを押すか、または<Ctrl><Alt>を押してシステムを再起動した場合、Password StatusがUnlockedに設定されていると、以下のプロンプトが表示されます。

```
Type in the password and
- press <ENTER> to leave password security enabled.
- press <CTRL><ENTER> to disable password security.
Enter password:
(パスワードをタイプして、
- <ENTER> を押すと、パスワードセキュリティは有効なままです。
- <CTRL><ENTER> を押すと、パスワードセキュリティは無効になります。
パスワードを入力してください。)
```

Password StatusがLockedに設定されている場合は、次のプロンプトが表示されます。

```
Type the password and press <Enter>.
(パスワードを入力し、<Enter>を押してください。)
```

正しいシステムパスワードを入力して<Enter>を押すと、システムが起動し、キーボードやマウスを使用して通常通りにシステムを操作できます。

 **メモ:**セットアップパスワードが設定されている場合は(「[セットアップパスワード機能の使い方](#)」を参照)、システムはそれをシステムパスワードの代用として受け付けます。

入力したシステムパスワードが間違っていると、次のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password. **
( 誤ったパスワード)
```

```
Enter password:
(パスワードを入力してください。)
```


2回も誤ったシステムパスワードまたは不完全なシステムパスワードを入力すると、同じメッセージが表示されます。

システムパスワードを3回間違えるとそれ以降は、以下のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password. **
Number of unsuccessful password attempts: 3
System halted! Must power down.
( 誤ったパスワード
間違ったパスワード入力の回数: 3
システムが停止しました! 電源を落としてください。)
```

間違ったシステムパスワードを何度も入力すると、使用を許可されていないユーザーが操作しようとしていると判断されます。

システムの電源を入れ直した後も、再び誤ったシステムパスワードまたは不完全なシステムパスワードを入力する度に、上記のメッセージが表示されます。

 **メモ:**[Password Status](#)の他にシステムパスワードとセットアップパスワードも併用すると、権限の無い変更に対してシステムの保護を強化できます。

システムパスワードの取り消しと変更

現在のシステムパスワードを取り消しまたは変更するには、以下の手順を実行します。

1. <F2>を押して[セットアップユーティリティ](#)を起動し、[Password Status](#)がUnlockedに設定されていることを確認します。
2. システムを再起動して、システムパスワードを要求するプロンプトを表示させます。

3. プロンプトが表示されたら、システムパスワードを入力します。
4. <Enter> を押して通常の操作を続ける代わりに、<Ctrl><Enter>を押して現在のシステムパスワードを無効にします。
5. セットアップユーティリティのSystem PasswordにNot Enabledが表示されていることを確認します。

System PasswordにNot Enabledと表示されている場合は、システムパスワードは取り消されています。新しいパスワードを設定する場合は、手順6に進みます。Not Enabledが表示されていない場合は、<Alt>を押してシステムを再起動し、手順3~5を実行してください。

6. 「[システムパスワードの設定](#)」の手順に従って、新しいパスワードを設定します。

セットアップパスワード機能の使い方


ご使用のDellシステムは、出荷時にはセットアップパスワードは設定されていません。また、DMIエージェントも有効で機能している(リモートでシステム設定の変更可能)ので、Dellではシステム設定の無許可の変更を防止するために、セットアップパスワード機能を有効にしてそれを使用することを強くお勧めしています。

セットアップユーティリティを使ったセットアップパスワードの設定方法は、「[セットアップパスワードの設定](#)」を参照してください。セットアップパスワードを設定したら、そのパスワードを知っているユーザーでなければ、セットアップユーティリティの全機能を使用することはできません。詳細は、「[Setup Password項目がEnabledの時のシステム操作の仕方](#)」を参照してください。

[現在のセットアップパスワードを変更](#)するには、セットアップパスワードを知っておく必要があります。設定したパスワードを忘れてしまった場合は、コンピュータカバーを取り外し、ジャンパ設定に変更し、セットアップパスワード機能を解除する必要があります(「[パスワードを忘れたとき](#)」を参照)。ただし、システムパスワードも同時に消去されるので注意してください。

セットアップパスワードの設定

セットアップパスワードは、Setup PasswordがNot Enabledの場合にのみ設定できます。セットアップパスワードを設定するには、Setup Passwordをハイライト表示させて、<←>または<→>を押します。パスワードの入力と確認のプロンプトが表示されます。パスワードに使用できない文字を指定すると警告のピープ音がなります。

 **メモ:** セットアップパスワードとシステムパスワードは同じでもかまいません。これらのパスワードが異なる場合でも、セットアップパスワードをシステムパスワードの代わりに入力することができます。ただし、システムパスワードは、セットアップパスワードの代わりに使用することができません。

パスワードの確認が終わると、Setup PasswordはEnabledに変わります。これ以降は、[セットアップユーティリティ](#)を起動する際に、セットアップパスワードの入力を求められます。


Setup Passwordへの変更はただちに有効になります(再起動は必要ありません)。

Setup Password項目がEnabledの時のシステム操作の仕方

Setup PasswordがEnabledに設定されている場合、正しいセットアップパスワードを入力しないと、どのセットアップ項目も変更できません。

セットアップを起動すると、セットアップユーティリティ画面のSetup Passwordがハイライト表示され、パスワードの入力を求められます。

正しいパスワードを入力しないと、セットアップユーティリティ画面は表示されますが、変更できません。

 **メモ:** [Password Status](#)とSetup Passwordを併用すれば、無許可の変更に対してシステムパスワードを保護できます。

セットアップパスワードの取り消しと変更


現在のセットアップパスワードを取り消しまたは変更するには、次の手順を実行します。

1. [セットアップユーティリティ](#)を起動します。
2. Setup Passwordをハイライト表示させてから、<←>または<→>を押して、現在のセットアップパスワードを取り消します。
設定はNot Enabledに変わります。
3. 新しいセットアップパスワードを設定したい場合は、「[セットアップパスワードの設定](#)」を参照してください。

パスワードを忘れたとき

システムまたはセットアップパスワードを忘れると、システムを操作したり、セットアップユーティリティの設定を変更できません。パスワードを忘れてしまった場合は、コンピュータカバーを取り外し、パスワードジャンパの設定を変更してパスワードを無効にしてから、現在のパスワードを消去してください。

忘れてしまったパスワードを無効にするには、以下の手順を実行します。

 **警告:** コンピュータカバーを取り外す前に、「[作業にあたっての注意](#)」を参照してください。

1. 「[コンピュータカバーの取り外しと取り付け](#)」の手順に従って、コンピュータカバーを取り外します。

2. PSWDジャンパからジャンパプラグを取り外し、パスワード機能を無効にします。


ジャンパの説明については「[システム基板のジャンパ](#)」を、システム基板上のパスワードジャンパ(ラベルはPSWD)の位置については、「[コンピュータ内部](#)」の [図4](#)を参照してください。


3. コンピュータカバーを取り付けます。

4. コンピュータ本体と周辺機器の電源プラグを接続し、電源を入れます。

PSWDジャンパプラグを取り外した状態でシステムを起動すると、現在のパスワードが消去されます。

5. [セットアップユーティリティ](#)を起動して、パスワードが無効になっていることを確認します。新しいパスワードを設定する場合は、手順6に進みます。

 **メモ:** 新しいシステムパスワードまたはセットアップパスワードを設定する前に、PSWDジャンパプラグを取り付けてください。

 **警告:** コンピュータカバーを取り外す前に、「[作業にあたっての注意](#)」を参照してください。

6. 「[コンピュータカバーの取り外しと取り付け](#)」の手順に従って、コンピュータカバーを取り外します。

7. PSWDジャンパプラグを取り付けます。

8. コンピュータカバーを取り付けてから、コンピュータ本体と周辺機器の電源プラグを接続し、電源を入れます。

PSWDジャンパプラグを取り付けた状態でシステムを再起動すると、パスワード機能が再度有効になります。セットアップユーティリティを起動すると、どちらのパスワード項目もNot Enabledと表示されます。これはパスワード機能は有効でも、パスワードが設定されていないことを意味します。

9. 新しいシステムパスワード、またはセットアップパスワードを設定します。

新しいシステムパスワードを設定するには、「[システムパスワードの設定](#)」を、新しいセットアップパスワードを設定するには「[セットアップパスワードの設定](#)」を参照してください。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

セットアップ項目: Dell™ OptiPlex™ GX300システムユーザーズガイド

- | | |
|---|--|
| AC Power Recovery | Primary Video Controller |
| Asset Tag | Remote Wake Up |
| Auto Power On | Report Keyboard Errors |
| Boot Sequence | Second Processor |
| CPU ID | System Data |
| CPU Speed | System Date |
| Diskette Drive A および Diskette Drive B | System Memory |
| Integrated Devices | System Security |
| Keyboard NumLock | System Time |
| PCI IRQ Assignment | ZIP Floppy Support |
| Primary Drive n および Secondary Drive n | |

AC Power Recovery


AC Power Recoveryは、システムが正しく終了された後に、再度電源を入れたときにどうなるかを決定します。Offが選択されていると、電源を入れてもシステムは起動しませんが、Onが選択されていると、電源を入れたときにシステムは起動します。

Asset Tag

Asset Tagは、管理タグコードが設定されている場合、ユーザーがシステムに対して指定可能な管理タグコードを表示します。ソフトウェアサポートユーティリティに組み込まれている管理タグユーティリティを使用して、最大10文字の管理タグコードをNVRAMに入力できます。

Auto Power On

Auto Power Onを使用して、時間と曜日を設定し、コンピュータシステムに自動的に電源を入れることができます。Auto Power Onをセットして、毎日または月曜日から金曜日のあらかじめ設定した時刻に、自動的にシステムを起動させることができます。

 **メモ:** この機能は、電源タップやサージプロテクタでシステムをシャットダウンした場合には動作しません。

時間は24時間形式(時間:分)で表示されます。起動時間を変更するには、<←>を押してハイライト表示されている項目の数値を大きくするか、または<→>を押してその数値を小さくします。直接数値を入力することもできます。

Auto Power OnのデフォルトはDisabledです。

Boot Sequence

Boot Sequenceは、システムが起動しようとするデバイスの順序を設定できます。

Boot (ブート)とはコンピュータの起動手順のことです。電源を入れると、まず、システムはある小さなプログラムをメモリ内にロードして実行可能な状態にし、その後このプログラムが必要なオペレーティングシステムをロードします。Boot Sequenceは、ロードするファイルを検索する場所をシステムに知らせます。

起動デバイスの順序を設定するには、<Enter>を押してフィールドのポップアップオプションメニューにアクセスします。デバイスのリスト内を移動するには、<↑>または<↓>を押します。デバイスを有効または無効にする(有効にしたデバイスにはチェックマークが付きます)にはスペースバーを押します。選択したデバイスをリストの上または下に移動するには、プラス(+)キーまたはマイナス(-)キーを押します。以降では、代表的な起動デバイスについて説明します。

Diskette Drive A:

最初のデバイスとしてDiskette Drive Aを選択すると、システムはドライブAからの起動を試みます。そのドライブに起動不可能なディスクを見つけたり、ドライブ自体に問題があった場合は、エラーメッセージが表示されます。ドライブにディスクがないと、システムは起動順序リスト内の次のデバイスから起動を試みます。

Hard-Disk Drive

Hard Disk Driveを選択すると、コンピュータはハードディスクドライブから起動した後、起動順序リスト内のデバイスに進みます。

IDE CD-ROM Device

IDE CD-ROM Deviceを選択すると、コンピュータは初めにCD-ROMドライブからの起動を試みます。そのドライブに起動不可能なCDを見つけたり、ドライブ自体に問題があった場合は、エラーメッセージが表示されます。ドライブにCDがないと、システムは起動順序リスト内の次のデバイスから起動を試みます。

MBA

MBAを選択すると、システムは起動時のDellロゴ画面で<Ctrl>< Alt>< b>を押すように指示してきます。表示されるメニューで、アクティブ起動モードとしてPXE、RPL、BootPまたはNetWareを選択できます。起動ルーチンがネットワークサーバーから使用できないと、システムは起動順序リスト内の次のデバイスから起動をこころみます。

CPU ID

CPU IDは、インストールされたマイクロプロセッサのメーカー識別コードを示します。

CPU Speed

CPU Speedは、システムを起動するプロセッサの速度を示します。

<←>または<→>を使用して、CPU Speed項目の常駐プロセッサの定格速度（デフォルト）と低互換速度とを切り替えます。この設定により、プロセッサの速度に依存するアプリケーションプログラムに対応できます。この項目に対しておこなった変更はすぐに有効になります（システムの再起動を行う必要はありません）。

また、システムがリアルモードで実行中の場合、<Ctrl><Alt>< \>を押すと、プロセッサの定格速度（デフォルト）と低速互換速度とを切り替えることができます。

Diskette Drive A および Diskette Drive B

Diskette Drive AおよびDiskette Drive Bは、コンピュータに取り付けられているディスクドライブの種類を識別します。標準のケーブル設定では、Diskette Drive A(起動ディスクドライブ)は最上段のドライブベイに取り付けられている3.5インチディスクドライブです。Diskette Drive Bは2番目のディスクドライブで、下方にあるフロントドライブベイのいずれかに取り付けられています。

Diskette Drive AおよびDiskette Drive Bには、次の設定項目があります。

- 1 5.25 インチ、360 KB
- 1 5.25 インチ、1.2 MB
- 1 3.5 インチ、720 KB
- 1 3.5 インチ、1.44 MB
- 1 Not Installed(ドライブなし)



メモ: テープドライブは、Diskette Drive AおよびDiskette Drive Bには設定できません。たとえば、1つのディスクドライブと1つのテープドライブをディスク・テープドライブインタフェースケーブルに接続している場合、Diskette Drive Aはディスクドライブの属性に合わせて設定し、Diskette Drive BはNot Installedに設定します。

Integrated Devices

Integrated Devicesは、システム基板に取り付けられた次のデバイスを設定します。

- 1 [Sound](#)
- 1 [Network Interface Controller](#)
- 1 [Mouse Port](#)
- 1 [Serial Port 1](#)および [Serial Port 2](#)
- 1 [Parallel Port](#)
- 1 [IDE Drive Interface](#)
- 1 [Diskette Interface](#)

- 1 [USB Emulation](#)
- 1 [PC Speaker](#)
- 1 [Video DAC Snoop](#)

次に説明するように、これらの項目を設定するには<Enter>を押します。

Sound

Sound は内蔵オーディオコントローラのOn、Offを設定します。デフォルトはOnです。

Network Interface Controller

Network Interface Controllerは、内蔵NICがOn、OffまたはOn w/ MBAであるかを判断します。デフォルトはOn w/ MBAで、これはNICが有効であり、ネットワークサーバーからリモートでシステムを起動するように設定されるという意味です。On w/MBAを選択すると、システム起動時のDellロゴ画面で<Ctrl>< Alt>< b>を押すように指示してきます。表示されるメニューで、アクティブ起動モードとしてPXE、RPL、BootPまたはNetWareを選択できます。

Mouse Port


Mouse Portでは、システム内蔵のPS/2互換マウスポートを有効または無効に設定します。マウスを無効にすると、拡張カードがIRQ12を使用できるようになります。

Serial Port 1およびSerial Port 2

Serial Port1およびSerial Port2は、システムの内蔵シリアルポートを設定します。これらをAuto(デフォルト)に設定して、特定の指定先(Serial Port1にはCOM1またはCOM3、Serial Port2にはCOM2またはCOM4)にポートを自動的に割り当てたり、Offに設定してポートを使用できなくします。

シリアルポートをAutoに設定して、同じ値に設定したポートを含む拡張カードを追加すると、同じIRQ設定を共有して、次に使用可能なポート値と内蔵ポート再マッピングが自動的におこなわれます。次の例を参照してください。

- 1 COM3との間でIRQ4を共有するCOM1(I/Oアドレス3F8h)は、COM3(I/Oアドレス3E8h)に再マップされます。
- 1 COM4との間でIRQ3を共有するCOM2(I/Oアドレス2F8h)は、COM4(I/Oアドレス2E8h)に再マップされます。

 **メモ:** 2つのCOMポートが1つのIRQの設定値を共有する場合は、必要に応じてどちらのポートも使用可能ですが、2つのポートを同時に使用することはできません。Microsoft® Windows® 95またはIBM® OS/2® オペレーティングシステムをご使用の場合は、両方のシリアルポートを同時に使用できません。2つ目のポート(COM3またはCOM4)も使用中の場合、内蔵ポートはオフになります。

Parallel Port

Parallel Portは、システムの内蔵パラレルポートを設定します。<Enter>を押して次に説明するParallel Portの項目を設定します。


Mode

この項目はPS/2、EPP、ECP、ATまたはOffに設定できます。Offにするとポートが無効になります。

この項目はパラレルポートに接続されている周辺機器のタイプに合わせて設定します。使用するモードを決定するときは、デバイスに付属のマニュアルを参照してください。

I/O Address

この項目はパラレルポートで使用される入出力アドレスを決定します。Mode項目がOffの場合は表示されません。I/O Addressは378h(デフォルト)、278h、3BChに設定できます。

 **メモ:** ポートにECPデバイスを接続しているときは、Parallel Portを278hに設定しないでください。

DMA Channel

この項目はパラレルポートで使用されているDMAチャンネルを設定します。Mode項目がECPの場合のみ表示されます。DMA 1、DMA 3、そしてOffに設定できます。

IDE Drive Interface

IDE Drive Interfaceは、システムの内蔵EIDEハードディスクドライブインタフェースを有効または無効にします。

Auto(デフォルト)が選択されていると、システムは必要に応じて、内蔵EIDEインタフェースをオフにして拡張スロット内のコントローラカードを使用します。

システム起動時に、システムは拡張スロットにプライマリハードディスクドライブコントローラカードが取り付けられているかどうかを最初にチェックします。カードが見つからなければ、IRQ14とIRQ15を使用するために内蔵EIDEインタフェースを使用可能にします。

プライマリコントローラが拡張バス上にある場合は、内蔵のEIDEインタフェースは無効になります。

Offを選択すると、内蔵EIDEインタフェースは使用できません。

Diskette Interface

Diskette Interfaceでは、システム内蔵のディスクドライブコントローラの動作を制御します。

Auto(デフォルト)が選択されていると、システムは必要に応じて内蔵ディスクドライブコントローラをオフにして、拡張スロット内のコントローラカードを使用します。

Read Onlyが選択されていると、システム内蔵のディスク/テープドライブコントローラを使用してディスクドライブとテープドライブにデータを書き込むことができなくなります(ドライブからのデータの読み込みはできます)。Read Onlyが選択されていると、Auto(必要に応じて、システムは内蔵ディスクドライブコントローラの動作を停止します)も有効になります。

Offを選択すると、内蔵のディスク・テープドライブコントローラの動作が停止します。この設定は主にトラブルシューティングのために使用されます。

USB Emulation

USB EmulationはシステムのBIOSがUSBキーボードとマウスを制御するかどうかを設定します。Onが選択されていると、BIOSはオペレーティングシステムがUSBドライバをロードするまでUSBキーボードとマウスを制御します。Off(デフォルト)が選択されていると、BIOSによる制御はおこなわれませんが、起動ルーチンの間もキーボードとマウスは機能します。PS/2 互換キーボードとマウスを使用している場合は、USB Emulation をOffに設定してください。

PC Speaker

PC Speakerでは、内蔵スピーカーをOn(デフォルト)またOffに設定します。この項目に対しておこなった変更はすぐに有効になります(システムの再起動をおこなう必要はありません)。

Video DAC Snoop

Video DAC Snoopを使うと、特定のビデオ拡張カードを使用したときに発生する可能性のあるビデオに関する問題を修復できます。デフォルトはOffです。ビデオ拡張カードを使用して、色表示および画面表示の不具合などの問題が発生した場合は、Video DAC SnoopをOnに設定します。


Keyboard NumLock

Keyboard Num Lockは、101か102型のキーボードで、Num Lockモードを有効にしてシステムを起動するかどうかを決定します(84キーのキーボードでは、Num Lockモードは使えません)。

Num Lockモードが有効な場合、テンキーは、各キーの上段に示されている数字を入力できます。Num Lockをオフに切り替えると、各キーはそのキーの下に示されているカーソル機能に切り替わります。


PCI IRQ Assignment

PCI IRQ Assignmentは、どのIRQラインがコンピュータにインストールされたPCIデバイスに割り当てられるかを指定します。これらのデバイスを設定するには<Enter>を押します。次に、変更したいIRQラインを持つデバイスを選択し、プラス(+)キーまたはマイナス(-)キーを押して使用可能なIRQライン内をスクロールします。通常は、特定のデバイス、デバイスドライバ、オペレーティングシステムがPCIデバイスですでに使用されている特定のIRQラインを必要としないかぎり、PCIデバイスに割り当てられたIRQラインを変更する必要はありません。

 **メモ:** デバイスを特定のIRQラインに手動で割り当てると、同じIRQラインを使用する他のデバイスとのコンフリクトが発生し、どちらかのデバイス、またはシステムが不安定になったり、正常に動作しないことがあります。

Primary Drive n および Secondary Drive n

Primary Drive n は、システム基板のプライマリEIDEインタフェースコネクタ(「IDE1」というラベル)に接続されるドライブを指定します。Secondary Drive n は、セカンダリEIDEインタフェースコネクタ(「IDE2」というラベル)に接続されるドライブを指定します。EIDE CD-ROMおよびEIDEテープドライブには、セカンダリEIDEインタフェースコネクタを使用してください。

 **メモ:** Dellからお求めになった、内蔵EIDEコントローラを使用するデバイスに関しては、すべて該当のDrive項目をAutoに設定してください。

EIDEデバイスがセカンダリEIDEインタフェースに接続されている場合は、プライマリEIDEインタフェースにEIDEデバイスを接続する必要があります。


次の設定は、コンピュータにインストールされたEIDEデバイスのタイプを示します。

- 1 Auto (DellのEIDEデバイスは、すべてこの設定を使用します)
- 1 Off
- 1 User 1 または User 2

1 特定のドライブタイプ番号

各項目の設定を選択するには、<Enter>を押してフィールドのポップアップ設定メニューにアクセスします。次に、キーボードから文字を入力するか、<←>または<→>を押して設定を検索します。

ドライブタイプ番号はBIOSに記録された表をもとに、ハードディスクドライブのパラメータを設定します。

 **メモ:** BIOSを経由しないオペレーティングシステムでは、最適なハードディスクドライブのパフォーマンスを実現できない可能性があります。

問題がある場合

EIDEドライブを取り付けてから、初めてシステムを起動したときに、ドライブエラーメッセージが表示された場合、それは特定のドライブが自動ドライブタイプ検出機能で動作していないことを意味します。ドライブタイプに関する問題が原因だと考えられる場合は、次のいずれかの方法でドライブタイプ情報を入力してください。

1 ドライブタイプ番号がわかる場合

ドライブに付属のマニュアルに記載されているドライブタイプ番号を使用するか、システムの購入時にドライブが取り付け済みであれば、Dell AccessoriesフォルダからManufacturing Test Reportにアクセスします。


セットアップユーティリティでドライブタイプ番号を設定するには、該当するドライブ項目(Primary Drive 0またはPrimary Drive 1)をハイライト表示して、正しいドライブタイプ番号を入力します。また、<→>や<←>を押してドライブタイプ番号を増減させて、適切な番号を設定することができます。

1 ドライブタイプ番号がわからない場合

Drive 0およびDrive 1項目は、ドライブごとに次のパラメータを表示します。

- Drive Typeは、選択されたハードディスクドライブのドライブタイプ番号です。
- Capacity (システムで自動的に計算)は、ドライブの記憶容量をメガバイトで示します。
- Cylindersは、論理シリンダの数です。
- Headsは、ドライブの論理ヘッド数を示します。
- Sectorsは、トラックごとの論理セクタ数です。

サポートされているドライブタイプに、新しいドライブのパラメータと一致するものがない場合は、独自のパラメータを入力することができます。その場合、Drive 0項目をハイライト表示し、u と入力してUser 1を表示します。次に、<→>または<←>を押してUser 1とUser 2の設定(2つのユーザ定義ドライブタイプのみ許されます)を切り替えることができます。次に、<Tab>を押して各パラメータフィールドを連続してハイライト表示し、各フィールドに該当する番号を入力します。

 **メモ:** PrimaryおよびSecondary Drive 0とDrive 1の両項目に、User 1およびUser 2ドライブタイプを使用できます。ただし、User 1またはUser 2のドライブタイプを選択すると、最適なハードディスクドライブのパフォーマンスが得られない場合があります。また、528MBを超えるハードディスクドライブには、User 1およびUser 2ドライブタイプを使用できません。

Primary Video Controller

Primary Video Controllerは、システムが起動ルーチンの間にPCIスロットのビデオカードを検出するかどうかを設定します。Autoを選択した場合、システムは起動ルーチンの段階で検出したPCIビデオカードを使用します。PCIビデオカードが検出されなかった場合は、AGP (accelerated graphics port) スロットのビデオカードを使用します。AGPを選択した場合は、PCIスロットにビデオカードが取り付けられていても、AGPスロットのビデオカードを使用します。

Remote Wake Up

Remote Wake Upでは、リモートウェイクアップ機能をOnまたはOffに設定できます。設定を有効にするには、システムを再起動してください。

Report Keyboard Errors

Report Keyboard Errorsでは、POST(電力投入時自動テスト)時に、キーボード関連のエラーメッセージを表示するかどうかを指定できます。POSTは、システムの電源を入れたりリセットボタンを押すたびに、システムがハードウェアに対しておこなう一連のテストです。

この項目は、セルフスターティングサーバーやホストシステムなど、ほとんどキーボードを接続しないシステムを使用する場合にも有効です。このような場合、Do Not Reportを指定しておく、POST時にキーボードまたはキーボードコントローラ関連のエラーメッセージは表示されません。キーボードが接続されている場合も、キーボードの動作には影響を与えません。

Second Processor

Second Processorは、セカンドマイクロプロセッサを有効にしたり無効にしたりすることで、トラブルシューティングがおこなえます。お使いのシステムにマイクロプロセッサに関連する問題があれば、セカンドマイクロプロセッサを無効にすることで、その問題がこのマイクロプロセッサに関わるものか判断することができます。この項目は、システムに2つのマイクロプロセッサを搭載している場合のみ現れます。

System Data

次のシステム関連情報がセットアップユーティリティ画面のシステムデータ領域に表示されます。

- 1 マイクロプロセッサのタイプとBIOSのレベル。
- 1 内蔵レベル2(L2) キャッシュのサイズ。
- 1 製造工程で、DellがNVRAMにプログラムしたシステムの7桁のサービスタグナンバー。テクニカルサポートにお問い合わせの際は、この番号をお知らせください。サービスタグナンバーは、診断プログラムなどのDellのサポートソフトウェアからもご覧になれます。

System Date

System Dateは、コンピュータの内蔵カレンダーに日付を設定します。

システムにはmonth、day-of-month、yearフィールド内の設定値に対応する曜日が自動的に表示されます。

日付を変更するには、<←>または<→>を押してフィールドを選択し、次にプラス(+)キーまたはマイナス(-)キーを押して数値を増減します。また、month、day-of-month、yearのフィールドに数値を入力することもできます。

System Memory

System Memoryは、システムで検出された総メモリ量を示します。メモリを追加した場合には、この項目で、新しいメモリが正しく取り付けられ、システムに認識されたかどうかを確認してください。

System Memoryは、システムに取り付けられたメモリデバイスの数も示します。この情報を表示するためには、System Memoryをハイライト表示し、<enter>を押します。お使いのシステムは最大32個のメモリデバイスをサポートします。たとえば、16個のメモリデバイスを持つRIMMを2つ搭載していれば、3つ目のRIMMを取り付けることはできません。

System Security

System Securityは、次のパスワードおよびシャーシイントルージョン項目を設定します。

- 1 [System Password](#)
- 1 [Password Status](#)
- 1 [Setup Password](#)
- 1 [Chassis Intrusion](#)
- 1 [Remote System Alerts](#)
- 1 [CPU Serial Number](#)

次に説明するように、これらの項目を設定するには<Enter>を押します。

System Password

System Passwordには、パスワードセキュリティ機能の現在の状態が表示され、新しいパスワードの入力または変更ができます。Not Enabledに設定されているとき以外は、新しいパスワードを入力することはできません。Not Enabled は明るい文字で表示されます。

System Password項目には、次の設定があります。

- 1 Not Enabled (デフォルト)
- 1 Enabled
- 1 Disabled

 **メモ:** システムパスワードの入力、使用および変更の詳細は、「[システムパスワード機能の使い方](#)」を参照してください。忘れてしまったシステムパスワードを無効にする手順については、「[パスワードを忘れたとき](#)」を参照してください。

Password Status

Setup PasswordをEnabledに設定すると、システムの起動時にシステムパスワードが変更されたり無効になったりすることを防ぎます。

システムパスワードをロックするには、最初にSetup Password項目でセットアップパスワードを入力してから、Password Status項目をLockedに変更する必要があります。Setup Passwordにパスワードが割り当てられ、Password StatusがLockedに設定された場合は、System Password項目でシステムパスワードを変更できず、また<Ctrl><Enter>を押しても、システム起動時にシステムパスワードは無効にできません。


システムパスワードをアンロックするには、Setup Password項目でセットアップパスワードを入力してからPassword Status項目をUnlockedに変更する必要があります。この項目をUnlockedに設定すると、<Ctrl><Enter>を押してシステム起動時にシステムパスワードを無効にすることができます。次に、System Password項目でパスワードを変更できます。

Setup Password

Setup Passwordでは、システムパスワード機能を使ってシステムへのアクセスを制限するのと同様に、セットアップユーティリティへのアクセスを制限できます。Dellでは、かつてにセットアップユーティリティの設定が変更されないように、Setup Password機能を有効にして使用することを強くお勧めします。

Setup Password項目には、次の設定があります。

- 1 Not Enabled (デフォルト)
- 1 Enabled
- 1 Disabled

 **メモ:** セットアップパスワードの割り当てと、既存のセットアップパスワードの使用および変更の詳細は、「[セットアップパスワード機能の使い方](#)」を参照してください。忘れてしまったセットアップパスワードを無効にする手順については、「[パスワードを忘れたとき](#)」を参照してください。

Chassis Intrusion

Chassis Intrusionでは、システムシャーシイントルージョンモニタのステータスを表示し、Enabled、Enabled-SilentまたはDisabledに設定できます。デフォルトはEnabledです。


イントルージョンモニタがEnabledに設定されていると、コンピュータカバーが取り外された場合に、DMIイベントが生成され、設定がDetectedに変化し、次のシステム起動時に起動ルーチンで次のメッセージが表示されます。

Alert! Cover was previously removed.
(警告! カバーが取り外されました。)

イントルージョンモニタがEnabled-Silentに設定されていると、コンピュータカバーが取り外された場合に、DMIイベントが生成され、設定がDetectedに変化します。しかし次のシステム起動時に起動ルーチンで警告メッセージは表示されません。

イントルージョンモニタをDisabledに設定すると、イントルージョンモニタリングは行われず、メッセージは表示されません。

Detectedの設定をリセットするには、システムのPOST時にセットアップユーティリティを起動します。Chassis Intrusion項目では、<←>または<→>を押してResetを選択し、次にEnabled、Enabled-SilentまたはDisabledを選択します。

 **メモ:** セットアップパスワードを有効にした場合、セットアップパスワードがわからないとChassis Intrusion をリセットできません。

Remote System Alert

Remote System Alert では、システムがネットワークを通じてDell OpenManage™ サーバへ警告情報(コンピュータカバーを外したときのシャーシイントルージョン警告など)を送るかどうかを決定します。Enabledを選択すると、システムは警告情報を送ります。Disabledを選択すると、システムは警告情報を送りません。

システムの電源を切ると、次にシステムの電源を入れるまでシステムはリモートシステム警告情報を送りません。

CPU Serial Number

CPU Serial Numberは、マイクロプロセッサシリアル番号(もしあれば)を必要とするプログラムにその番号を付けるかどうかを決定します。Enabledを選択すると、システムはマイクロプロセッサシリアル番号を必要とするプログラムにその番号を付けます。Disabledを選択すると、システムはマイクロプロセッサシリアル番号を付けません。デフォルトはDisabledです。

System Time

System Timeでは、コンピュータの内蔵時計に時刻を設定します。

時間は24時間形式(時間:分:秒)で表示されます。時刻を変更するには、<←>または<→>を押してフィールドを選択し、次にプラス(+)キーまたはマイナス(-)キーを押して数値を増減します。直接数値を入力することもできます。

ZIP Floppy Support

ZIP Floppy Supportでは、BIOSのATAPI ZIPデバイスのサポートを、有効または無効にするかの設定をおこないます。Enabledを選択した場合、ATAPI ZIPデバイスはディスクドライブとしてサポートされ、[Boot Sequence](#)の1番目のZIPデバイスは、起動可能デバイスとしてリストされます。Disabledを選択した場合、オペレーティングシステムでサポートされている場合でも、BIOSはATAPI ZIPデバイスを無視します。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

ソフトウェアチェック: Dell™ OptiPlex™ GX300システムユーザーズガイド

- [概要](#)
- [ソフトウェアのインストールと設定](#)
- [エラーメッセージ](#)
- [入力エラー](#)
- [メモリ常駐プログラム](#)
- [プログラムコンフリクト](#)
- [メモリアドレスコンフリクト](#)
- [割り込み割り当てコンフリクト](#)

概要

大半のコンピュータには、オペレーティングシステムのほかにいくつかのアプリケーションプログラムがインストールされているので、ソフトウェアの問題を特定することは難しい場合があります。ソフトウェアエラーは、最初はハードウェアの誤動作のように見える場合もあります。ソフトウェアの問題は、次のような環境から発生します。

- 1. プログラムのインストールまたは設定が正しくない
- 1. 入力エラー
- 1. ある種のアプリケーションプログラムとコンフリクトするデバイスドライバ
- 1. TSRプログラムを使用することから生ずるメモリコンフリクト
- 1. デバイス間の割り込みコンフリクト

「[Dell診断プログラム](#)」のSystem Board Devicesテストグループを実行することで、コンピュータの問題がソフトウェアによって発生したかどうかを確認することができます。このテストグループ内のすべてのテストが正常終了した場合は、ソフトウェアによってエラーが発生している可能性が高いと思われる。

本項では、ソフトウェアの問題を解析するためのいくつかの一般的なガイドラインを示します。特定のプログラムに関するトラブルシューティングの詳細は、ソフトウェアに付属のマニュアルを参照するか、ソフトウェアのサポートサービスにご相談ください。

ソフトウェアのインストールと設定

ソフトウェアを購入したら、ウイルス検出ソフトウェアでウイルスの有無を調べてから、コンピュータのハードディスクドライブにインストールしてください。自己増殖するコードタイプのウイルスは使用可能なシステムメモリをあっという間に使用し、ハードディスクドライブに保存されているデータを損傷または破壊し、感染したプログラムの性能に影響を与え続けます。数種類のウイルス検出プログラムが市販されており、大半の電子掲示板サービス(BBS)には自由にダウンロードできるウイルス検出プログラムがアーカイブされています。

プログラムをインストールする前にマニュアルを読んで、プログラムの機能、プログラムが必要とするハードウェア、プログラムのデフォルトを把握してください。プログラムには通常、インストールの方法が説明されているマニュアルと、インストールルーチンの入ったプログラムディスクまたはCDが付属しています。

ソフトウェアインストールルーチンを使用すると、ハードディスクドライブに該当するプログラムファイルを転送することができます。インストール説明書には、プログラムをうまく実行できるようにオペレーティングシステムを設定する方法について詳述されている場合があります。必ずインストール説明書を読んでから、プログラムのインストールルーチンを実行してください。config.sysやautoexec.batなどのいくつかのオペレーティングシステム起動ファイルを変更する指示を受けたり、インストールルーチンが起動ファイルを自動変更する場合があります。

インストールルーチンを実行する場合は、コンピュータのオペレーティングシステムがどのように設定されるか、どのようなコンピュータを使用しているか、またどのような周辺装置がコンピュータに接続されているかという問いに答えられるようにしておいてください。

エラーメッセージ

エラーメッセージは、アプリケーションプログラム、オペレーティングシステムまたはコンピュータから生成されます。「[メッセージとコード](#)」では、システムで生成されるエラーメッセージについて説明しています。「メッセージとコード」に示されていないエラーメッセージが発生した場合は、オペレーティングシステムまたはアプリケーションプログラムのマニュアルを調べてください。

入力エラー

不適切な時に特定のキーまたはキーの組み合わせを押すと、プログラムは予想外の結果を引き起こすことがあります。アプリケーションプログラムに付属のマニュアルを参照して、入力する値または文字が有効であるかどうかを確認してください。

また、プログラムが使用できる操作環境に設定されているかどうかを確認してください。コンピュータの操作環境のパラメータを変更するときは、プログラムの正常な動作に影響を与える場合があることに注意してください。場合によっては、操作環境を変更した後に、正しく実行しなくなったプログラムを再

インストールしなければなりません。

メモリ常駐プログラム

コンピュータが起動するときにロードされたり、オペレーティングシステムプロンプトからロードされる、ユーティリティや補足的なプログラムが各種あります。これらのプログラムはシステムメモリに常駐し、常に使用できるようになっています。これらのプログラムはコンピュータのメモリに残っているため、これらのTSRプログラムですでに占有されているメモリのすべて、または一部を他のプログラムが使用しなければならない場合、メモリコンフリクトやエラーが発生する可能性があります。

一般に、オペレーティングシステムの起動ファイル(config.sysやautoexec.batなど)には、システムの起動時にTSRプログラムを起動するコマンドがあります。これらのTSRプログラムのうちの1つがメモリコンフリクトを発生させていると思われるときは、起動ファイルからそれらのプログラムを起動するコマンドを削除してください。発生していた問題が再発しなければ、TSRプログラムのうちの1つがコンフリクトを発生させたと思われます。どのTSRプログラムがコンフリクトを発生させているかを突きとめるまで、TSRコマンドをスタートアップファイルに1回に1つずつ追加してください。

プログラムコンフリクト

プログラムの中には、たとえ終了してもセットアップ情報の一部を残すものがあります。その結果、他のプログラムが実行できなくなります。システムを再起動すると、これらのプログラムが問題の原因であるかどうかを確認できます。

デバイスドライバと呼ばれる特別なサブルーチンを使用するプログラムも、システムの問題を引き起こす可能性があります。たとえば、データがモニタに送られる方法が変化し、ある種のビデオモードまたはモニタに対応した特別なスクリーンドライバプログラムが必要になる場合があります。そのような場合は、そのプログラムを実行する別の方法を考える(たとえば、特にそのプログラムのために作成された起動ファイルを作成する)必要があるかもしれません。この問題の解決方法については、ご使用のソフトウェアのサポートサービスにお問い合わせください。

メモリアドレスコンフリクト

メモリアドレスコンフリクトは、複数のデバイスがアップパーメモリブロック(UMB)で同じアドレスにアクセスしようとしたときに発生します。たとえば、ネットワーク拡張カードと拡張メモリページフレームがアドレスの重なったブロックに割り当てられている場合、メモリアドレスコンフリクトが発生します。その結果、ネットワークにログインしようとしても、操作が行えません。

このようなコンフリクトを解決するためには、どちらかのデバイスのアドレスを変更してください。たとえば、ネットワーク拡張カードと拡張メモリページフレームアドレスのコンフリクトが発生した場合、CC000h~D0000hの範囲内のアドレスブロックにネットワークカードを移動することができます。拡張カードのアドレスブロックを割り当てなおす場合は、そのカードのマニュアルを参照してください。

割り込み割り当てコンフリクト

2つのデバイスが同じIRQ(割り込み要求)ラインを使おうとすると、問題が発生する場合があります。このようなコンフリクトを避けるために、取り付けられた各拡張カードのデフォルトIRQライン設定についてのマニュアルを参照してください。次に、[表1](#)を参照して使用可能なIRQラインにカードを設定してください。


 **メモ:** 表1に、デフォルトIRQ設定を示します。プラグアンドプレイ機能をもつシステムでは、デフォルト設定を変更することができます。プラグアンドプレイシステムにプラグアンドプレイカードを取り付けると、システムは開いているIRQラインがあるときにそのIRQラインを自動選択します。非プラグアンドプレイカードまたはレガシーカードを取り付ける場合は、ISAコンフィギュレーションユーティリティを実行して現在のIRQ設定を確認し、使用可能なIRQラインを見つけなければならない場合があります。

表1. デフォルトIRQラインの割り当て

IRQライン	使用中／使用可能
IRQ0	システムタイマで使用
IRQ1	出力バッファがいっぱいであることを知らせるためにキーボードで使用
IRQ2	IRQ8～IRQ15を有効にするために割り込みコントローラ1で使用
IRQ3	シリアルポート2で使用
IRQ4	シリアルポート1で使用
IRQ5	使用可能
IRQ6	ディスク／テープドライブコントローラで使用
IRQ7	パラレルポートで使用
IRQ8	リアルタイムクロック(RTC)で使用
IRQ9	ビデオグラフィックスアレイ(VGA)インタフェース(オプション)で使用
IRQ10	使用可能
IRQ11	使用可能

IRQ12	マウスポートで使用
IRQ13	数値演算コプロセッサ(適用可能な場合)で使用
IRQ14	プライマリ内蔵IDEコントローラで使用
IRQ15	セカンドIDEコントローラで使用

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

仕様: Dell™ OptiPlex™ GX300システムユーザーズガイド

- [プロセッサ](#)
- [メモリ](#)
- [システム情報](#)
- [ビデオ](#)
- [オーディオ](#)
- [拡張バス](#)
- [ドライブ](#)
- [ポート](#)
- [キーの組み合わせ](#)
- [ボタンおよびインジケータ](#)
- [電源](#)
- [サイズと重量](#)
- [環境](#)

プロセッサ

マイクロプロセッサのタイプ	1つまたは2つの Intel® Pentium® IIIマイクロプロセッサ 将来のアップグレードに対応可能な設計。 セットアップユーティリティ を使って、より低速な互換速度に設定可能。
内蔵キャッシュ	32 KB(16 KBデータキャッシュおよび16 KB命令キャッシュ)
L2キャッシュメモリ	512 KBパイプラインバースト、4ウェイセットアソシアティブ、ライトバックSRAM
演算コプロセッサ	Pentium IIIマイクロプロセッサに内蔵

メモリ

アーキテクチャ	RDRAM
RIMMソケット	2
RIMM容量	64 MB、128 MB、256 MBおよび、512 MB(入手可能であれば) RDRAM
標準RAM	最小で64 MB
最大RAM	1 GB(それぞれ16個のメモリデバイスを搭載した512 MB RIMMを2個取り付けた場合)
BIOSアドレス	F8000h

システム情報

システムチップセット	Intel 820 PCI/AGP
データバスの幅	64ビット
アドレスバスの幅	32ビット
DMAチャンネル数	8
割り込みレベル数	15
システムBIOSチップ	4 Mb
システムクロック	100 MHzまたは133 MHz(拡張バス速度と対応)

ビデオ

ビデオタイプ	AGP 4XまたはPCIビデオカード(メーカーの仕様を参照)
--------	--------------------------------

オーディオ

オーディオタイプ	Sound Blasterエミュレーション
オーディオコントローラ	アナログデバイス AD1881 AC97 Codec

ステレオ変換	16ビット(A/D(アナログからデジタル)およびD/A(デジタルからアナログ))
インタフェース:	
内部	PCIバス/AC 97
外部	ステレオライン入力ミニジャック、 マイク入力ミニジャック、 ヘッドフォン/スピーカ出力ミニジャック

拡張バス

バスタイプ	PCIおよびAGP
バス速度	PCI: 33 MHz AGP: 66 MHz
PCI拡張カードコネクタ	5
AGP拡張カードコネクタ	汎用×1 (4Xおよび2Xプロトコルをサポート)
PCI拡張カードコネクタの大きさ	120ピン
PCI拡張カードコネクタのデータの幅(最大)	32ビット
AGP拡張カードコネクタの大きさ	132ピン
AGP拡張カードコネクタのデータの幅(最大)	32ビット

ドライブ

フロントドライブベイ	ディスクドライブ、テープドライブまたはCD-ROMドライブ用5.25インチベイ×3、ディスクドライブ専用3.5インチベイ×1
内蔵ベイ	3.5インチベイ×2(1インチ高のハードディスクドライブ×1、1.6インチ高のハードディスクドライブ×1)

ポート

外部アクセス用:	
シリアルポート(DTE)	16550互換9ピンコネクタ×2
パラレルポート	双方向25穴コネクタ×1
ビデオポート	15穴コネクタ×1(ビデオカード上にあり)
NIC	RJ 45コネクタ
PS/2型キーボード	6ピンミニDIN
PS/2互換マウス	6ピンミニDIN
USB	USB準拠コネクタ×2
オーディオ	マイク入力ジャック×1、 ライン入力/オーディオ入力ジャック×1、 ヘッドフォン/スピーカージャック×1
内部アクセス用:	
プライマリEIDEハードディスクドライブ	PCIローカルバス上の40ピンコネクタ
セカンダリEIDEハードディスクドライブ	PCIローカルバス上の40ピンコネクタ
ディスクドライブ	34ピンコネクタ
CD-ROMドライブオーディオインタフェ	4ピンコネクタ

ース	
リモートウェイクアップ	3ピンコネクタ
ファン	3ピンコネクタ
電話通信	4ピンコネクタ

キーの組み合わせ

<Ctrl><Alt>	システムを再起動する
<F2>	セットアップユーティリティを起動する(POST時のみ)
<Ctrl><Alt><I>	101キーボードでマイクロプロセッサの動作速度を切り替える(MS-DOS®リアルモードのみ)
<Ctrl><Alt><#>	102キーボードでマイクロプロセッサの動作速度を切り替える(MS-DOS®リアルモードのみ)
<Ctrl><Enter>	起動時のシステムパスワードを無効にする

ボタンおよびインジケータ

リセット	押しボタン
電源	押しボタン
電源インジケータ	ライザボード上の緑のLED; スリープモード時は点滅。正面パネル上の2色のLED; 電源入力時は緑、診断時は黄色。
ハードディスクドライブインジケータ	緑色のLED
通信状態インジケータ(NICコネクタ上)	10 Mbでの操作の場合は緑色のLED; 100 Mbでの操作の場合はオレンジ色のLED
動作インジケータ(NICコネクタ上)	黄色のLED

電源

DC電源:	
ワット数	230 W
熱散逸	913 BTU(モニタ以外の全てが装備されている状態)
電圧	90 V~135 V(60 Hz)、18 0V~265 V(50 Hz)
バックアップバッテリー	3V CR2032コイン型

サイズと重量

高さ	44.4 cm
幅	20.6 cm
奥行	43.7 cm
重量	15 kg以上(搭載オプションによる)

環境

温度:	
動作時	10°C~35°C
保管時	-40°C~65°C
相対湿度	20%~80% (結露なし)

最大振動:

動作時 0.25 G(3 Hz~200 Hz、1オクターブ/分)

保管時 0.5 G(3 Hz~200 Hz、1オクターブ/分)

最大衝撃:

動作時 50.8 cm/秒の速度変化でボトムハーフサインパルス

保管時 50.8 cm/秒の速度変化で27 Gフェアドスクエアウェーブ

高度:

動作時 -16 m~3,048 m

保管時 -16 m~10,600 m

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

セットアップユーティリティ: Dell™ OptiPlex™ GX300システムユーザーズガイド

- [セットアップユーティリティの使い方](#)
- [セットアップ項目](#)

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

セットアップユーティリティの使い方: Dell™ OptiPlex™ GX300システムユーザーズガイド


- [概要](#)
- [セットアップユーティリティ画面](#)
- [セットアップユーティリティの起動](#)
- [セットアップユーティリティナビゲーションキー](#)

概要

コンピュータの電源を入れるか、リセットボタンを押すたびに、コンピュータはシステム基板上のNVRAMに記憶されているシステム設定情報と実際に取り付けられているハードウェアを比較します。システムが相違を見つけると、誤ったシステム設定に対してエラーメッセージを表示します。その場合、システムは**セットアップユーティリティを起動**してシステム設定を修正するように指示します。

セットアップユーティリティは以下のような場合に使用します。

- 1 ハードウェアを追加、変更、取り外した後にシステム設定情報を変更する場合。
- 1 ユーザー選択可能項目(たとえば、時刻または日付)を設定、変更する場合。

 **メモ:** オプションの [Dell OpenManage™ IT Assistant](#) を使用して、DMI(デスクトップ管理インタフェース)クライアントによって多くの同じ設定を一括変更することができます。

現在の設定値はいつでも参照できます。設定を変更しても、多くの場合コンピュータを再起動しないと変更は有効になりません。

コンピュータをセットアップしたら、まずシステム設定情報やセットアップ項目に精通するためにセットアップユーティリティを起動してください。<Print Screen>を押してセットアップユーティリティ画面を印刷したり、セットアップ項目の設定内容をメモし、後に障害が発生した際に参照できるようにしてください。

セットアップユーティリティを起動する前に、システムに取り付けられているディスクドライブとハードディスクドライブの種類を確認する必要があります。もしドライブの種類が確認できない場合は、Dell Accessoriesフォルダにある製造テストレポートを参照してください。

セットアップユーティリティの起動

セットアップユーティリティを起動するには、以下の手順を実行します。

- 1 システムに電源を入れます。
システムの電源が入っている場合は、一度シャットダウンしてから、もう一度電源を入れます。
2. [Press <F2> to Enter Setup]ウィンドウが画面の右上角に表示されたら、<F2>キーを押します。

ここで時間をおきすぎて、オペレーティングシステムがメモリにロードされ始めてしまったら、完全にロードさせてから、システムをシャットダウンし、もう一度やり直します。

 **メモ:** システムシャットダウンを正しくおこなうために、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

セットアップユーティリティ画面




















セットアップユーティリティ画面には、現在の設定、設定情報および追加できる設定項目が表示されます。セットアップユーティリティ画面の情報は、以下の4つの領域から構成されています。

- 1 Title — 画面の上端にあるボックスにはシステム名が表示されます。
- 1 System data — タイトルボックスの下の2つのボックスには、システムプロセッサ、レベル2(L2) キャッシュ、サービスタグ、BIOSのバージョン番号が表示されます。
- 1 Options — 画面の主な領域は、コンピュータ内に取り付けられたハードウェア、コンピュータの省電機能とセキュリティ機能を示す項目を含むスクロール可能なウィンドウです。
各項目の隣のフィールドには設定状態または値が表示されます。画面に明るく表示されている値は変更可能です。変更できない(コンピュータによって決定または計算されるため)項目または値は、薄く表示されます。
- 1 Key functions — 画面の最下段のボックスには、セットアップユーティリティで使用できるキーとそれらの機能が表示されます。

セットアップユーティリティナビゲーションキー

表1に、セットアップユーティリティ画面でのセットアップ項目の確認や変更、またはプログラムの終了に使用するキーを示します。

表1. セットアップユーティリティナビゲーションキー

キー	処置
 または 	次のフィールドに移動します。
   または 	前のフィールドに移動します。
 または 	フィールド内の項目を移動します。多くのフィールドで、数値キーを使用して値を入力することもできます。
 または 	ヘルプ情報をスクロール表示します。
	選択したフィールドのポップアップオプションメニューを起動します。
スペースバー または  または 	選択したフィールドのポップアップオプションメニューでフィールド内の項目を移動します。
 	システムを再起動せずにセットアップユーティリティを終了し、直前の状態（ブートルーチン）に戻ります。 ¹
 	セットアップユーティリティを終了して、システムを再起動し、変更した設定を有効にします。
 	選択した項目をデフォルト値にリセットします。

¹ ほとんどの項目では、変更した設定はすべて記録されますが、次にシステムを起動するまでは有効ではありません。項目によっては(ヘルプで示したように)、変更がすぐに有効になるものもあります。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

トラブルシューティング: Dell™ OptiPlex™ GX300システムユーザーズガイド

- [基本チェック](#)
 - [外部コンポーネント](#)
 - [メッセージとコード](#)
 - [内部コンポーネント](#)
 - [ソフトウェアチェック](#)
 - [困ったときは](#)
 - [Dell診断プログラム](#)
-

[目次ページに戻る](#)